

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・ツアーの予約が順調に推移していること、インバウンドが引き続き増加傾向で推移していることから、今後の景気は良くなる。
		商店街（代表者）	・現状、来客数に変化はみられないものの、6月から8月にかけて当地で各種イベントが開催されることから、来客数が増加することを期待している。
		百貨店（販売促進担当）	・これから夏に向けて、様々なイベントが開催されるため、客の購買意欲が上向くと期待している。そのため、今後の景気は徐々に上向くと期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・ホルムズ海峡を通過するタンカーが少しずつみられるようになってきていることから、今後、ガソリンの価格高騰が落ち着くと見込まれる。また、株価が上昇傾向にあること、米の価格が下がると見込まれることもプラスである。こうした動きを受けて、今後、人の動きが活発になることを期待している。
		衣料品専門店（エリア担当）	・これから夏に向かって、気温が上昇し始める時期となることから、夏物衣料の消費拡大を期待している。
		高級レストラン（スタッフ）	・当地は夏場でも涼しい地域であるため、他の地域が暑ければ暑いほど、訪れる人が増えることになる。長期予報によると、今年の夏は、全国的に暑くなるとみられることから、今後の景気は良くなると期待している。
		旅行代理店（従業員）	・これから夏の繁忙期を迎え、当地域を訪れる国内観光客が増加することになる。ただし、インバウンドは、中国便減少の影響が顕在化し、伸びが鈍化することが懸念される。
		タクシー運転手	・6月以降、大きなイベントが相次いで開催されることになる。これから気温も高くなるため、現在よりも、タクシーの利用客が増えると期待している。
		タクシー運転手	・今年4月の値上げ効果により、売上は好調に推移するとみられる。ただし、乗車人数をどの程度確保できるかが課題である。
		タクシー運転手	・今後については、観光シーズンとなるため、利用者数の増加が期待できる。
		通信会社（企画担当）	・これから夏を迎えて、当地域のイベントが増えてくることになる。また、気温が上がってくること、客の外出機会が増えてくることも期待できる。このため、人流が緩やかに増加し、店舗の集客も緩やかに増加することが期待できる。
		観光名所（従業員）	・好調が続きすぎていることで、逆に不安になっている。そろそろ落ち着くのではないかと、理由を探したりするものの、想定した理由を上回るプラス要素が生じている。いまだに当地の人氣が衰えず、絶えず話題に挙がっていることから、今後も景気は緩やかに良くなっていく。
		美容室（経営者）	・5月の来客数の減少は一時的な動きとみられる。客単価は低下していないことから、今後、来客数が回復し、それに伴って、売上も回復することになる。
		百貨店（売場主任）	・インバウンドについて、当面は好調に推移すると見込まれるため、今後も景気は変わらない。
		スーパー（店長）	・今後については、中東情勢の影響次第の面がある。ただし、客が、物価上昇を懸念している様子もうかがえることから、今後も景気は変わらない。
	スーパー（従業員）	・今後については、物価高騰の状況次第の面がある。	
	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げが続くなか、客が必要最低限の商品しか購入しない傾向が強まっている。そのため、値頃感、おいしさ、安心感を訴求した商品を提供し、固定客を増やしていくことが必要になっている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・気温が上昇することで、飲料やアイスの売上が、前年より増えると期待している。ただし、おにぎりや弁当の売上は減少するとみられるため、全体の売上は今後も変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の影響に伴う物価上昇で、客の買い控えが生じ始めている。また、工場で使用するエンジンオイルや板金工場で使用する溶剤などの仕入れにも影響が出始めている。
		乗用車販売店（従業員）	・4月で車両取得時の環境性能割が終了したことで、新車の受注量が増加することを期待していたものの、中東情勢の影響による今後の物価上昇を懸念する客が多く、期待していたほど受注量が伸びていない。整備部門においては、一部の資材の仕入れに影響が出始めており、今後の収益に影響が出る懸念される。
		乗用車販売店（従業員）	・現状、景気が上向くような兆しが見当たらない。
		住関連専門店（役員）	・中東情勢の影響によって、石油化学製品の値上げが生じている。今後、様々な商品に値上げの動きが波及するとみられるため、景気の見通しは不透明である。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・商品の値上げが止まらない。客が買い控えしたり、小容量の商品を買ったりする傾向がみられるようになってきている。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・商品の入荷に支障が出始めている。この状況が改善されない限り、今後も景気は変わらないまま推移する。
		高級レストラン（スタッフ）	・原材料などの値上げが続いていることから、価格転嫁もやむを得ない状況となっている。大きな打開策もないことから、今後の景気は、現状と変わらないまま推移する。
		観光型ホテル（経営者）	・現状、国内客もインバウンドも集客に苦戦している状況が続いている。単価が高くなる夏場の予約状況も悪いことから、今後も厳しい状況が続くことになる。ただし、国際情勢の動向によって、今後の景気は大きく変わってくることになる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・中東情勢やインバウンドの動向などに、今後も大きな変化は生じないとみられることから、景気は変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・中東情勢の影響が続くなか、海外旅行の需要やインバウンドが減少傾向で推移している。国内旅行についても、特筆すべき大型イベントが少なく、需要を押し上げるような好材料に乏しい。これらのことから、今後も景気は変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	・今後、住宅着工数が増えることは見込めない。また、原材料価格の高騰も続くこととみられるため、今後も景気の悪い状態が続くことになる。
		住宅販売会社（従業員）	・今後も、建築コストの高止まりが続くとみられることから、景気は変わらない。また、ナフサの供給動向を注視している。
		商店街（代表者）	・賃上げが物価上昇に追い付いていないことから、税金や社会保険料などの国民負担率が低下しない限り、今後の景気は厳しくなる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・石油化学製品などの価格高騰が解消されない限り、現在と同様の状況が続く。
		一般小売店（経営者）	・世界情勢が落ち着かない限り、景気が上向くことは期待できない。現状のままでは、景気は悪化の一途をたどることになる。
		スーパー（店長）	・現在の景況感、日を追うごとに変わっている。今後の景気は、中東情勢の動向次第である。
		スーパー（企画担当）	・中東情勢の影響によって、金融経済の先行き不安、石油化学製品の供給不安、更なる物価上昇への懸念などの問題が生じている。消費者心理にマイナスの影響を与える材料ばかりであることから、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・石油化学製品の供給不安によって、資材関連の価格が高騰し始めている。中東情勢の先行きが見通せないことから、今後、商品価格にどの程度の影響が出てくるのか不安である。
		スーパー（役員）	・こん包資材や運送費の値上がりにより、今後あらゆる商品で値上げが進むことになる。そのため、客の節約志向はますます強くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・中東情勢の影響による物価上昇により、今後の消費はますます落ち込むことになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（経営者）	・今後も、エアコンやLED照明の販売は好調に推移することになる。また、サッカーワールドカップが開催されることで、テレビなどの販売が増えてくることを期待している。ただし、ナフサ問題の影響で、7月以降、部材などの調達難や価格高騰が生じることを懸念している。
		乗用車販売店（経営者）	・賃金上昇分の価格転嫁は仕方ない面があるものの、今後も物価上昇が続くと見込まれる。物価上昇の影響はじわじわと効いてくることになるため、景気が良くなることは考えにくい。
		乗用車販売店（従業員）	・中東情勢の影響が気掛かりである。部材の供給が少しずつ減っているという情報があるほか、他社ではオイル交換できなくなっている店舗もみられ始めている。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・今後の原油の輸入動向が不透明なことから、石油化学製品の供給不安が生じており、客や従業員の間で、今後への不安が高まっている。こうした状況が落ち着くまで、景気は良くならないとみられる。
		自動車備品販売店（店長）	・中東情勢の影響を受け、商品の値上げが生じたり、商品の入荷時期が未定になったりするといった動きが出ている。これらのことから、今後、客の買い控え、売上の減少といった影響が出てくることを懸念される。
		高級レストラン（スタッフ）	・インバウンドの動向は判断しづらいものの、地元客の外食控えが進んでいることから、今後の景気はやや悪くなる。また、中東情勢の影響を心配する客が増えていることから、外食マインドの一層の低下も懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・世界情勢に大きな変化がみられないなか、海外旅行客の減少は今後も続くことになる。国内旅行についても、原油価格高騰の影響による旅行控えが生じることを懸念している。
		旅行代理店（従業員）	・旅行の問合せ件数が減少している。単に旅行を控えているのではなく、日々の生活における支出全般に対して、慎重な姿勢が強まっていることがうかがえる。今後については、食料品や光熱費などの生活必需品の負担が増えることで、外食やレジャーなどの不要不急の支出を削減する傾向が顕著になることが懸念される。また、将来への不安から、貯蓄を優先し、手元の現金を確保しようとする防衛的な行動が強まることも懸念される。例えば、高額な耐久消費財の購入を見送ったり、より安価な代替品を選ぶ傾向が強まったりすることが考えられ、経済全体的に消費活動が停滞することが懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・物価高、円安、燃料価格高騰の影響により、客の余暇の過ごし方が変わってくることが懸念される。
		タクシー運転手	・全体的に景気が落ち込んでいることで、当社の業績にも影響が出ている。
		美容室（経営者）	・客との会話で、これから物価がどれだけ上昇していくのかといった不安の声を聞く機会が増えている。そのため、今後、美容関連の支出を控える傾向が強まり、客の来店周期が長くなることが懸念される。
		美容室（経営者）	・現状を踏まえると、今後の景気が良くなるとは考えにくい。
	×	商店街（代表者）	・子ども・子育て支援金などの新たな制度が始まったことで、客の節約意識がますます強くなることが懸念される。
	×	商店街（代表者）	・ゴールデンウィーク期間中は、燃料価格高騰の影響で、近場での行楽が多くみられた。また、航空運賃が上昇傾向にあることから、これから夏場にかけて、予約が低調に推移することが懸念される。早めに予約した客は、予定どおり当地を訪れるとみられるものの、これから繁忙期を迎える観光産業にとっては心配な状況である。
	×	スーパー（店長）	・中東情勢の影響などで、今後の商品の値上げは避けられない状況にある。景気が良くなるような要因が見当たらない。
	×	コンビニ（エリア担当）	・中東情勢の影響で、今後の景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	衣料品専門店(店長)	・客の購買意欲を落ち込ませるようなニュースばかりであることから、衣料品業界の経営環境は非常に厳しくなるとみられる。一部の産業だけが盛り上がるのではなく、地域全体に活況が生じなければ、景気は上向いてこない。
	×	タクシー運転手	・今後も中東情勢の影響が続くことになれば、景気はますます落ち込むことになる。
	×	住宅販売会社(経営者)	・中東情勢の影響と長期金利の上昇で、建設不動産の現場は悲惨な状況に陥っている。分譲マンション市場では、建築単価の高騰と建築資材の供給停止により、新築マンションは、客に購入してもらえそうな価格を付けられない状況となっている。また、金利の上昇は、来客数の減少要因にもなっている。金利の上昇は仕方ない面があるものの、建築資材の円滑な流通を確保できるような対策が求められている。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-
		農林水産業(経営者)	・今後については、青果物収穫の最盛期を迎えることから、天候が安定的に推移することで、景気が良くなることを期待している。
		通信業(営業担当)	・半導体関連企業において、今夏の本格稼働を予定している企業が複数あることから、今後の景気はやや良くなる。
		その他サービス業[建設機械リース](営業担当)	・国内の建設投資が底堅く推移していることから、今後の景気はやや良くなる。ただし、人手不足や物価上昇の影響により、先行き不透明感が増している。今期の減益を見込むスーパーゼネコンもあり、今後に向けて注意が必要な状況にある。
		食料品製造業(従業員)	・今後の受注量が大きく増減するような案件は見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
		食料品製造業(従業員)	・製品の内容量を見直し、現状の物と以前の内容量に戻した物の2種類を併売する予定となっている。販売動向をみながら、どちらの製品が良いかを判断していくことになるため、今後も景気は変わらないまま推移する。
		食料品製造業(従業員)	・例年であれば、売上の増える時期となるものの、中東情勢の影響など不安要素が多いことから、売上が例年ほど上向くとは考えにくい。
		家具製造業(経営者)	・中東情勢が落ち着いたとしても、以前の状況に戻るまでしばらく時間が掛かるとみられるため、今後も景気は変わらない。
		建設業(従業員)	・案件はあるものの、人材不足の影響で、受注には至らないケースが生じている。案件を選別せざるを得ない状況にあることから、今後も景気は変わらない。
		建設業(役員)	・上期については、現場のフル稼働状態が続く見通しであることから、今後の受注環境に大きな変化はないまま推移する。ただし、中東情勢の影響により、建設資材の調達難や価格高騰が懸念されており、工期延長や工事原価の上昇を通じて、利益を下押しする可能性がある。
		輸送業(支店長)	・中東情勢の影響と円安傾向は今後も続くため、今後の景気は現状と変わらないまま推移する。
		金融業(従業員)	・輸入物価や企業物価の上昇、賃上げによる人件費の増加、金利上昇が企業収益の下押し圧力となる。今後も、景況感はやや悪く変わらない。
		広告代理店(従業員)	・景気が上向きになるような要因が見当たらない。
		司法書士	・新築物件の少ない状況が続いているものの、中古物件の売買やリフォーム関連の依頼が堅調なため、今後も身の回りの景気は変わらない。
		その他非製造業[鋼材卸売](従業員)	・中東情勢の影響が今後も続くこととみられる。物資を予定どおりに調達できない状況が続くことになれば、仕事ができず、売上が減少することも懸念される。
		建設業(経営者)	・中東情勢の影響が今後も続くことになれば、仕入価格がますます上昇することになり、受注量の減少並びに利益率の低下につながる懸念される。
		司法書士	・今後については、輸入品の価格上昇、石油関連製品の値上げや不足が生じることが懸念される。一方、景気が良くなるような要因はないため、今後の景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・受注量が減少しそうな雰囲気があることから、今後の景気はやや悪くなる。
	x	金属製品製造業（従業員）	・中東情勢の影響が本格的に出てくるのは、夏場以降になるとみられることから、今後の景気は悪くなる。建設業界の経営環境はますます厳しくなり、倒産する会社が出てくることも懸念される。
雇用 関連		-	-
(北海道)		人材派遣会社（社員）	・企業が少しでもスキルの高い人材を求める動きは、今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・中東情勢の影響が解消されたとしても、企業の採用活動はしばらく変化のないまま推移することになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新卒者向けの合同企業説明会の参加者数が大幅に減少しており、地方都市である当地においても、学生の集客に苦戦している。進学や就職に伴って、若年層が道外に流出する傾向も続いている。一方、人材紹介サービスや就職活動アプリを活用する学生が増えており、学生の情報収集や企業選択の手法が変化していることがうかがえる。従来型のイベントだけでは、学生との接点づくりが難しくなっている。
		職業安定所（職員）	・当地の新規求人数は前年比で0.5%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。一方、月間有効求人数は、6か月連続で前年を下回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることが懸念される。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の減少が続いているものの、それが景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。そのため、今後も景気は変わらない。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は変わっていないものの、求職者を企業が奪い合っているような状況にあることから、今後も景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・効果的な対策が打ち出されない限り、今後も景気は下向きで推移することになる。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響が解消しない限り、世の中のマインドは変わらない。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響が、生産者にも消費者にも及んでいる。今後、燃料価格や物価がますます上昇することが懸念されるため、景気はやや悪くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・人手不足が続くなか、求職者とのミスマッチが続いていることから、短期間で景気が好転しにくい状況にある。そのため、今後の景気は、横ばい又はやや悪い状態で推移することになる。
	x	*	*

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		テーマパーク（職員）	・気温の上昇とともにプールなどのレジャー需要が本格化するため、ファミリー層を中心に利用者数の増加が見込まれる。それに伴い、飲食や物品購入などの消費活動も活発化し、景気は上向くとみている。
(東北)		商店街（代表者）	・夏祭りを始めとしたイベント開催などにより、観光客の増加が期待できる。
		百貨店（経営者）	・新規顧客や県外客の増加により、来客数の増加は続くとみている。
		コンビニ（経営者）	・夏に向けた本部施策に期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・例年より暑くなる見込みのため、冷たい商材の販売拡大が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の投入により販売数が伸びるとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車効果が見込める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（店長）	・中東情勢や価格上昇の影響により消費マインドは低下しているが、一過性とみている。各社が国内で新型車を発表し、価格改定も進んでいることから、市場全体としては盛り上がりつつある印象を受ける。
		都市型ホテル（支配人）	・インバウンドに加え、夏休み期間などがあり国内客の予約も好調である。
		旅行代理店（従業員）	・自治体が発行している宿泊クーポンが好調で、既に予算額を消化したとの情報がある。6～7月の該当日において稼働が上がるとみている。
		通信会社（経営者）	・サービスエリアを拡大したため、放送サービスを中心に新規加入者数の増加が期待できる。また、拡大エリアが大学地区のため、通信サービスについても集合住宅や学生寮等の一括導入が期待できる。
		観光名所（職員）	・ガソリン価格や輸送コストは高騰しているが、来客数、売上に減少はみられない。インバウンドの予約も好調である。
		競艇場（職員）	・夏場は来場促進イベントを多数計画しており、売上増加を見込んでいる。
		その他住宅[リフォーム]（従業員）	・エアコンの省エネ基準変更による駆け込み需要は増えると思われている。また、補助金を活用したリフォーム工事も増えると思われている。
		商店街（代表者）	・中東情勢の先行きが不透明であることから、景気停滞が続くとみている。
		一般小売店[医薬品]（経営者）	・来客数の減少により、今月の売上は前年比96.8%になっている。来月以降も客足は鈍いまま変わらないとみている。
		一般小売店[医薬品]（経営者）	・今月のような急激な来客数の減少は過去になく、これ以上の悪化は考えにくい。
		一般小売店[寝具]（経営者）	・景気が良くなれない限り、厳しい状況は続く。
		一般小売店[茶]（経営者）	・中東情勢の先行きは不透明だが、現状の様子から景気は少しずつ良くなっていくとみている。
		一般小売店[酒]（経営者）	・景気が停滞するなかで物価上昇は続くと思われている。消費者の不安は大きく、金を使いきにくい状況は変わらない。不透明な先行きに不安しかない。
		百貨店（企画担当）	・来客数の減少が続いているなか、物価高の影響も続くと思っており、先行きは不透明である。
		百貨店（従業員）	・中東情勢に伴う資材の供給不足や各種物価高など、生活防衛意識による買い控え傾向は継続し、景気に変化はみられないと考える。
		スーパー（経営者）	・6月には食品等の値上げのほか、公共料金やインフラ経費の負担増もあり、消費環境は一層厳しくなる。価格抑制対策により買上点数はやや回復しているが、前年には至らない。当面の消費環境は変わらないとみている。
		スーパー（店長）	・消費が落ち込む月に入るが、自治体発行の商品券の効果はもうしばらく続くとみている。
		スーパー（店長）	・値上げが相次ぐなかで、販売点数は伸び悩むが単価が上がっているため、売上は前年並みとみている。
		スーパー（店長）	・食品の値上げが続いているため、変わらないとみている。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格の高止まりなどの影響から客が移動回数を減らすために買物の回数を減らしていると考え、今後同様の動きが予測される。
		スーパー（店長）	・節約志向が高まるなかでも、必要な物を必要な分は購入する傾向は変わらないとみている。
		スーパー（店舗運営）	・来客数は現状並みで推移する見込みである。ただし、原油価格高騰に伴う値上げの影響により、買い控えの動きが強まり、食料品の購入に影響が出ていることを懸念している。
		スーパー（業務担当）	・中東情勢の先行きが不透明で、好材料が少ない。
		コンビニ（経営者）	・ガソリンや食品の値上がりの影響が大きい。当店でも食品や雑貨を始め、全体的に価格が上昇しているため、売上は横ばいで推移している。先行きは悪化の懸念はあるものの、現状維持にとどまることを期待している。
		コンビニ（経営者）	・当地域は人口が年々減り続け、給与水準も全国と比べて低いため、当店の経営が改善されることはなく、悪化が続いていくとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・盛夏の天候、気温により変動するが、全体的な動きは変わらないとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数の減少は今後も続くともみている。景気の本格的な回復は見込めない。
		コンビニ（店長）	・良くなる要素がない。
		衣料品専門店（経営者）	・お中元商戦に向けて、訪問回数の増加やギフトカタログの配布等を行い、売上に結び付けていく。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高騰による節約志向は続くともみている。
		乗用車販売店（従業員）	・メーカーの生産量と配車量に大きな変動がない限り、販売店の利益が大きく増えることはない。
		住関連専門店（経営者）	・現在の受注残をみると、物件数、金額共に減少しており、今月とさほど変わらない。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・国内だけでなく世界情勢の影響もあるため、想定どおりには進みにくいとみている。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・中東情勢など先行きの不透明感や物価上昇、品不足の影響により、消費者は生活を守ることを優先して、趣味や旅行に支出する割合が減少している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢が落ち着いたとしても、商品の需給バランスの乱れは続くともみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢が落ち着くまでは資源や製品の不足は解消されず、販売量の増加は難しいとみている。
		高級レストラン（支配人）	・来客数は低水準で横ばいが続いており、回復の兆しはないため、3か月先も変わらないとみている。
		一般レストラン（経営者）	・予約は小規模な宴会が多く、大人数の宴会はないため、やや悪い状況は変わらないとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・中東情勢次第である。
		観光型ホテル（スタッフ）	・好転する要素が見当たらない。
		観光型旅館（スタッフ）	・観光ニーズが高まる時期のため、今月と変わらないとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏は国内旅行の需要が高くなるため、来客数に変化はないとみている。
		タクシー運転手	・7～8月は暑くなることに加え、お盆休みもあることから利用者は多くなる。
		通信会社（営業担当）	・好転する材料に乏しく、現状維持とみている。
		通信会社（営業担当）	・例年並みの実績が続くとみている。
		美容室（経営者）	・物価高の影響により、支出を抑える動きは続くともみている。
		美容室（経営者）	・客の様子をみると、旅行やイベントへの参加など行動が活発になっているようで、来店周期も早まっている。しかし、物価上昇による経費増加もあるため、景気が良くなるとは言い難い。
		美容室（経営者）	・暖かくなると髪の手入れをする人が増える。
		商店街（代表者）	・周辺を通る車や歩行者の数が減っている。当店の予約も社用関係が決算期に入ることもあり、8月頃までほとんど入っていない。
		商店街（代表者）	・物価高が止まらない。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・今月はゴールデンウィーク期間を含めて良かったが、夏は例年動きが悪くなる。さらに、中東情勢の影響が不透明である。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	・中東情勢の影響によるエネルギー不足がプラスに働くことはない。
		百貨店（経営者）	・資材包材の値上げ報道が多くなっており、物価高による生活防衛意識は一層高まっている。夏場に向けてのギフト市場でも、贈り先の絞り込みなどによる客単価の下落を懸念している。
		スーパー（商品担当）	・ナフサ不足の影響により物価上昇に拍車がかかり、消費は低迷するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販促担当）	・小売業界では、ナフサ関連の影響により6月から食品トレーや袋など一部商品が値上げされる。中東情勢の先行きは不透明だが、ナフサ不足が続く場合、値上げが続き、川上・川中・川下にわたって景気の改善は見込めず、結果として景気は悪化するとみている。
		コンビニ（経営者）	・来客数が前年比95%と大幅に減少し、販売点数も前月まで前年比プラスで推移したが、今月に入り横ばいになっている。
		コンビニ（経営者）	・商品価格の上昇と来客数の微減は継続するとみている。販売量の上振れは当面期待できそうにない。
		衣料品専門店（経営者）	・暑さは続いているものの、夏物は終わりの時期になり、秋物が動くにはまだ早いため、需要は期待できない。
		衣料品専門店（店員）	・晴れ着や節目の準備を目的とした来店が多いため、冠婚葬祭や式典、企業主導のイベントが増えれば需要は増加する。しかし、現在の接客状況からは、そのような動きはみられない。
		衣料品専門店（総務担当）	・他業種においても業績が厳しい企業が多い。周辺企業の業績が改善しなければ、小売業もその影響を大きく受けるため、明るい見通しは立たない。
		家電量販店（従業員）	・ナフサ不足により、エアコンの部材不足やそれに伴う取付工事の遅延が発生し、影響が出るとみている。
		家電量販店（従業員）	・気温が更に高くなり、エアコンを中心とした夏物商材が売れることを期待したいが、中東情勢の影響により石油由来の部材が軒並み品薄状態にあり、既に配管カバーなどは納期が未定となっている。部材不足により取付工事ができない状況も想定されることから、2～3か月先はやや悪くなるとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数は低迷しており、メーカー施策だけでは不十分であるため、個社施策を併用して取り組んでいるが伸び悩んでいる。また、用品や部品の価格は、今後更に上昇することが決まっている。
		乗用車販売店（従業員）	・現状、販売量が落ちており、この先も期待できない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・2～3か月先はエネルギーコストの更なる上昇が懸念される。また、中東情勢の影響による修繕資材の高騰により、設備維持のための投資コストの増加も見込まれる。さらに、保険料の高騰などを背景とした人件費の増加もある。各種コストの増加に伴い売上に対する利益幅が縮小している状況から、先行きの見通しは厳しい。
		一般レストラン（経営者）	・6月もいろいろな商品の値上げが予定されており、支出に慎重な姿勢は更に強まるとみている。レストランは特別なことがあったときだけ行く場所だとする傾向が高まることを懸念している。
		一般レストラン（スタッフ）	・平日ランチタイムの来客数が減っており、致命的になりそうな気配がある。
		観光型旅館（経営者）	・中東情勢に起因するナフサ不足に加え、物価高騰や品不足への懸念など不確定要素が多すぎる。好転する兆しはみえない。
		旅行代理店（従業員）	・中東情勢の終息が見えない。
		通信会社（営業担当）	・物価は更に上昇するが給与は上がらない。
		通信会社（営業担当）	・中東情勢の先行きが見えない。
		通信会社（営業担当）	・周りを見ても、良くなる材料が見当たらない。
		観光名所（職員）	・ここ1年、予約数は前年実績を上回り来客数が増加していたが、来月の予約数は前年実績を下回っている。今月は振り客に支えられているが、この先は若干落ち込む気配が見え始めている。
		観光名所（職員）	・予約数が伸びていない。
		遊園地（経営者）	・中東情勢や物価上昇の影響により、節約志向が強まるおそれがある。
		ゴルフ場（支配人）	・中東情勢が長期化すれば、国内経済に悪影響を及ぼし、消費行動にも影響が出るとみている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・中東情勢の影響がいつまで続くか見通せない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・実質賃金がマイナスの状況が続くなか、燃料費や電気料金に加え、医療費も上昇しており、節約志向が高まっている。先行きは不透明である。
		住宅販売会社（従業員）	・良くなる材料が見当たらない。
	×	商店街（代表者）	・今後も物価上昇は続き、消費は冷え込むとみている。
	×	スーパー（経営者）	・中東情勢の影響により、6～8月は値上げラッシュが続く。電気料金も高騰が続く。
	×	コンビニ（経営者）	・6月末に近隣で総合ディスカウントストアの出店が予定されており、現在の来客数の伸びはなくなるとみている。
	×	衣料品専門店（店長）	・競合店の完全閉店セールが残り1か月間続く。また、食料品の値上げが増加している。景況感は一方向に回復していない。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・既に追加値上げの打診が来ており、即価格に反映するような内容になっている。米価の急騰や物価上昇、中東情勢の影響もあり、今までにない速さで段取りの変更が進んでいる。
	×	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・夏場の売上は非常に厳しくなると予想している。最近では事務服の廃止も増えており、夏物事務服に代わってポロシャツなど簡易的なものが売れているが、単価が全く違うので厳しい状況である。夏場の制服の概念が変わってきているなかで、売上を作るのは非常に厳しい。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価上昇が続くなか、消費マインドは抑制方向に向かい、景気は徐々に停滞していくとみている。来店客からも物価が高いという話をよく聞く。
	×	一般レストラン（経営者）	・中東情勢に不透明感があるなかでの景気回復は難しい。仮に情勢が落ち着き、景気対策が講じられたとしても、効果が出るまで時間を要することから、当面の景気は悪化するとみている。
	×	設計事務所（経営者）	・地元設計事務所が関わることができる官公庁事業は、件数が減少又は小額化しており、人材不足もあいまって、目標の受注金額や案件数に到達できないことが予測される。
企業 動向 関連 (東北)		建設業（従業員）	・大型の民間インフラ案件の契約が控えている。
		金属製品製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、物資調達のコスト増加や不安はあるものの、受注予測としては上向いている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・ここ2～3か月は客先からの引き合いや受注の積上げ状況が良くなっており、この先も期待が持てる。
		その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・株価の動向や中東情勢の改善を受けて、景況感は上向くとみている。
		農林水産業（従業者）	・資材費の高騰が続いているため、販売価格を上げられればよいが、価格が据置きだと厳しくなる。ナフサ由来の原料不足の影響により利益が減る可能性もある。販売価格次第である。
		食料品製造業（製造担当）	・売上が週末に集中しており、平日との格差が大きい。平日の地元客の集客対策を実施している。一方、資材納入の不安定さが各方面に影響を及ぼしつつある。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢が収束しない限り、悪い状況は変わらない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・年内納期の案件は少なく、納期が年明け以降の相談がほとんどである。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連部材の供給遅延もあり、取引先から示されている先行き見通しを下回る受注予測となっている。
		建設業（従業員）	・資材は、価格が高騰しているほか、納入できないケースが散見される。数か月前から注文している分は確保できているが、今後注文する分は確保できるか不透明である。
		建設業（従業員）	・資材の価格高騰や納品遅れもあり、受注を増やすことが難しい。景気は変わらない。
		建設業（従業員）	・中東情勢の影響は懸念されるものの、現状は変わらない。
		通信業（営業担当）	・取引先に対しては、マイナス要素を避けながら辛抱強く提案を続けていく。
		通信業（営業担当）	・特段の動きはないため変わらないとみている。
		広告業協会（役員）	・先行きの経済情勢が不透明であることから、必要最低限の販売促進費にとどめる企業が多い。広告業界の業績は当面、微減で推移する見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（経営者）	・相変わらず人手不足感はあり、採用目的の企業認知向上意欲は高い。しかし、経済が不安定であるため、積極的な投資にはつながりづらい印象を受ける。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・原油価格の上昇や食品メーカーによる値上げの報道が相次いでおり、景気が上向くとは考えにくい。
		食料品製造業（営業担当）	・原材料価格の高騰が利益を圧迫しているため、商品の価格改定を検討しているが、値上げによる更なる売上減少が懸念される。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢の影響により石油関連製品が品薄となっている。メーカー各社からは、値上げを前に在庫処分を進めるための提案依頼が殺到している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、原材料、オイル類等の価格高騰や調達が非常に困難な状況が続いている。先行きが不透明であることから、2～3か月後はやや悪くなるとみている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響により塗装業者が稼働日数を減らしており、治具を製作、提供する当社へも影響が出ることが予想される。
		輸送業（経営者）	・中小企業においては、前月にも増して燃油や石油由来の原材料の調達が厳しくなっている。仮に中東情勢が早期に解決したとしても、これまでに生じた影響が解消され、サプライチェーンが正常化するまでには長期間を要する見込みである。
		通信業（営業担当）	・大手キャリアの料金改定により、コスト意識の高い客の乗換えが活発になる見込みである。
		金融業（広報担当）	・ナフサ不足から原料や資材の調達が困難となる事業者が、塗装業、内装業、クリーニング業、縫製業など特定の業種で増加しており、在庫も枯渇しつつある。今後も中東情勢に変化がなく、在庫が完全に枯渇した場合、受注や生産がストップし、影響は最終消費者にまで波及する可能性が高い。
		広告代理店（従業員）	・中東情勢の影響により、インク代や用紙代の値上げに関する連絡が前月より更に増加している。冊子類を印刷せずオンライン配信に変更するといった顧客の動きもあり、2～3か月後には売上に大きく影響することが見込まれる。
		経営コンサルタント	・原油調達をめぐる供給不安に加え、関連する物価の上昇が続くとみている。
		司法書士	・資材の不足や高騰が住宅関連業務に悪影響を与えることが見込まれる。
		公認会計士	・石油由来の製品が不足して、原料や小売品等の値上げが続いている。この状況が続くようならば、小売業やサービス業の業績も悪化しそうな雰囲気がある。そして、製造業、建設業関係の業績は更に厳しい状況が続く、全体としてはやや悪くなるとみている。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・中東情勢次第だが、原料・資材価格の高止まりは続く見通しであり、個人消費の冷え込みも予想されることから、景気回復は遅れるとみている。
	×	農林水産業（従業者）	・今年の新米価格は、前年産米の出荷価格に比べて大分下がるかとみている。
	×	木材木製品製造業（従業員）	・現状の資材不足や物価高騰、納期遅延といった諸問題が、今後3か月間で解消に向かう見通しは立っていない。それどころか、仕入価格の高止まりや調達難の長期化により、更なる失注や入札不調のドミノ倒しなどより深刻な悪循環へ連鎖していく懸念が極めて強い。現時点において、これら悪条件を払拭できるような新規の受注案件や先々の明るい見通しは全く立っておらず、企業の採算性と事業活動は更に悪化すると考えている。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	・官需、民需共に受注が減少しており、厳しい状況が続く。
	×	不動産業（従業員）	・大企業向けの高額物件の取引は減少するとみられ、中小企業は様子見が続く。個人向けは金利上昇も重なることから、厳しい状況が続くと予想する。
雇用関連		-	-
		人材派遣会社（社員）	・AIが進化し、社会に急速に浸透しているため、半導体などを中心に景気押し上げ要素が強くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東北)		人材派遣会社(社員)	・求職者数は現状で回復傾向にあるものの、不安定な動きが続いている。求人数は好調に推移している。
		新聞社[求人広告](担当者)	・見通しが立たない状況である。
		職業安定所(職員)	・物価高騰や中東情勢の影響により先行きに不透明感がある。情勢が好転しなければ状況は変わらない。
		職業安定所(職員)	・4月の新規求職者数は前年比では5か月ぶりに減少に転じた。新規求人数は底堅さはあるものの、主要7産業のうち前年比増となったのは建設業、製造業、運輸業であり、卸売・小売業、宿泊・飲食業、医療福祉、サービス業では減少となっている。今後は、中東情勢の影響もあることから、横ばい圏内で推移するとみられる。
		職業安定所(職員)	・今後の情勢を不安視する声が多く聞かれる。徐々に影響が出てくる可能性が高い。
		その他雇用の動向を把握できる者	・物価高が続く限り、企業の利益が圧迫される状況は続くと思われる。
		人材派遣会社(経営者)	・中東情勢の影響による石油由来製品の不足により、リフォーム関係の企業の中には営業自粛若しくは停止しているところがある。機械メーカーでは潤滑油を確保できず、8月以降の操業体制を見直さなければならない状況にある。
		求人情報誌製作会社(経営者)	・求人広告を出している企業の多くが、募集しても希望する人材からの応募が乏しく、特に若い人からの応募がないと話す。当県でも働く世代の流出が既に進んでいる可能性がある。働く人がいなければ景気が上向くこともなく、先行きも明るくない。
		職業安定所(職員)	・中東情勢の影響により、燃料油や資材の価格高騰、調達不足が生じており、事業所からは今後を不安視する声が多い。解雇や休業など雇用調整の動きは現時点で見受けられないが、引き続き注視していく必要がある。
		学校[専門学校]	・中東情勢などによる経済活動の停滞が懸念される。
	×	アウトソーシング企業(経営者)	・長期契約などもあり、価格転嫁が難しいケースが増えるともみている。
	×	新聞社[求人広告](担当者)	・中東情勢の長期化により物価高が続き、景気は悪くなる。

3. 北関東(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)		-	-
		一般小売店[茶](経営者)	・地域通貨の配布による消費喚起に加え、比較的購買意欲の安定しているシニア層の来店も見受けられ、今後の売上回復に期待している。
		一般小売店[酒類](経営者)	・お中元等の贈答品に動きがあるため、良くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・値上げの影響もあるが、夏場に向かい飲料等が売れていくのは変わらないため、やや良くなる。
		家電量販店(店員)	・今以上の伸びは期待できない。理由はエアコン取付工事が原油やナフサの関係で工事部材が不足し、遅延しているからである。ただし、エアコンの販売量は伸びていくとみている。
		家電量販店(営業担当)	・全体的に販売商材が前倒しになっているため、9月以降の売上は厳しいと考える。5月は売上が前年比105%、来客数は107%で推移している。
		一般レストラン[居酒屋](経営者)	・相変わらず、物価や光熱費などマイナス要因はあるものの、暑さが到来すると、一時的に飲食の人流は増える。経済対策にも期待したい。
		一般レストラン[居酒屋](経営者)	・2~3か月先の予約や問合せが増えてきている上に、夏に向けて暑気払い等の宴会が動くのではないかと予想している。
		都市型ホテル(経営者)	・現時点でも宿泊の予約数は好調である。
	タクシー(経営者)	・全体的に動きが良くなっているため、この先も良くなるとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・重点支援地方交付金を利用したフリーの客足が期待できる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・売上の9割が納品で、納入先は病院、施設、幼稚園等が多い。病院では料理を作る人が足りないために委託やレトルトに切り替わる等が多くなっており、売上が減少傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	・この先はイベント需要や行楽シーズンの到来により、飲料、米飯、軽食等のデイリー商材の販売伸長が期待される。一方で、物価上昇に伴う生活防衛意識から販売量自体は低迷傾向にあり、客の買い控えも継続していることから、売上面で一定の押し上げ要因は見込まれるものの、消費全体の回復や景況感の改善につながるかは、引き続き不透明な状況である。
		コンビニ（店長）	・来客数は何とか回復しており、各種値上げの影響から、買上単価の上昇を望みたいが、以前を下回る状態が続いている。
		家電量販店（企画担当）	・新たな省エネ基準の開始を背景に、夏の最需期にかけて、エアコンの売上は堅調に伸びていく。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは、生産台数が順調に横ばいで推移している。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りでこれといって良くなったり悪くなったりするような根拠は、今のところ見当たらない。
		住関連専門店（仕入担当）	・現状は、消費の先食い感が強く、物価上昇による節約意識は変わらない。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食事業について、調達面の先行きが見通しにくい。手袋類や包装材に品薄感が出ている。また、天候不順も予想されている。調達面や価格面への影響が、どこにどの程度出てくるのかが分からず、業績面への悪影響も避けられないのではないかと懸念される。
		都市型ホテル（支配人）	・夏休み期間に入るため、宿泊部門は高稼働が予想される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊は団体予約を例年よりも多く受けており、堅調である。他県で開催のイベントに関連して、宿泊予約が入っている。イベントの広域化が進んでいると実感している。前年より宴会も予約件数が若干増えており、良い傾向である。6月の総会時期の取りこぼしがないように気を付けたい。
		旅行代理店（所長）	・今後やはり中東情勢の状況次第ではないかと考える。夏休みシーズンに入るため、それまでに状況が良くなっているかが懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・海外案件が、燃油関係で軒並み変更となっている。今年の冬以降の動きも始まるため、石油問題が気掛かりである。
		旅行代理店（営業担当）	・夏休み本番を迎えるが、今夏のボーナス次第である。大手を含め夏のボーナスは期待できそうだが、旅行業界は景気の恩恵を最後に受けるため、この先は変わらないか悪くなると予想される。
		住宅販売会社（経営者）	・引き合い等が大変少なく、なかなか成約に結び付かない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・現状が好転したとしても現場レベルの改善は更に遅れるため、今後数か月は変わらない。
		商店街（代表者）	・中東情勢の動きに敏感に反応している人が多く、生活防衛的に節約志向が更に進むとみている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・今年のゴールデンウィークは、周辺の同業者からも、長い休みで入出を期待していたがさほどではなかったという声を多く聞いている。中東情勢の不安定な状況に伴う先行きの不透明感が、観光に出掛けようとする消費者心理に暗い影を落としている。今後もこの状況は続くと思われ、また、販売備品や商材自体の供給が滞りつつあるため、来客数の減少並びに商材不足に伴う売上機会損失を見込んで、今後の景気は悪くなる。
		百貨店（営業担当）	・今後値上がりが見込まれている物や値上がりが予測される商材の売上が伸びている。現状、商品在庫や価格状況は比較的落ち着いているが、客も情報に敏感になっていることから、先回りして対応を取る必要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（店長）	・中東情勢の不安定化等により、今後は更なる物価上昇が予想される。せつかくの賃上げによる可処分所得の増加効果も相殺されるリスクがある。消費者のマインドが慎重になれば、個人消費の伸びは限定的なものになる。
		スーパー（総務担当）	・ナフサ関連の影響は大きい。まずは中東情勢が解決しないと景気は良くならない。
		スーパー（経営企画）	・物価上昇と賃金上昇がリンクしていないため、実質賃金が減少していく。
		乗用車販売店（従業員）	・物価高の影響から、自動車購入も新車から手の届きやすい軽自動車や中古車を選択する傾向にある。また、下取り車両の流入減少に伴い、販売商材の確保が課題になっている。
		一般レストラン（経営者）	・ナフサ不足で、既にラップなど生活必需品がなくなっており、値段も上がっている。米のときと同じで落ち着くまでは家計にかなり響くのではないかとみている。外食は特別な日になってしまう可能性がある。
		観光型ホテル（経営者）	・6月と7月分の予約件数が非常に悪い。株価と实体经济、景気がかい離していることや、落ち着かない中東情勢、更に、急激な金利の上昇や終わりのない円安、物価高に苦しめられ、旅行需要が非常に弱くなっている。
		旅行代理店（経営者）	・5月が7月より忙しいため、やや悪くなる。
		タクシー運転手	・6月からの料金改定により、かなり悪くなるとみている。
		通信会社（社員）	・当社の販売量にも中東情勢の影響が出ると考えている。収益構造を見直し、環境の変化にも耐えうる経営体質を確立すべく行動していく。
		通信会社（営業担当）	・引越し業界では、前年と比べ人の動きが鈍く、物価高の影響から支出を抑える傾向が強くなっている。また、世界情勢の影響により、消費を含め、全体的に消極的になっている。
		通信会社（総務担当）	・最近の情勢で、取扱商材が値上げをしているため、販売減少は避けられない。
		テーマパーク（職員）	・中東情勢による石油関連商材の品薄等、営業継続に影響を与えかねない不安定な状況もあり、楽観視できない。
		設計事務所（所長）	・今後も物価対策が進まない限り、景気が良くなると考えられない。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・全ての物価が高騰しており、これ以上進むと本当に中小企業は沈んでいく一方になってしまう。
	×	スーパー（商品部担当）	・中東情勢の影響、食料品の値上げと、家計に良い話はない。良くなる理由は見当たらず、どこまで消費が落ち込むのかが不安要素が大きい。現状も買上点数、客単価の落ち込みが大きく、売上は低迷している。
	×	乗用車販売店（経営者）	・国内、米国、さらには中国、ロシア、どこの国も不安定である。
	×	その他専門店（総務担当）	・仕入単価の上昇で、悪くなる。
	×	通信会社（経営者）	・客の消費意欲がない上に、ナフサの供給不安定により商材が入荷しない現象が起きている。仮に国内にナフサが入荷していても、サプライチェーンにナフサがなければ、今後もこの現象が続く。
	×	通信会社（局長）	・世界情勢が不安定で、石油製品の不足、エネルギー価格や物価の上昇は止まらない。いまだ、先行きが不透明な状況で、消費者の買い控えもだが、企業業績が悪化すれば、賃金やボーナスにも影響が出て、今後は負のスパイラルに向かっていくのではないかと慎重にならざるを得ない。
	×	ゴルフ場（従業員）	・今夏も長期的に猛暑日が続く予測が出ており、一部地域では40度近い酷暑となる可能性もあるなど、例年以上に厳しい暑さが懸念される。また、中東情勢の緊迫化によるエネルギー価格の上昇や物流コストの増加を背景に、6月以降も様々な商品の値上げが続く見通しのため、悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・良くなる要因が全くなく、悪くなる事が確定している。
企業動向関連		-	-
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢が終結するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
(北関東)		経営コンサルタント	・一部の中小製造業で、中東情勢の影響による資材価格の高騰前の駆け込み需要による反動減が予想される。一方で、中小部品製造業では今後の受注増加が期待されるところもある。	
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・身の回りの諸物価が高くなっており、今後どのような影響が出るか心配である。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・今後の中東情勢次第で状況が読めない。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・中東情勢が落ち着けば、原油不足等も解消してくる。それまではやや厳しい状況のままではないかと考える。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先の受注量はほとんど変わらないが、その先は中東情勢により、受注や仕入材料等に対する不安がある。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・仕事が停滞していたゴールデンウィークが明けて、6月は若干回復してくるとみている。	
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・依然として、物価高の状況も続いている。	
		輸送業（営業担当）	・夏を前に、エアコン、扇風機、サーキュレーター等の夏物家電の物量は前年並みを確保予定である。しかし、中東情勢等の影響により輸送コストが上昇している。燃料価格の高騰、エンジンオイルの問題と用車費等のコスト高もあり、今後の展開によって大きく変わるため、先行きは分かりにくく、運行状況も難しい。	
		司法書士	・小さな街なので、特別これという仕事が飛び込んでくることはほとんどない。このまま変わらない動きが続くとみている。	
		社会保険労務士	・今回の夏のボーナス支給までは現状のままだろうが、中東情勢がこのまま長引けば物価が更上がるため、景気に影響が出てくる。	
		食料品製造業（経営者）	・原材料価格だけでなく、石油由来の資材価格が上昇、あるいは入手困難に陥る可能性もあるとの予想から、事業継続自体が危うくなるとの見方も出ている。	
		化学工業（管理担当）	・材料が入手できなければ、最悪の場合、操業停止に追い込まれる。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・現状の様々な資材不足の影響が広がれば、景気へのダメージは深刻になるのは間違いない。	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産は計画どおりに進んでいるものの、中東情勢の影響が、生産に関わる資材価格や納期等に出始めている。先行きは不透明である。	
		建設業（総務担当）	・全体的な仕事量が足りない上に、発注見通しをみても回復するとは考えにくい。	
		金融業（営業担当）	・取引先では、石油由来の製品の不足が発生してきており、完成や引渡し等が延期となる可能性が出ている。	
		広告代理店（営業担当）	・物価高、材料不足等、悪い方へ向かっている。	
		×	金属製品製造業（経営者）	・石油製品については数量は確保できるものの、価格が上昇しているため、節約傾向で事業を行う予定である。
		×	不動産業（管理担当）	・管理物件の事務所ビルの多くに空室がある。ここ数年、退去はあるものの、入居はない。問合せも減っており今後も入居の期待は少ない。また、日常の清掃で使用しているゴミ袋や使い捨ての手袋、ガムテープ等も中東情勢の影響によるナフサ不足から供給が減少している上に値上がりが続いている。テナント収入が増えないなかで、管理業務のコストばかりが増加して利益を圧迫している。
雇用 関連 (北関東)		-	-	
		人材派遣会社（管理担当）	・派遣業務の依頼数が増加しているため、やや良くなる。	
		人材派遣会社（社員）	・物価高騰で工場の資材調達に影響が出ているが、販売価格に転嫁できないため、人件費を抑えている。そのため、増員の依頼は少なく、あくまでも欠員補充で対応している取引先が多い。	
		職業安定所（職員）	・新規求人数が、前年同月と横ばいで推移している。	
	学校〔専門学校〕（副校長）	・分野によっては人手不足のため、就職は売り手市場であることは間違いないが、物不足により売上が下がる状況も考えられるため、景気は不透明な部分がある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（経営者）	・建設、建築関係は動きはあるものの、材料費等の関係や人員の能力がなかなか試せない、生かせないといったところもある。また、外国人に頼っているところも見受けられる。零細製造業や電機、自動車等の下請、中小企業はやや動きが鈍く、材料費の調達が難しい気配がうかがえる。
	x	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・インハウンドの売上が好調であり、毎月その分がプラスになっている。ただし、ナフサ不足により各文具メーカーも通常どおり生産できていない商材があるため、店頭で入荷未定の商材が出てきている。客が来店しても、必要とする商材が欠品して販売できない状況が発生している。商材の値上げがあっても売上にさほど影響はないが、商材が入荷しないことによる販売機会損失が懸念される（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・食品売上が国内需要を引っ張る一方、免税売上也前々年を上回る勢いに回復している。また、外商客を中心に宝飾、時計、美術品の売上也堅調であり、この傾向はしばらく続く（東京都）。
		百貨店（店長）	・当社はテナントの新規出店が増加している。また、取引先の戦略で建築費用は上がっているものの、出店ラッシュは継続する声がある。習い事の新規入会も増えており、生活苦は見受けられない。
		コンビニ（従業員）	・夏の間は付近の公園でプール営業があるため、売上が伸びる。利用客が増えるが、前年実績を超えられるか、夏は特に重要である。
		乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が安定することが前提である（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏季シーズンに向けて客が取り込めているため、良くなる見込みである。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・夏場は更に依頼が多くなる。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・この先また商材が売れそうである。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・客に、値上がりしているが必要な物は買わざるを得ないという様子が見受けられることと、株価も上がっていることから、これから先は多少良くなるとみている（東京都）。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・夏に向けて少しずつだが動き出している。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・夏になると更に日ざしが強くなり、サングラスの購買率も増え、売上増加に期待が持てそうである。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・引き続き遮光遮熱効果の高い晴雨兼用傘の需要が伸びる。
		百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向からみて、やや良くなる（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・地政学リスクの後退による消費マインドの向上が景気を押し上げる（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・数か月先も同様の動きをしていく。また、5月より地域内商品券が実施され、当店でも使えるため、期限付き商品券を使用する客がやや増えて、売上増加につながることを期待している。
		乗用車販売店（営業担当）	・ボーナス商戦やてこ入れされる車種が投入されるようなので、期待を込めて、多少は良くなるのではないかとみている。
		乗用車販売店（総務担当）	・夏季ボーナスにより購入意欲が出てくると予想する。また、新型車効果も出てくる。
		乗用車販売店（営業担当）	・都内では電気自動車の補助金額が大きいため、販売が好調である（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・中東情勢の緊迫化が続いているが、我々の施設ではまだ客の来店も多く、まとめ買い、単価上昇も目立つので、引き続き景気は少しずつ良くなっていく（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・今後も良い状況が続くとみている（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・駅周辺の再開発は、周辺にも人流増加という影響を及ぼしている。3年、9年、14年とステップを踏むが、それを見越した新規出店もある（東京都）。
		タクシー運転手	・今年も猛暑の予想なので、景気というよりも暑さの影響で例年同様に利用客が増えるともみている。最近、料金を1割ほど値上げしたが、客からの反応は余り見受けられなかった。何もかも値上がりするので運賃改定も仕方ないと客も諦めているようである（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・期待を込めてではあるが、今夏はかなり暑くなるとの予報が出ているため、昼間の時間帯での利用が増えるとも期待している。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響がなくなり、平常の生活が戻ってきている（東京都）。
		通信会社（経営者）	・現状のまま、案件受注及び工事関係が増加傾向であれば景気は良くなる（東京都）。
		通信会社（社員）	・新規の業態から、新番組の引き合いが来ている。契約が実現すれば、今年度の底上げが期待できる。見通しは明るい（東京都）。
		ゴルフ場（従業員）	・気候が良くなり、来客数が増える。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	・6～7月に団体予約等が続々と入ってきている（東京都）。
		その他レジャー施設〔映画〕（総務担当）	・夏休み向け作品の興行成績に期待ができる（東京都）。
		その他レジャー施設〔複合文化施設〕（財務担当）	・中東情勢が収束すれば、やや良くなる（東京都）。
		住宅販売会社（経営者）	・国内ホテルの宿泊料金は全国平均で年8%、都内は年9%程度上昇しつつあるため、ホテル業界は良くなる。一方、建設業では、建設費の高騰が続いている。我々中小企業は厳しい環境にあり、なかなか賃金を上げることができない。
		商店街（代表者）	・商店街の状況について、当店も客入りが若干落ちているが、それに加えて店の前を往来する人も少なくなっており、買物袋を持っている人は更に少ない。そうしたことから景気が回復することは難しい。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・良くなるといいたいところだが、エアコンなど商材確保の面で不安がある。夏祭りなどの電気工事もあるため、利利的には何とかなるとみている。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・安定している時期で、変わらない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・5月半ばでも30度以上の気温を記録している。これから本格的な夏に向かうにつれて、天候が客足に大きく影響するのではないかと不安である。
		一般小売店〔生花〕（店員）	・5月は母の日があったため、それなりの売上があった。7月はお盆があるため、同じくらいの売上になるのではないかとみている（東京都）。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・ある程度の民需や官需があり、案件はあるものの、商品がそろわない状況も出てきている。特に、ナフサ由来の物、例えばゼロハンテープ等が枯渇しており、それがそろわないために大口案件の一部が流れるというようなことが幾つか発生している。商材の確保に奔走させられているのが実情である。また、例年より早く暑くなってきたため、店頭に来客数はやや伸び悩むともみている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・売上が今一つで、新規受注もなかなか取れないため、営業に期待したい（東京都）。
		百貨店（売場主任）	・リモデルオープンや催事、お中元期間での集客は引き続き見込める。主要な富裕層の動きも引き続き活発である。お中元のEC件数が前年と比べて35%と出遅れているものの、後半に巻き返せると期待している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・地政学的リスクが物価上昇に直結しているように見受けられる。今後、仮に解決の兆しがみえてきたとしても、1度上昇した物価が下落に転じるまでには相当の時間を要すると予測される。消費の観点から見た景気動向について、先行きの明るさは余り見受けられない（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・来客数は減少傾向のため、客単価の上昇傾向が続いたとしても、景気が上向くとまでは言い難い。一方、11～3月まで落ち込んでいたインバウンドが、直近2か月は前年を上回っている。このままインバウンドの好調が続けば、景気が上向いてくる可能性がある（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・物価高や中東情勢の影響などがこの先の消費にどのような影響を及ぼすか、見通せない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・日用品の販売価格は上昇、又は据置きだが、容量縮小などがあり、消費者の購買に対する満足度が下がっており、結果として客単価が上がらない。一方、百貨店においては、価格より優先される価値があるため、国内客、インバウンドも含めて影響は出にくいものの、インバウンドの来店が継続するかは不透明である（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・中東情勢の影響が長引き、菓子のパッケージ変更など、身近な生活への影響が目に見える形で出てくることで、客の生活防衛意識が更に高まり、景気は悪くなる。
		スーパー（経営者）	・中東情勢の影響によりいろいろな物が値上がりしているため、先行き不安から客は必要な物は買うが、余計な物は余り買わない。ごちそうや、自分に対するご褒美には使うが、余計には買わない傾向は今後も続く。そうしたなかで、いかに客の購買意欲を刺激していくかが勝負になってくる。厳しい面もあれば良くなる面もあり、基調としては厳しくなる。
		スーパー（経営者）	・インフレ傾向が続いているためか、買上点数がやや落ちている。また、最近、クレジットカードでの買上比率が伸びており、支払を先延ばししている様子がうかがえる。
		スーパー（店長）	・中東情勢の影響により、ゴミ袋、紙類、ラップ等の石油原料由来の商材を中心に買上点数が伸びている。その反動で、食品類の売上に影響が出てきている。値上げも続いているため、買上点数の鈍化はこの先も継続する可能性が高い。
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、日々必要最低限の買物しかしないため、多少なりとも余分に買物ができるような状況になるまでは、同様の状態が続く（東京都）。
		スーパー（営業担当）	・単価の上昇傾向は継続するとみられるが、販売量、来客数の動向次第で今後の売上及び利益状況が変わってくる（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・現状のままで変わらない。
		コンビニ（経営者）	・最近のコンビニのトレンドとして、どのチェーンでも来客数が落ちている。物価上昇により売上は100%前後又は超えているかもしれないが、いろいろな業界との垣根という部分で、ドラッグストアやミニスーパーとの競合がある。また、お金を使わない、物価高のため買上点数を減らすなどの流れのなかで、来客数、売上共に減少している。この流れは当面変わらないとみている。
		コンビニ（経営者）	・中東情勢が安定すれば上向くが、原油の供給が安定しない限り、しばらく低調なまま推移する（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・盛夏期の高温予想が出ており、客足も変わらず推移することが想定される（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・近隣施設でのイベントは今後も見込まれるものの、来客数の減少傾向は変わらず、物価高の状況にも変化がみられない（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・値上げの影響により売上は前年を超えているものの、値上げの影響を差し引くと実質マイナスとなっている。この状況が変わる見込みはない。
		コンビニ（エリア担当）	・物価高の影響により毎月のように商材の値上がりがあり、客が必要な物しか購入しない傾向にある。今後も同様に推移すると考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（店長）	・中東情勢が解決したとしても物価上昇の流れは止められず、今後も現状の金融政策が継続することを考えると、賃金上昇はしているものの、景気はしばらく減速する（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・原油価格高騰の影響等で物価高が続き、皆余裕がない。衣料品は2の次、3の次でますます厳しい。
		家電量販店（店長）	・中東情勢の影響が大きく、この先の日常生活にどれだけ影響が広がるか不安がある。毎月値上げも続いており、来客数の減少が心配である。
		家電量販店（店長）	・海外の大型連休がもうすぐ始まるため、来客数増加が期待できる。しかし、販売量が比例するかは不透明であり、楽観視できない（東京都）。
		家電量販店（店長）	・必要な物や先に購入した方がお得な商材に集中する傾向は今後も続く（東京都）。
		乗用車販売店（販売担当）	・世界情勢の影響により、ガソリン、石油、食料品など、全てが値上がりしている。やはり、ウクライナや中東の情勢が落ち着かない限り、戻らない（東京都）。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・原料不足など社会に不安要素はあるものの、身の回りの景気にすぐに変化をもたらすことはない（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	・2～3か月先の法人関連の宴会、団体予約は、例年と同水準で推移している（東京都）。
		高級レストラン（販売担当）	・個人利用の陰りはなく、このまま推移することが予想されるが、中東情勢の改善が見受けられないため、更なる景気の上昇はなく、現状と変わらない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・3か月先の8月も今月と大体同じような売上になるとみている。人の動きも活発になり、飲食の機会も増えてくる。また、暑さからケータリング、デリバリー等も増える。
		一般レストラン（経営者）	・6月の予約表を見ても、今月よりも件数がかなり減っている。この先は宴会予約数は少なくなっていくとみている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・中東情勢の混乱に伴い石油及び化学関連などに大きく影響が出ており、原材料価格も全てにおいて上がりつつある。それがこの先どのような形で経済に影響するか分からないが、良くはならない（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・物価や人件費の上昇速度がこれからも加速していくことに対して、価格転嫁や赤字店対策がどの程度奏功するかが読めない状況にあるため、当面は横ばいと想定している（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・前年比105%で推移しており、先行きも同様の比率となる見込みである（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・先行きは為替次第である（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・旅行の申込みは客自身で手配できるようになっているため、無駄な出費はしないようにしている様子が見受けられる。
		タクシー運転手	・物価の上昇、特に食料品の物価が上がっている。物価対策がみえないため、この先が心配である。
		タクシー運転手	・今後は夏に向けて更に暑くなることが確実に予想され、タクシーの利用客が増えるとみている。一方で、中東情勢が落ち着かない限り、ガソリン価格などの上昇による乗り控え、全体の景気の悪化が懸念材料である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・経済的な先行きが不透明なので、大きく改善することはない。
		通信会社（局長）	・現状のまましばらくは変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・良くなる材料がない。
		通信会社（経営企画担当）	・ゴールデンウィークを挟んだことも影響しているのか、例年と比べても最悪であり、これがしばらく続く予想である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・物価が以前の水準に戻らない限り、企業努力をしても景気は良くならない（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・生活用品がすぐには買えなくなるわけではないものの、徐々に値上がりしていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（管理担当）	・回線の光ファイバー化を進め、競合他社との劣後解消は進みつつあるものの、契約数が改善されない状況は変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・今後の景気がどちらに変わっていくか、不透明である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・前年と比べて変わらない見込みである（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されていない（東京都）。
		観光名所（職員）	・増加を見込める動きはない（東京都）。
		観光名所（職員）	・中東情勢が解決に向かえば多少は良くなるだろうが、現状では余りにも不透明である。加えて物価高の影響により悪い状況が続くとみている（東京都）。
		競輪場（職員）	・状況の変化はない見込みである。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（従業員）	・これ以上悪くなるとは考えていないが、良くなる要素も見当たらない（東京都）。
		その他レジャー施設 [映画]（営業担当）	・中東情勢や米国経済次第である（東京都）。
		その他サービス[立体 駐車場]（経営者）	・3～4か月では特別変化はない。
		その他サービス [フィットネスクラブ]（エリア統括）	・中東の海峡封鎖の影響により更に物価が上昇する懸念が広がり、個人消費の冷え込みが加速する可能性がある。当施設では余り影響を受けない所得層の客が多いが、平均以下の所得層はますます苦しくなる（東京都）。
		設計事務所（職員）	・代替措置が浸透していけば、あらゆる物価の上昇に一定の抑止効果があることに期待するしかない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・中東情勢の影響による値上げ、住宅ローン金利の上昇により、様子見の客が増える。ただし、ここ3か月の販売量の推移を見ても、動く人は動いており、底堅い需要があるとみられるため、販売量自体はそれほど変わらないとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・資料請求件数に変化が余りない。
		一般小売店[米穀] （経営者）	・為替、金利、資材調達の不安定さからみて、流通の目詰まりが各所で起こり得る（東京都）。
		一般小売店[酒類] （経営者）	・石油製品に関する問題から様々な物の値上げが進むなか、し好品を扱う当店では出口がみえない。
		一般小売店[乳業] （経営者）	・当面は定期宅配客の解約率が新規客の獲得率を上回りそうである（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・中東情勢の影響により、原油を含む原材料の値上げ及び不足が懸念される。6月以降、食料品を始めとする物価上昇が続いており、このまま高止まりするとみられる。人手不足の一方で、原材料の供給不安により生産量縮小も考えられることから、賃金上昇の伸びが鈍化することも想定される。そうしたことから、やや悪くなる（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・中東情勢の影響を受けた石油製品等の値上げや納期遅れ等が今後想定される（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・ナフサ由来製品の値上げ要請が様々な分野、業界から上がってきており、価格への反映は不可避の状況である。今後の消費行動に確実に影響が出るとみている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・中東情勢の行方によるが、当社の営業面での資材不足による訴求力低減や民間企業の業績などの影響によるマイナス要因が想定される（東京都）。
		百貨店（管理担当）	・中東情勢の先行きが見通せず、様々な物の資材不足や原料価格高騰による商材値上げが常態化しているものの、客の可処分所得は増えていない（東京都）。
		百貨店（管理担当）	・単価の上昇により仕方なく高い商材を購買している客が多い一方で、光熱費等の支出も大きくなってきているため、どこかで来客数がもう一段減少し、売上也減少すると予想している（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・電気代、ガス代が上がるため、節約志向がますます強まる。
		スーパー（仕入担当）	・原油由来製品であるナフサの調達が難しくなっており、ビニール、プラスチック製品、インク等の製造が滞ることが不安である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（食品担当）	・ナフサ関連の品薄、価格上昇により消費が落ち込んでおり、客は必要でない物の購入を控えている。中東やウクライナ情勢が落ち着かない限り、国内景気は良くならない（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・中東の海峡閉鎖の影響により、やや悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・単価上昇により売上の減少が続いている。さらに、アルバイトの応募が全くなり、厳しい状況が続くそうである。
		コンビニ（経営者）	・不景気というより材料が不足しているため、当然商材が高くなるという報道から、客は買い控えしたり、逆に買いだめをしている。先行き不安で、良くなるとは考えられない。
		コンビニ（経営者）	・これから夏になり、電気代が家計に占める割合が高くなると、余計に買い控えが発生し、景気はやや悪くなるとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・今後も価格改定が予想されており、更なる客離れも見込まれるため、やや悪くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・中東の海峡封鎖の影響が7月からダイレクトに反映されてくるため、客足が鈍化し、買上点数が減少すると推測している（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・円安及び中東情勢の影響により、繊維関連産業では仕入価格が上がっている。状況がなかなか改善されないため、客もとどまっている。こちらにも急に価格転嫁ができない場合もある。先行きが見えないため、景気は余り良くならない。
		衣料品専門店（従業員）	・中東情勢が安定しない限り、景気は更に悪化するとみられ、客も買い控えをする。
		家電量販店（店長）	・今月は新たな省エネ基準に関連してエアコンが売れており、在庫が品薄になっている。原油由来製品であるナフサ調達の影響により、工事に必要な部材が不足し、物理的に工事件数が限られる可能性があるため、この先は今月と比べるとペースが落ちることが想定される。
		乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の影響がまだ続きそうであり、新車の納期も不安定であるため、前年よりも売上が減少する見込みである。
		乗用車販売店（渉外担当）	・中東情勢の影響を少なからず受けるものとみている。
		乗用車販売店（営業）	・客の動きが鈍くなっている気がする。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・中東情勢の先行きが不透明ななか、工業用潤滑油等の出荷停止品目が増えつつある。物価の上昇も続き、消費マインドが更に冷え込む（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・中東情勢の影響により、諸物価の上昇や資材供給不足の影響が出てくる。
		一般レストラン（経営者）	・中東情勢の先行きにもよるが、すぐに景気が回復するとは考えられない。良い人は良いかもしれないが、普通の人はなかなかうまくいかない。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・先行きは中東情勢で大きく変わる。落ち着いてもすぐに原油調達の問題が元に戻るとは考えにくく、様々なところに影響がある。いつどの商材が作れなくなるか分からず、値上げ幅も10%どころではなく30%以上のものも増えている。前月に値上げ通知があったのに、来月また値上げということも多々ある。世界情勢によりこのような不安が続くことに対して、私たちが取るべき行動とは何なのか、日々模索している（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・元々夏場は売上が低迷する時期だが、現状、今夏の予約状況は余り芳しくない。それに加えて、猛暑、酷暑の予想が出ているため、水道光熱費の上昇が懸念される。中東情勢の影響による各種原価、燃料費の高騰などが影響を及ぼす。
		都市型ホテル（スタッフ）	・中東情勢の緊迫化が長引くことが予想されるため、原油価格高騰、原油不足によりあらゆる物が値上がりし、それによって景気が若干停滞する。
		旅行代理店（従業員）	・中東情勢の影響により燃料代が上昇している。特に、航空便において燃油サーチャージが顕著に上がっているため、今後は航空機を利用した団体旅行が減少することが懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・ 来月辺りから梅雨入りする。例年ではタクシーの利用が増える時期だが、今年は期待できそうにない。世界的な原油調達の問題や物価上昇など、明るい話題がない。
		ゴルフ場（経営者）	・ 中東情勢次第である。仕入れなどに余り変化はないが、客の懐がじわじわと苦しくなってくると、レジャーへの支出を節約し始めるためである。
		ゴルフ場（従業員）	・ これから長い夏の猛暑に加え、燃料供給の不安、燃料も含めた物価の上昇が止まらず、厳しい状況が続く。
		パチンコ店（経営者）	・ 中東情勢を始めとした国際的な政情不安による影響から、物価上昇の流れは今後も続き、収まりそうにない。消費者の懐に相当影響してくる。
		その他レジャー施設 [総合]（経営企画担当）	・ 中東情勢の影響による燃油サーチャージの高騰に加え、日本の夏の暑さが海外に浸透しているとの情報もあり、インバウンド集客の苦戦を懸念している。また、物価上昇により国内客の消費マインド低下も見込まれるため、やや悪くなる（東京都）。
		美容室（経営者）	・ 早く仕事に必要な材料が出回り、手に入るようになればと願っている。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・ 諸物価は上がり続けているが、授業料はまだ上げられていない。景気は余り良くならない。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・ 前年比では問合せ件数が減少しており、客単価も低下している。
		その他サービス[保険代理店]（経営者）	・ 販売価格が上がっている。
		設計事務所（経営者）	・ 全体的に活気がなく、当事務所の所員の動きも鈍くなっている。目に見えて世の中の動きが悪くなっている。
		設計事務所（経営者）	・ 資材調達状況が変わらない以上、乗り切るための対応策を各社が模索しながら動いている。必要経費が安価になる流れは考えにくいので、代替案をどのように進めていくか検討中である。
		住宅販売会社（従業員）	・ 資材価格の高騰により、多少なりとも価格転嫁の必要が生じるが、客によっては買い控えをするのではないかとみている。
		住宅販売会社（総務担当）	・ 中東情勢次第ではあるが、明るくなる気配がみえない。状況が改善しても、1度上昇した価格が下がることはない。
	×	一般小売店[書店]（総務担当）	・ 物価上昇により運送に係る諸費用が増加している。対策を実施してはいるものの、十分にカバーできない見込みであり、前年以上の収益確保は困難とみられる（東京都）。
	×	その他小売[生鮮魚介卸売]（営業）	・ 手詰まりで世間に諦めムードが広がっている（東京都）。
	×	高級レストラン（役員）	・ 引き続き株価は6万5000円を超え、半導体株の上昇などもあるが、国際情勢は長期化が予想される。国内経済としては物価高が続き、不透明感が増し、景況は不安定又は悪化傾向が続くとみられる（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	・ 日米関係には気を配っているが、欧州諸国との連携も大切である。
	×	旅行代理店（従業員）	・ 燃油サーチャージが更に値上げされる見込みである。世界情勢が不安定であるため、収益の良い欧州が動かない。円安、物価高も重なり、引き続き海外旅行は不調である（東京都）。
	×	通信会社（社員）	・ 労働力不足、中東情勢の長期化など、良くなる兆しが全くみえない（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・ 物価上昇により、販売数は横ばいである。
	×	ゴルフ場（経営者）	・ コストプッシュ型のインフレから、供給不足によるインフレになってきている。販売単価の上昇以上に仕入れや消耗品価格が上がっており、採算が悪化する。
	×	ゴルフ場（経営者）	・ 3か月後は真夏に当たり、例年外での運動を控える傾向があるため、キャンペーン等の施策でどこまで堪えられるか頭を悩ませている。来場者に向けた暑さ対策、熱中症対策等を慎重に検討していきたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	ゴルフ場（経理担当）	・中東情勢の影響により経済の先行きが不透明であり、今後も素材、エネルギー価格の高止まりは続く。固定費の回収すら苦慮する経営環境にあり、利益を創出できない状況が続くことに変わりはない。3か月後に当たる8月は猛暑により厳しい運営環境が予想される。物価上昇、実質賃金の減少により生活防衛を意識し、高額レジャー支出の抑制行動が顕著となる状況を総合すれば、景況感の回復を展望することは困難である。
	×	設計事務所（所長）	・受注見込みが全くない。
	×	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・中東情勢に明るい兆しがみえない状況で、建築資材を通常どおりに動かすことは考えられない（東京都）。
企業 動向 関連 (南関東)		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・6月賞与、7月昇給だが、前年より良くなっている。仕事の引き合いが多くなっているものの人員が足りず、AIの導入を検討しており、試験的に実施中である。
		食料品製造業（経営者）	・こう着状態が続いている中東情勢が、少しずつだが良い方向に向かっている（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・余り見積依頼のなかった上場企業からトータルで40万円くらいの見積依頼があった。恐らく話がまとまるのではないかと考えているが、納期が6～7月ということなので、やや良くなる。これまでは10万円未満の見積りが多く、40万円というのは作ったことがなかったので、少し驚いている（東京都）。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体製品の開発数が拡大しており、取引先の要求どおり製品開発から量産を達成できれば、景気は更に良い方向に向かう。
		不動産業（経営者）	・中東情勢が落ち着くという識者の見解が多くある（東京都）。
		不動産業（従業員）	・インバウンドは引き続き堅調とみられ、宿泊需要も同様に堅調に推移する予想である（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・恐らく8月までは受注量が少なく、景気が悪い状態が続く（東京都）。
		一般機械器具製造業（経営者）	・仕事量が高止まりしている原因はよく分からないが、受注、生産量には限界があるはずなので、どこかで減少に転ずるものとみている。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量と輸出量が低迷している。今後も現状のままと予想している。
		金融業（営業担当）	・原油価格高騰に起因するコスト増加や調達難はしばらく続く見通しであり、早期にこれが解消し、受注が回復し得る要因は見当たらない。各企業の先行きの見通しも、おおむね現状維持との見方が強い。
		不動産業（総務担当）	・今後の景気は、国内外の状況からみて良くなる材料は乏しいものの、テナントの入居状況から、景気の影響を受けるのは2～3か月以上先とみている（東京都）。
		広告代理店（経営者）	・新店舗出店や新業態開発に関する相談は引き続きみられるものの、多くは初期投資を抑えた小規模な計画となっており、広告予算なども削減傾向である。AI活用による内製化の動きは今後も継続するとみられるが、短期間で受注環境が大きく変化する段階ではない。原材料費や人件費の上昇による慎重な経営姿勢も続いており、景気を大きく押し上げる要因も押し下げる要因も限定的である。当面は現在と同様の状況が続き、景況感は横ばいで推移する（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・これというトピックスがなく、前年並みにとどまり、予算には達しない見込みである（東京都）。
		税理士	・大手の輸出企業は1ドル160円くらいでお金が入ってくるが、中小の輸入企業は原材料の調達で1ドル160円支払わなければならない。中小企業の経営は厳しく、賃上げも難しい（東京都）。
	税理士	・直近3か月と比べて良い方向に向かっほしいが、横ばいと予想している。	
	社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。	
	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・原材料、資材の不足や新たな値上げの実施などが予定されており、先行きの不透明感は根強い。	
	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・しばらく現状のまま推移していく。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔商社〕（従業員）	・受注金額からみて、変わらない（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・6月からの包装資材の値上げ通知が来ている。原材料も値上げの方向に向かっている。どれだけ売価に転嫁できるかが心配である。
		繊維工業（従業員）	・製品を個別にこん包するナフサ由来の資材が不足及び値上がりする可能性が高い（東京都）。
		化学工業（従業員）	・原材料の入荷が不透明な状態が続き、かつ、大幅に価格が上がるため、生産の見込みが付かない。
		化学工業（総務担当）	・中東情勢に起因する値上げの影響により、需要が減少する可能性が高い。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・化粧品容器や文具の受注に見通しが立たず、更に材料価格の値上げ要求が殺到し、厳しい展開が続く。
		金属製品製造業（経営者）	・中東の海峡封鎖による石油製品調達への影響や、行き過ぎたインフレにより、景気は後退する。
		金属製品製造業（経営者）	・案件自体は増加傾向にあるものの、中東情勢の影響に伴う潤滑油等の不足が解消されないと製造停止となるおそれがある。注文はあっても楽観はできない。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・中東情勢が不透明であるため、部品調達に支障が出始めており、供給制限、価格引上げ要請がある。景気悪化の要因となり得る。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・物価高の影響により、サロンの開業、来店が減少傾向にある（東京都）。
		輸送業（経営者）	・現在の課題解決に向けた具体策を見いだせていないため、ますます悪化するものとみている（東京都）。
		輸送業（経営者）	・燃料費の動向が気になる（東京都）。
		輸送業（経営者）	・地政学リスク解決の兆しがみえない（東京都）。
		金融業（従業員）	・不安定な中東情勢を要因として、原材料価格の高騰や売上に影響が出始めており、長期化した場合が不安であるという声が業種を問わず多く聞かれる。先行き不透明な状況でも、製造業では経費削減や価格転嫁、新規顧客開拓など体制の見直しを進め、収益確保に努める前向きな取組もみられる（東京都）。
		金融業（総務担当）	・中東情勢の先行きが不透明で、ナフサ関連製品の高騰があらゆるところに影響しそうである。物価上昇もまだ続きそうだが、賃上げが追いついていない。不動産価格も高値を維持しており、家賃相場も上昇傾向にある。暮らしにくい現状がらみると、景気はやや悪くなっていく（東京都）。
		不動産業（経営者）	・当社テナントの入居率に変化はない見込みだが、中東情勢の影響によるリスク、止まらぬ物価高、建築資材不足、金利の上昇などにより住宅の買い控えが更に進み、景気は悪くなる。
		不動産業（従業員）	・中東情勢の影響により、建築資材の納期遅れや今後の取引価格上昇の可能性が高い（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・前月と同じ理由になるが、中東情勢や為替の影響が大きい（東京都）。
		経営コンサルタント	・中東情勢の不透明感や円安などの問題が続く。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・中東情勢が解決して、海峡の船舶航行が正常化するまでは安心できない（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	・資材の安定供給と価格が安定する兆しが全くみえず、最悪な状況が長引く（東京都）。
	×	精密機械器具製造業（経営者）	・売上増加は期待できるものの、仕入価格がどこまで上がるのか分からず、利益率は確実に悪くなる。
	×	建設業（経営者）	・世界経済が落ち着かない。
	×	建設業（経営者）	・材料価格の高騰が響き、計画案件が激減する。
	×	建設業（営業担当）	・中東情勢の影響により、資材価格の高騰及び資材不足が当分継続しそうであるが、各方面で具体的な対策がない。
	×	金融業（支店長）	・原材料等は十分足りているということだが、部材や原材料調達の目詰まりは起きている。目詰まりの原因が改善されない限りは良くならない。
	×	不動産業（経営者）	・物価が上昇しており、物が入ってこない（東京都）。
	×	経営コンサルタント	・石油関連にかかわらず、材料、資材等の流通の停滞と、2～3か月先の大きな値上がりについて、流通の目詰まりの解消を望む（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・ナフサ由来の製品の値上がりと供給不足により、景気が後退する。
雇用 関連 (南関東)		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・既存客は全く駄目なので、新規開拓に力を入れており、圧倒的に増えているため、この先も何とかなるとは思うものの、募集のある業種は偏っている。医療、介護、運送が80%以上のため、応募自体が余りなく相当厳しい状態ではないかと予想している。とにかく数としては増えている。
		人材派遣会社（社員）	・中東情勢次第ではあるが、キャンセルされたオーダーの再発注が見込める。
		人材派遣会社（支店長）	・AI化やIT化により事務的業務の派遣依頼は減少傾向だが、ITスキルの高い人材の引き合いは多くなっている（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・前月までと比べて大きな変化はない。
		人材派遣会社（社員）	・物価上昇を抑制しない限り、求職者が集まってこない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は例年と変わらず、増減の動きもない。
		人材派遣会社（社員）	・緩やかな回復基調を維持しつつも、足踏み状態が続きやすい横ばい圏内とみている。燃料費の高騰と物価上昇による消費意欲の減退なども考えられる（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・現時点で今後の変化につながるような話は出ていないため、直近での変化はない（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・特に景気が悪くなる大きな要素はないため、良い状態で続いていく（東京都）。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響による値上げが問題になっているが、急激に生活に影響が出るわけではない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・メーカーあるいは販売関係の求人はかなり出ているものの、条件に合う人がなかなか見つからない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・物価の上昇に賃上げが追いついていない（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・夏場は各企業で夏季休暇などもあり、採用活動が若干鈍る傾向にあるため、求人数の減少が見込まれる。また、新規派遣登録者数も例年夏場は減少する傾向にあるため、特に外的要因がなければ今年も同様の動きになる（東京都）。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・原材料不足や工期遅延など、採用を妨げる要因が増加しそうである（東京都）。
		求人情報誌製作会社（営業）	・ゴールデンウィークで求人数が前年よりも減り、連休明けからは前年と同様の動きとなっているが、確実に鈍化している。そこにナフサ不足関連の影響があり、製造業が特に鈍くなっている。
	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年比では減少が続いている。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・世界的な情勢悪化が採用にどこまで影響するか読めない（東京都）。	
	x	人材派遣会社（社員）	・例年8月はお盆休暇があり求職者の活動が鈍化するため、それを見越した企業が求人依頼を控える傾向にある（東京都）。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (甲信越)		コンビニ（経営者）	・夏休みやお盆がある8月は人が集まり販売数も上昇する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・例年6月は来客数、単価はいずれもやや悪くなるが、7～8月の今年の平均宿泊単価は10%程度上がる見込みである。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたら、昔のように、街に大勢人が出てくると期待していたが、実際は人の動きが変わって、高齢者が街に出なくなり、それ以外の客は郊外の大型店に行くようになってしまった。また、商店街では若い層の跡継ぎがなく困っている。空き店舗に入ってくる店もあるが、人通りのない商店街で商売をしていけるのかという店で心配である。この1～2年で商店街がどういう方向に向いていくか次第である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・いろいろな物の値上げが続き、財布のひもは固い。プレミアム付商品券の発行については効果が出ている。現状のようなときには有効なやり方である。終わった後が心配だが、高値や物価が上昇する世の中に消費者が慣れてくれば、景気は良くなっていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・イベントの当たり年で、大人数の大会等の開催も多く予定されているため、予約は好調に推移し続けている。物価高、原材料価格の高騰の懸念は引き続きあるものの、現状以上の動きもまだありそうである。こうしたなかで物価対策等が早期に実施、決定する等があれば、更に良い方向に進む。
		都市型ホテル（スタッフ）	・6月は、市内で国際関係のイベント、MICE関係の当たり月となっている。県外や海外からの来客が増え、全般的に販売量が増えるともみており、期待している。
		通信会社（社員）	・サービス提供エリア拡張も控えており、加入者数の増加が見込める。
		遊園地（職員）	・広報露出の拡大やイベント開催など、集客に向けた取組を強めることで、来園者数の増加を見込んでいる。
		百貨店（経理担当）	・中東情勢が安定し、原油不安が解消されるまで、消費行動の鈍化は免れず、現況を引きずると推測する。ただし、当県独自のプレミアム付きデジタル食事券や市発行のプレミアム付商品券、各自治体の生活支援策等の行政の施策に乗じて、消費につながることを期待できる。
		スーパー（経営者）	・原油不足や先行き懸念、為替相場の円安傾向もあり、価格は上昇中である。消費マインドは低下している。割引や特売開催日に客が集中する傾向にある。
		スーパー（経営者）	・中東情勢の影響による、物価高、電気やガソリン価格の高騰等、早く安定してもらいたい。
		スーパー（店長）	・地域のプレミアム付商品券の取組があることから、ある程度は客の負担は減るとみているが、ごみ袋の値上げなど細かな値上げの影響は、簡単にはなくなる。
		コンビニ（経営者）	・売上の的にはなかなか向上かないが、天候が良くなり、多少、来客数が増えれば、売上もやや良くなると期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・中東情勢の緊迫した状態が継続している。
		コンビニ（店長）	・今月は若干良かったが、近隣の店舗が一時的に閉まっただけで、また、オープンすれば元に戻るため、余り変わらない。
		家電量販店（店長）	・エアコンの特需が落ち着く。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車効果による販売増加を予想するが、中東情勢の影響が長引き、供給不足が生じないか心配である。
		スナック（経営者）	・これから暑くなれば、納涼会や飲みに出る機会も若干増える。ボーナス時期にもなるため、多少は売上が良くなる。ただし、基本的に団体客の件数が伸び悩んでおり、厳しい状況が続くことは余り変わらない。
		タクシー運転手	・3月から新人が1人入社したが、売上も落ち着いてきたので、今後少しずつ当社の売上も良くなるとみている。
		ゴルフ場（副支配人）	・経済状況に変化がなければ、変わらない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・一般客は夏休み前で集客が難しい時期ではあるが、固定客や団体利用が期待できる時期でもある。団体利用が増えれば売上も上がってくる。
		商店街（代表者）	・商店街はもう不要なのかと考えてしまう。
		商店街（代表者）	・6～7月にかけて多くの商材の値上げが控えている。前年と比べて全体的には12～15%の価格上昇があったものの、売上はそれに見合っていない。
		一般小売店[家電]（経営者）	・ナフサ関連で商材や部材が入ってこない。建築関係も仕事が進まず大変なようである。このままいくと開店休業、仕事ができない状況になりそうなので、厳しくなる。
		百貨店（営業担当）	・中東情勢がなかなか落ち着かず、長期化するような気配もある。それに伴い、食品を始めとして、いろいろな物の値上がり、これからまだ増えてくるため、消費が旺盛になるとは考えにくい。
		百貨店（店長）	・物産展等のイベント経費や販売に関わる諸経費が上がり、収益を確保するためのハードルが高くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・中東情勢の影響による業務用物資のコスト増加の影響が強まる。食品の消費税減税が実現すれば、多少持ち直すかもしれない。
		コンビニ（経営者）	・夏休みの行楽シーズンに突入するため、やや悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・物価高は収まらず、世界情勢も不安定で、いろいろな所に影響が出てくる。良くなるとは見通せない。
		コンビニ（総務担当）	・更なる値上げの不安から節約傾向が加速し、し好品の購入減少等から、売上減少は避けられない状況である。
		自動車備品販売店（従業員）	・物価高騰の影響があるため、今後は少し落ち込むと考えている。
		高級レストラン（経営者）	・ウクライナや中東情勢が早期に収まらない限り、穀物、重油の流通も滞り、あらゆる面でのマイナスの影響が懸念される。良くなる材料が見つからない。
		一般レストラン（経営者）	・酷暑日の影響が避けられない。
		観光型旅館（経営者）	・夏の予約状況が悪く、前年よりもかなり遅い。戦争や原油不足など、社会不安があると旅行などレジャーに対する気運が減退する。夏休み直前に予約が大きく動き出せばよいが、現状の推移だとかなり不安である。
		旅行代理店（副支店長）	・中東情勢次第で更に悪くなる。情勢が悪化すれば製造業の物資調達不足から、経営も悪化するとみている。旅行についても受注件数が前年度の7割ほどにとどまっているため、景気は悪化する。
		タクシー（経営者）	・全てにおいて、値上げと品不足があるため、やや悪くなる。
		通信会社（社員）	・季節性がある商材にも伸びはなく、1番の閑散期を迎えるため、やや悪くなる。
		観光名所（職員）	・現在好調なインバウンドも、本格的な観光シーズンに入ると、宿泊代が高くなるため避ける傾向にある。また、節約傾向の国内観光客の減少を懸念している。
	×	コンビニ（経営者）	・人口減少のため、悪くなる。
	×	その他専門店〔酒〕（店長）	・今から景気は非常に悪くなると推測している。ガソリンや石油製品の調達不安による物不足等には、新型コロナウイルス感染症流行時と同じような感覚がある。皆の変わり身は非常に早い。今後もこの状況が続けば、8月も非常に厳しく動きにくい状況は変わらない。
	×	一般レストラン（経営者）	・全く先の見えない中東情勢から、消費者の日常に次々と影響が出始めている。ただでさえ、飲食業にとっては鬼門の時期となるため、実際にかなり影響が出てくる。
企業 動向 関連 (甲信越)		金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、良くなる。
		建設業（経営者）	・取引先の業者の様子も、明るい兆しがみえてきたようである。ただし、資材の納入、入荷が遅い。
		食料品製造業（総務担当）	・世の中の情勢が変化しなければ、変わらない。
		食料品製造業（営業統括）	・まとめ買いがあるものの、単価は下がってきているため、変わらない。
		電気機械器具製造業（従業員）	・中東情勢の影響により、ナフサを原料とする製品の入荷が困難となり、生産に悪影響を与えている。また、値上げの波が押し寄せており、悪い方向にある。現状が急激に改善することはなく、良くて現状維持ではないかと考える。
		金融業（調査担当）	・製造業、非製造業共に中東情勢などの外部要因がマインド面に影響を及ぼす可能性が高く、不安定な状況が続く見通しである。特に製造業では、材料を十分確保できる企業とそうでない企業との格差が明確になり、業績面にも影響が出始めると考えている。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・広告の出稿では前年を維持しているが、中東情勢の影響による印刷に関連する消耗品の価格高騰等が予想され、収支への影響は否定できない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今後の受注ははっきりせず、減産が予想される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・物が高くなる、品薄になるという情報で、受注量は増えているが、資材供給の関係で生産ができない状況になり、景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・ゴールデンウィーク中は一時円高に振れたが、その後は円安に戻ったため、海外からの材料が思うような価格で手に入らない。店舗から売れた分の補充として再オーダーを受けても、原価が大幅にアップしており、多少の値上げでは追いつかない。利益確保がますます難しくなっている。
		輸送業（経営者）	・燃料関係が不安定なため、この先がやや心配である。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月、資金繰りが大変である。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・資材、紙等が6～7月から値上げとなるが、それに伴って客に転嫁できないため、大変厳しい状況である。品物が全くそろわない。
雇用関連		-	-
(甲信越)		人材派遣会社（営業担当）	・中東情勢が変わらないのであれば、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・継続的な価格転嫁により、家計費の不足を心配して就職活動を活発化させる動きは見られるものの、企業の採用水準が高く、求職期間が長期化する等の傾向から、やや悪くなる方向に推移する。
		職業安定所（職員）	・中東情勢が日本経済に与える影響がより一層不透明になっており、今後は日本企業の収益悪化等が懸念される。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の先行きが見通せないなかで、原油由来製品を使用する業界では、雇用調整助成金を使う動きも出てくるなど、広範囲に悪影響が出ている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人をつねに引する製造業において、現場作業者の求人の採用基準が高くなり、開発系スタッフの求人も採用レベルが上がっている。高齢層の求人は厳しさが増し、若年層は性格や人柄を重視する傾向が強い。
	×	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		旅行代理店（経営者）	・希望的観測であるが、中東情勢の問題が終結して社会が落ち着けば景気は良くなる。
(東海)		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・地域の神事に関する行事が8月初めに終われば、少し街が落ち着くとみられる。
		百貨店（経理担当）	・中東の地政学リスクは大きく下がるとみる。ただし、原油の調達や価格が安定化するには至らず、引き続きの物価高に伴う個人消費の萎縮や中小企業の業績悪化から、景気は大きく上向くことはないとみる。
		スーパー（経営者）	・当地の神事に係る行事の恩恵を受け、来客数の増加に期待する。
		スーパー（店員）	・ますます暑くなることで日ざしを避ける時間帯に来客数が増える。
		衣料品専門店（店長）	・中東情勢の改善により、作業関連の客の回復が見込まれる。地域経済の回復により個人の所得が改善し一般客の増加が期待できる。
		衣料品専門店（売場担当）	・ボーナスの支給や食料品の減税、中東情勢による影響の終結の見通しなど景気が好転する要素がみられる。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・引き続きエアコンが売上がけん引する。ただし、中東情勢の影響で石油由来のプラスチック部材が品切れしており、売れても工事ができないこともあり得るため、そこが懸念材料である。
		乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が落ち着けば、需要も増えていくものとみる。
		乗用車販売店（従業員）	・問合せの状況は悪くはなく、悲観要素も少ないため、全体の傾向としてはまだ悪くはない。客の動き全般をみる限り、悲観する状況ではない。今後良くなると期待する。
		乗用車販売店（営業担当）	・この先ガソリン価格が高くなる可能性はあるが、客から景気が悪いという話は余り聞かない。そろそろ車を買換えたいという話を多く聞くようになっており、在庫も比較的多いため、話はしやすい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔雑貨〕 (店長)	・小規模店舗の開店などの話題を耳にする。
		タクシー運転手	・政権の政策が好影響を及ぼしている。
		パチンコ店(経営者)	・お盆を迎え繁忙期となるため、やや良くなると期待する。
		美容室(経営者)	・5月にパーマやカラーをする人が増えており、2～3か月後はその客の再来店が見込める。
		美顔美容室(経営者)	・8月から一部商品が値上がりするため、その前にまとめ買いする客が出てくる。
		住宅販売会社(経営者)	・売り物件が集まれば集客が可能になるため、景気は上向き。ただし、物件の売却価格は少々下落することになるかもしれない。不動産購入検討者の予算は上がっておらず、建築費が上昇した影響により不動産価格は下がりそうである。契約が成立しても報酬を実際に受け取れなければ、無報酬となる懸念がある。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・観光客の動きは活発化し、地元の人には節約という方向に2極化しており、このモードは当面変わらない。
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・物価の上昇はまだ続くとみられる。
		一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	・3か月先も今の状況は変わらないとみる。4月から給与等が上がり所得は増えるが、その分物価も上がっており、結果的に売上の利益、客の様子などは現状のまま見込みである。給与が上がっても、物価が高くなっているため、売れる量は変わらない。
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・飲食品値上げが発表されており、消費者の飲食店利用はますますシビアになってくる。そのため、飲食店での飲料の販売は引き続き悪い状況が続く。
		一般小売店〔果物〕 (店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		百貨店(売場主任)	・店が駅の真上にあるため、平日でも来客数が多い。紳士フロアでも女性客がウロウロしていたり、下見のようにふらっと見に来る人は多いが、売上は厳しい状態が今後も続くとみられる。
		百貨店(総務担当)	・株高による資産効果などもあり、高単価の売上は受注状況なども踏まえ、当面確保されるものと想定している。一方で暑さが厳しくなると見込まれており、来客数に影響が出てくるとみられる。更に包装資材や建設コストの増加がみえており、売上は確保しても、経費面が大きく増加する可能性が高く、利益へのインパクトがこれから少しずつ現れてくる。
		百貨店(販売促進担当)	・富裕層の景況感が悪くなる要因は見当たらないため、現状維持が続くとみる。
		百貨店(営業企画担当)	・急激に変わることはない。
		百貨店(販売担当)	・今後もイベントや販売促進施策による集客は期待できるが、物価上昇の影響もあり、客の購入意欲はまだ慎重な印象を受ける。売上は施策の有無によって左右される状況が続くとみられる。
		スーパー(店長)	・6月以降に電気代の値上げやナフサの影響による商品値上げが報道され、買い控えは続く。
		スーパー(店員)	・来客数も売上も今のところ下がらないとみられる。
		スーパー(販売担当)	・値上がりする商品もまた増えているため、買い控えはあるとみている。
		コンビニ(店長)	・このまま売上、来客数共に前年比2%前後減少の状況が続くとみられる。夏に向けて、電気料金の値上げ、あるいはその他の諸物価の上昇により、店の経営環境も悪くなる見込みで、全体的に経営は変わらないか、あるいは下向きになる。
		コンビニ(店長)	・コストの悪い商品であっても供給がストップされない限りは、購入する常連客がいるため、経営が傾くほどの危機感は見えていない。しかし、景気が浮上するような要素は見当たらないのが現状である。
		家電量販店(店員)	・検討から購入決定までが速い傾向にあり、特に変化していく感じはない。
		乗用車販売店(営業担当)	・賃上げ以上に物価が上がっていて、食品等の生活費が高いため、消費を抑えなければならないという意識が強くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・インフレの流れに中東情勢が重なり消費者の購買意欲は減退している。エンジンオイルや塗料など石油由来の商品の入荷が滞りつつあり、新車以外のサービス収益にも影響が始めている。中東情勢が長引くようであれば、一段の下押し圧力が掛かる可能性がある。
		乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の影響による社会不安も引き続きあり、車両に掛ける費用や旅行費用は節約対象になる。
		乗用車販売店（経営者）	・大手勤務の人と中小勤務の人、株価高の恩恵を受けている人とそうでない人等、景気が良い層と良くない層の格差が広がっている印象だが、全体としては変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・これから生活に関してのいろいろな物の価格上昇が起こるとの話が出ている。生活のベースとなるコストが上がるならば、客の購入に対する選択眼はますます厳しいものとなってくる。客に必要とされるピントの合った提案ができるかが大切である。
		乗用車販売店（販売担当）	・車両本体価格がかなり値上がりしており、車検を受ける客が多くなっている。そのため、販売量が伸び悩んでいる。
		その他専門店〔書籍〕（社員）	・引き続き物価の上昇が影響し、取扱商品においても価格改定が続くことから、購入量が抑えられると懸念される。
		高級レストラン（経営企画）	・中東情勢等から法人の会食控えと、また、物価高の影響を受け、夏休み前の節約モードに突入する。
		一般レストラン（経営者）	・客は皆、節約のため外食や外飲みを控える様子がみられる。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・円安による値上げの影響を懸念している。現時点では消費者の購買意欲は旺盛だが、どこまで値上げについてこれるか不安である。
		観光型ホテル（支配人）	・この先も、観光利用の宿泊予約が好調である。外国人よりも日本人の利用が増えている。地元利用が主となるレストラン・宴会利用は、引き続き前年を下回る傾向にある。
		都市型ホテル（総支配人）	・夏休みの宿泊は期待できるが、宴会はローシーズンである。
		都市型ホテル（営業担当）	・引き続き株高、円安で原価圧迫はあるが、客にとっては追い風傾向となる。
		旅行代理店（経営者）	・直近の海外旅行は、燃油サーチャージが落ち着かない限り敬遠されるとみられ、夏は余り期待できない。中東情勢が落ち着いてくれることを願うばかりで、先の見通しが難しい。9月のアジア競技大会開催により、市内ホテルの貸切りや当地域の国際空港発着便も混んでいて、盛り上がりには期待はするものの、自身の周囲では地元でありながら余り盛り上がりが見られない。
		旅行代理店（経営者）	・大きなイベントやゴールデンウィークのような連休がにぎわいを作り出せなければ、来客数の増加は望めない。
		旅行代理店（営業担当）	・燃油サーチャージの倍増による旅行代金の増加、また、旅行中の滞在費の負担増加は、かなり深刻な問題である。旅行計画の見直しや旅行控えも増えていくとみる。
		通信会社（営業担当）	・自社の販売価格や人件費の値上げがあり、他社への対抗としてかなり厳しくなっている。
		テーマパーク職員（総務担当）	・園内で順次開催予定の企業福利厚生イベント等により、今後も一定数の関係者の集客は確保できるとみているが、梅雨入りや台風に関する情報に接するようになり、全体の集客見込みについては大変気掛かりである。
		美容室（経営者）	・世界情勢の不安定さや物価の上昇などで明るい話題がないため、当分はこの状態が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・建築資材の不足が多くみられる。対応は行っているが、どこまで影響が出るかという状況である。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・今のところ好転する材料がない。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・価格高騰が落ち着き回復しないと見当が付かない。
		商店街（代表者）	・平日のインバウンドを含む来客数が減ってきている。
		商店街（代表者）	・中東情勢が収束しない限り、景気の回復は難しい。備蓄している石油やナフサが尽きて本当に足りなくなってしまうば、更なる景気の悪化もあり得る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・原油価格高騰の影響が続くと、いよいよ生活の余裕の部分にまで金が回らなくなってくる。
		百貨店（営業担当）	・日常に資材不足がみられるようになり、警戒感など消費者意識にも影響が出てくる。
		百貨店（販売担当）	・シールやフィギュア等の趣味雑貨系は引き続き好調である。ハンディファンも気温の上昇とともに一気に動いているが、物価高の影響なのか、年齢が上がると買い控えがある。
		スーパー（店長）	・特売比率を上げて購入点数が伸びないため、客単価の下落傾向が出てきている。
		スーパー（店長）	・今後も消費者の節約傾向が想定される。
		スーパー（店員）	・これから猛暑に突入していくため、午後の時間帯の来客は減少する。特に売上を上げるような旬なものもなく停滞が続くとみられる。
		スーパー（店員）	・ナフサ関連を始めとした原材料費高騰による値上げ要請が続き、7月頃から値上げが主力カテゴリーに波及することが確定している。
		スーパー（支店長）	・世界情勢の影響により日を追うごとに景気が悪くなっている。やはり1番はイランの石油問題に伴う物価上昇による消費の鈍化は避けて通られない状況にある。このまま物価が上がり続けることにより、ますます消費者の購買意欲は下がる一方で、嗜好品や趣味に欠ける金などの余裕がなくなることで、全体的な景気減退が避けられない状況になる。
		コンビニ（店長）	・商品によって入荷が不安定なものが出てきた。また、値上げラッシュで消費に影響がある。
		コンビニ（企画担当）	・前月より売上の減少傾向が進んでおり、状況が悪くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	・この先は、値上げの動きが更に加速化することが懸念される。菓子等加工食品の大幅値上げが控える等、商品値上げによる購買状況の変化はまだ続くとみる。
		コンビニ（エリア担当）	・中東の海峡問題関連でのコスト増加による価格上昇で、更なる客離れも想定される。
		コンビニ（店長）	・中東事情の影響により包材関係の値上げがあり、商品の販売価格が更に増加するおそれがある。値引き販売促進が効果的ではあるものの、過去に好評だった商品が200円超えになり、景品表示法の関係で販売促進を打てなくなっている事実もある。
		コンビニ（店長）	・中東情勢でやや不安が出始めている。ナフサ不足で包材等にも今後影響が出るとみる。
		コンビニ（商品企画担当）	・中東情勢の影響により徐々に悪化するとみられる。
		コンビニ（本部管理担当）	・3か月後も景気が更に悪化する理由は、世界的な資源価格の高騰と輸入インフレの直撃である。中東情勢の緊迫化による原油価格高騰と、歴史的な円安のダブルパンチにより、特に小売業は電気代や物流コストが更に跳ね上がる。これにより3か月後は状況が悪化するとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高が続き、洋服を購入する気になれない客が多い。
		家電量販店（営業担当）	・季節商材の動きもおさまり、非常に伸びている今に比べて3か月後は悪くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	・販売停止車種が多く、販売再開しない限り販売台数の増加は見込めない。
		乗用車販売店（従業員）	・今のところ、新車の販売には影響がないが、整備に関しては様々な部品の供給に制限がある上に、仕入価格も今までに経験したことがないような上昇の連絡を受けている。客に対して、それほど値上げはできないため、大変苦しい状況が続く。
		住関連専門店（営業担当）	・建築資材の値上がりで現場自体の動きがやや鈍くなっている。契約も進んでいない部分もあり、新規物件については更に悪くなることが見込まれる。ただし、中小のリニューアル工事に関しては予定どおり進んでおり、そちらの方で補うように対応している。
		その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・円安により価格高騰が進むなか、消費者の節約志向が加速しているとみる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・新設鋼橋発注量や民間建設投資、鉄骨需要が低迷状況であることに加え、ウクライナや中東情勢の不安定さの影響から、先行きは極めて不透明である。
		一般レストラン（スタッフ）	・消費税減税の話が出ているが、いつ実施されるかが未確定であるため、それまでは厳しい状況が続く。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・現状ぎりぎりでも物価上昇をしのいでいるが、これ以上は耐えきれなくなる。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
		都市型ホテル（経営者）	・中東情勢の安定が不確実であるため、現状が継続すれば更に景気は悪化するおそれがある。
		旅行代理店（経営者）	・需要減退の傾向が少しずつつみえており、来客数に準じている。
		旅行代理店（経営者）	・中東情勢の先行きが見通せない。
		旅行代理店（営業担当）	・上期の団体旅行の出発件数としては、5月下旬から6月に集中しており、社員旅行など客単価の高い案件が多い。反面、7月～8月は子供連れの日帰り行事、部活の送迎バスなど件数も少なく、ほとんどは単価の低い案件である。
		タクシー（従業員）	・今年の夏も猛暑が予想されている。前年や前々年の実績からは暑ければ暑いほど特に高齢者の外出時のタクシー利用は伸びており、今年も前年以上の利用を見込んでいる。その反面で燃料やオイル、タイヤ等の値上げ及び人件費の高騰もあり、利益面での課題は多く、先行きは不安である。
		通信会社（企画担当）	・物価高、いろいろな物不足など先行きを見通せない不安定な状況がしばらく続くようにみられる。
		テーマパーク（職員）	・このまま中東情勢や日中関係の影響が続けば、国内も値上げが続く、消費が減るとみる。
		パチンコ店（従業員）	・お盆前に商圏内で同業他社が開店する見込みで、顧客流出が予想される。
		理美容室（経営者）	・いろいろな食料品の値段が上がりに、段々と景気は悪くなるとみられる。
		美容室（経営者）	・電気代やガス代、水道代の値上がりなどが生活を圧迫している。美容などの消費に掛ける金がなく、景気は悪くなる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・こん包資材だけでなく、仕入商品の値上げについても徐々に案内や相談が出てきた。秋に向けて一段とコストアップの様相になるとみる。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・物価高に加え中東情勢による影響と、施主にとっては心配なニュースばかりで困惑している。施工にブレーキが掛かり、景気の冷え込みが懸念される。この先、夏から来春まで苦戦を想定してしまう。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・中東情勢が落ち着くまでは厳しい。また、建設関連では、人手不足も深刻な問題となっており、新しい住宅や施設の着工が以前よりも難しい状況となっている。
	×	商店街（代表者）	・物価が高くなり、買い控えが加速する。
	×	商店街（代表者）	・中東情勢による影響に対してまだ解決のめどが立っていないため、何ともコメントのしようがない。7月以降は物価が更に上がり、各メーカーからは3割上がるとの通告がある。この先大変なことになる。
	×	コンビニ（店長）	・定価販売のたばこは前年並みの売上はあるが、アルコール類はスーパー、薬局などと価格差があり減少傾向である。物価上昇による節約志向が強くなるようにみられる。
	×	乗用車販売店（従業員）	・世界情勢が不安定であることからまだ当分悪い状態は続くと思われる。
	×	一般レストラン（従業員）	・2割に達するほどの値上げラッシュとなる。
	×	観光型ホテル（経営者）	・いつも出だしは良くない。前年比では宿泊者数の伸びが若干下回っているため、景気は悪くなると判断した。理由は良く分からないが、宿泊の予約ペースが遅れている。このまま終わってしまうのは気になるころではあるが、需要が弱含みであり、また、宿泊者数の動向次第である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	タクシー運転手	・中東情勢による影響が市場に広がっている。様々な物の再値上げやずっと続く物価高の影響を受け、客足が悪くなっている。売上も非常に低迷しており、ノルマを達成できない状態である。景気が低迷しているにもかかわらず、会社が足切りラインを上げたため、どんどん生活苦になっている。会社も今の市場の状況を把握して、社員が普通に生活できるように考えなくてはいけない。
	x	テーマパーク（職員）	・長雨や猛暑により来客数は減少する。また、中東情勢による印刷物の値上げ情報もあるため、生活必需品の値上げが続くことが予想される。夏休みは外出を控える要素がかなりあるため、屋外施設は厳しい夏となることが予想される。
	x	設計事務所（経営者）	・全く種まき案件が存在しない。
	x	住宅販売会社（従業員）	・6月から商材の値上げを告知している会社が多く、各種補助金も不透明である。また、ナフサ不足が更に深刻である。ものが入らないため仕事ができないという状況が深刻化しそうである。
	x	住宅販売会社（従業員）	・下請業者から、今すぐの工事ならという条件での見積りを出されることもあるが、2か月後になると納入すら予測不能ということで、そもそも見積りを出してくれない。これでは客との交渉すらできない。
企業 動向 関連 (東海)		-	-
		輸送業（エリア担当）	・中東情勢の動向により判断した。
		公認会計士	・海外情勢は落ち着いてくることが予想される。一方で、円安は止まらず為替介入も少しずつ行われている状況であり、今後は金利上昇の可能性が高まっていることから個人消費は落ち着くことが予想される。さらに、年末に向けて更なる物価上昇も見込まれることから、ますます中小企業の営業利益が減るとみられる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・中東情勢の影響が大きく、ナフサ不足や原材料価格の高騰や物価上昇、更に円安の不安定化により、景気は現在と変わらない。
		化学工業（営業担当）	・1か月、2か月後の状況は不透明である。
		化学工業（総務秘書）	・景気を悪くする具体的なトピックがまだないため、景気がじわじわと悪くなるのではなく、あるときに暴落すると推測する。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・世界情勢の不安定さは気になるが、自社分に関しては、今のところ大きな影響がみられない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・A I関連の設備投資は引き合い数等から判断すると、北米と東南アジア共にまだしばらくはこのまま継続しそうである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の設備投資がある程度期待できるため、その面ではやや景気は良くなるが、利益率がかなり下がっており、また、部品価格が高くなっているため、全体的には景気は今月と変わらないとみる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・余り変化しないとみられる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・国民の所得が増えない限り安定した内需の広がりは期待できないため、外需頼りの経済になる。また、外需頼りの経済は世界情勢に左右されるため予想は難しい。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・新しい仕事が入り始めているが、ナフサ不足の影響により手に入らない作業用品等が出てきた。値段も上がっている。
		建設業（役員）	・中東情勢の先行きが不透明で、景気もどうなるか正直判断が付かない。
		建設業（営業担当）	・設備等の補修やウォーターPPPまでとまではいかないが、災害対策に向けた仕事に関しては比較的通りやすい状況である。ただし、部品の値上がり青天井に近く、利益を見込む段階で金額が上がってしまうため、その辺りのやり取りが難しい。また、自社でも競合他社でも元請でも無駄を省くことを考えているため、そのような状況でどのようなサービス提供をしていくのかを見直す必要がある。
	輸送業（経営者）	・消費者心理の冷え込みに加え、石油化学関連製品の工場稼働率の低下が長引く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（従業員）	・原油価格の先行きの不透明感や物価上昇に備えて行われる駆け込み需要や買いだめにより、一時的な需要の押し上げは想定されるものの、全体としての景気環境は3か月後も大きく変わらないとみる。
		輸送業（従業員）	・中東情勢の動向やナフサ問題の影響による事態がしばらく続くと見込まれるため、しばらく同様の傾向が続くとみる。
		金融業（従業員）	・政治的に不安定な状況により、変わらず物価が上昇することから、景気は変わらないとみる。
		金融業（企画担当）	・取引先による人件費や材料費等の見直しが原価率改善にみられるのに相応の時間を要することから、当面は現状の景気が続くとみる。
		不動産業（経営者）	・今後は前年と同様に曇りや雨の日が多くなりそうであるが、外出や遠出をする人は少しずつ増していくとみられる。今後の売上は増加し、前年を上回る状況が続く。
		不動産業（職員）	・少しずつ商品値上げの波は来ているが、今のところすぐに消費に影響する様子はみられない。
		広告代理店（制作担当）	・多方面にわたって物価が上昇しているため、広告の受注量等が増える見込みはない。
		食料品製造業（社員）	・諸原料価格の上昇により、更なる価格改定を予定しており、今後は販売量の減少による売上減少が見込まれる。
		食料品製造業（営業担当）	・値上げによる買い控えが受注量に現れている。
		食料品製造業（経営企画担当）	・中東情勢の行方は依然不透明で、包装資材関係の価格高騰、調達不安が高まる。
		金属製品製造業（従業員）	・中東情勢の影響は仕入れや購買面だけでなく、プロジェクトの延期や規模縮小など需要面でも今後顕在化すると懸念している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・部材等の高騰化及び入手困難な状況が今後発生するため、生産に支障を来すことがと予測される。また、価格等の転嫁についてはやむを得ず、了解をもらえるような環境にあるため、極端に変動はないとみられるが、若干精算調整等が入り、景気はやや悪くなる。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・中東情勢が長引いて物価高騰が続き、電気代が心配である。さらに、ガソリン補助が終了することがあれば生活できない。
		輸送業（従業員）	・中東情勢の影響により、原油価格高騰だけではなく、石油関連製品の不足が発生している。運送業界だと、オイルや燃料添加剤等もそうだが、最悪の場合走りたくても走れない状況になることを危惧している。
		輸送業（エリア担当）	・物価やガソリン価格は上昇しているのに、運送単価はほぼ上がっていない。
		通信業（法人営業担当）	・物価高の原因が、複数絡み合って解きほぐせない状況である。日本が経済的にも精神的にも停滞期にある感覚が広がっている。なかなか抜け出す方法が見つからない。
		金融業（従業員）	・消費者は円安と原油価格の上昇に苦しんでいる。いろいろな業者においても、物流などでも経費がかさんでおり、様々な分野において景気は非常に苦しい状況が続くとみられる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・一時的に需要と供給のバランスが崩れているだけと考えるが、不安が拭えない。
		会計事務所（職員）	・原油の供給が順調になっても、国内での石油製品の流通がスムーズになるまでにはしばらく時間が掛かる。通常に戻るまでは、景気の回復は期待できない。
	×	鉄鋼業（経営者）	・石油製品の目詰まり、鉄鋼メーカーの市場を無視した一方的な値上げにより今後ますます売行きが悪くなる。
	×	金属製品製造業（経営者）	・各種材料の値上がりやを考慮して先に販売している受注があるため、将来販売が落ち込む恐れがある。
	×	通信業（総務担当）	・中東情勢の影響による石油製品の行方次第であるが、まだ景気は悪くなるとみる。
	×	会計事務所（職員）	・6月以降、金属加工業では必須である刃物と切削油、潤滑油の大幅な値上げが行われる予定である。さらに、材料となるアルミや銅の単価も大幅に値上がっているため、今後かなりの利益減少が懸念される。
雇用 関連		-	-
		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東海)		人材派遣業(営業担当)	・中東情勢次第で景気の先行きはどちらにも変わる可能性を秘めている。ただし、政府の対応により、我が国においては大きな悪化にはつながらないとみる。
		人材派遣会社(営業担当)	・求職者数の増加が見込めないため、採用者数は横ばいから減少の可能性が高い。
		人材派遣会社(営業担当)	・子ども・子育て支援金の徴収も始まり、ますます家計は苦しくなったとみている国民が多い。
		アウトソーシング企業(エリア担当)	・中東の海峡周辺の緊張が続き、原油や石化製品の供給リスクが意識されており、原油価格の上昇によるエネルギーコスト増加、樹脂・ゴム系部品のコスト上昇リスクが心配である。また、中東向け自動車輸出は減産の影響がどこまで続くかが今後の課題になる。
		職業安定所(職員)	・中東情勢次第によっては、供給不足や調達先の調整などの対応を迫られると不安視されているものの、現状影響がないと答える事業所が一定数ある。
		職業安定所(職員)	・中東情勢に起因する原材料費高騰を始めとして、従前から続いている燃料費や運送費、人件費などの各経費の高騰により、価格転嫁を進めることが困難な中小企業では、事業活動への大きな負担が長期間継続し、変わらず厳しい状況となっている。一方で、受注が堅調な産業もあるが、物価高騰などに伴う消費動向の停滞、世界情勢を踏まえた経済動向への懸念等により、新たな求人提出を控え、引き続き様子見をしている産業も少なくない。求人提出を控えている産業が一部見受けられるものの、現時点で大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、世界情勢次第ではあるが、直近での景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
		職業安定所(職員)	・求人、求職の状況は変わらない。
		民間職業紹介機関(窓口担当)	・順調に受注増加の傾向にある一方、稼働多数の企業が体制見直し等で今後の増員の見込みが薄いケースが出てきている。同時に稼働者の短期傾向も1つの要因である。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・地政学リスクを踏まえ利益確保に動く企業も多く、採用自体はオープンにしているが、要件を満たす人材か否かの判断基準は上がっている。新規案件の発生により転職顕在層に関しては様々な案件が流通している時期でもあるため稼働される方が増加する見込みである。
		学校[大学](就職担当)	・中東情勢の影響や物価高などで先行きは不透明である。ただし、新卒求人については、今後2~3か月先で大きく変化しないとみる。
		学校[専門学校](就職担当)	・前年同期と比較して採用状況に変化はないが、採用基準にAIを活用している就職活動学生が増加しており、面接等の評価に影響が出ている状況である。今後の指導を再検討している。
		人材派遣会社(社員)	・予約状況が余り良くない。中国からのインバウンド減少が響いている。
		新聞社[求人広告](営業担当)	・中東情勢の影響が長引いており、原材料価格の高騰などもあり、これまでと同じだけの採用予算を確保するのが難しくなる可能性がある。
		職業安定所(職員)	・中東情勢の状況が改善すれば動向が変わる可能性があるが、現状のままでは、ますます事業に影響が出てくる企業が増えることが見込まれる。
		職業安定所(職員)	・原材料価格の高騰が製造関係の過程に響くという声がある。
	職業安定所(職員)	・中東情勢の解決が見通せない。	
	職業安定所(職員)	・塗料等の不足が深刻化し、廃業等が一部発生し始めており、製品が完成納品できず運転資金等へ与える影響を考えると、今後も多数発生することが懸念される。	
x		人材派遣会社(社員)	・求職者を集めようにも呼び込む材料としての求人がなく、好転する見込みがない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	人材派遣会社（営業担当）	・次世代電気自動車開発ストップの影響が発生する可能性がある。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		商店街（代表者）	・欧米圏からのインバウンドは今後も安定して見込めるほか、中国からのインバウンドの回復も本格化しつつある。現在のインバウンドの多様化と、根強い国内の観光、贈答需要が維持されることで、今後数か月は高い売上水準を継続できるとみている。
		コンビニ（店舗管理）	・食料品の値上げを実施する予定である。原価高騰分を価格転嫁し、利益を確保する。この状況においての値上げは客の理解も得られると考える。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車メーカーは各社2～3か月先に新型車投入を予定していることから、購買意欲が高まるとみている。
		タクシー運転手	・初夏に入り観光客も人出も増え、また、タクシー運賃が改定になることから、売上が良くなると考える。
		百貨店（売場主任）	・猛暑のため外出を控える動きが近年は加速している。加えて、中東情勢が不安定であり、物価高騰も当面は続く見込みであることから、景気が良くなる条件が見当たらない。
		百貨店（販売促進担当）	・中東情勢や物価高の動きが大きく好転するとは考えていない。
		コンビニ（店長）	・店舗によっては、深夜営業停止などの対策で何とか成り立っている。光熱費と人件費が上昇しているため、人員削減し、ワンオペレーションを拡大せざるを得ないと考えている。
		衣料品専門店（経営者）	・売上が確保できないなか、いろいろな物が値上がりし、最低賃金も上昇するなど厳しい状態である。
		衣料品専門店（経営者）	・社会情勢の動きをよく見据え、消費者は慎重な動きをすると思われている。
		家電量販店（本部）	・エアコン販売台数の大幅な増加は一時的な需要であり、家電製品全体の動きは堅調に推移するとみている。
		乗用車販売店（経理）	・新型車登場と環境性能割廃止の効果は、しばらく続くとみられる。
		住関連専門店（役員）	・多少は物価高に慣れた消費傾向であるが、耐久消費財や趣味関連商品の消費は後回しになっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・原油価格の高騰やコストの負担増加が商品価格に転嫁され始めている。個人消費全体としては落ち込みがみられるものの、お盆等の長期休暇時には「安近短」がより顕著になると想定されるため、来客数の動きは今月同様とみている。
		一般レストラン（店長）	・インバウンドも含め、週末は観光客が少なくないが、平日は客が少ない。
		一般レストラン（統括）	・今後の経済状況が不透明であるため、景気が大きく変わると思えにくい。悪くなる要素は多いが、良くなる要素は見当たらず、現状維持が若干下がる傾向になるとみている。
		観光型旅館（経理）	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
		都市型ホテル（役員）	・ビジネス利用を中心に個人予約の入込が弱く、前年と比べて稼働率は低下するとみている。
		通信会社（営業担当）	・前年度と比較して横ばいである。起爆剤がない限り、大きな変化はみられない。
		通信会社（役員）	・特段のイベントもないため、前年と同様の契約数で推移すると考える。
		美容室（経営者）	・世界情勢の不安定さが、まだしばらく続くとみている。
	商店街（代表者）	・人出は天候にかなり左右されるが、今夏の気象予報では、来街者でにぎわうとはなかなか想像できない。	
	一般小売店〔精肉〕（店長）	・6～7月に入ってくるお中元用ギフトの動きは鈍くなり、やや悪くなるとみている。	
	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・今後は価格改定により大幅な値上げが予定されている。また、需要がある商品はメーカーからの供給が追いつかず、売り逃しが懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔鮮魚〕 (経営全般)	・中東情勢の影響により原油価格が高騰し、物価上昇が再加速すると消費は若干冷え込むとみている。
		百貨店(販売担当)	・一部の富裕層の購買は好調ながら、消費を抑制する富裕客も出てきた。一般客については、シールや韓国化粧品などのコンテンツ限定品や低単価の流行品に客が集中するが、目的以外の購入は少なく、日々の売上拡大や購買率上昇につながらない。夏季の長期化に伴い商品単価が下落していることと、高単価化粧品の人気に少し陰りがみられることから、僅かな売上減少傾向が続くとみている。
		スーパー(店長)	・中東情勢による影響が大きく出るとみている。
		スーパー(仕入担当)	・ナフサ関連による価格上昇に伴い、様々な物が確実に値上げされる。広範囲で多品種の値上げが行われるため、販売量の減少やディスカウント店への客の流出を懸念している。
		スーパー(役員)	・今後大きな値上げがあることがほぼ確定している。加工食品や雑貨全般にわたり大多数が値上げになる見込みである。さらに、生鮮関連も様々な影響が出ており、値上げは確実とみている。前年、前々年以上の値上げにより、消費への影響が出るとみている。
		コンビニ(店長)	・中東情勢の報道や止まらぬ物価上昇から、じわじわと生活防衛に走る客が増えている。消費税減税の話も出ているが、まだ先の話であり、消費マインドにポジティブな変化は見込めない。
		衣料品専門店(経営者)	・石油関連製品の供給不足がじわじわと建築関係に影響し、めぐりめぐって衣類に掛ける支出の割合が少なくなるとみている。
		家電量販店(店長)	・エアコンの前倒しでの販売により、夏本番では売行きが落ちるとみている。
		家電量販店(店長)	・エアコンの新たな省エネ基準への改定と中東情勢の影響による駆け込み需要により今月の実績は好調だが、今後の納期遅延や部材不足による工事等の遅れを心配している。
		乗用車販売店(総務担当)	・今後は中東情勢の影響により欠品する部材が増える可能性が高まっており、販売に対する納期の長期化や販売不可になるものが出るとみている。
		高級レストラン(スタッフ)	・中東情勢の不安定な状況が続いており、仕入価格の高騰や建設業からの団体予約にマイナスの影響が出ている。
		観光型旅館(経営者)	・中東情勢の影響による急激なインフレに伴い、仕入価格の上昇や経費の増加、夏の猛暑による旅行控えなど、不安材料が多い。
		都市型ホテル(スタッフ)	・製菓部門の包装材が入荷しなくなってきた。加えて、あらゆる仕入価格が更に値上がりするという話を現場から聞くが、これ以上の価格転嫁は難しく、収益に相当影響すると危惧している。
		旅行代理店(従業員)	・原油価格高騰の影響が多方面で出てきている。
		タクシー運転手	・物価の上がり方と賃金の上がり方が比例しておらず、金を使おうとしない人が増えているため、景気は良くならない。
		通信会社(職員)	・原油価格高騰により、物価が上昇している。
		通信会社(役員)	・中東情勢の影響により、石油関連製品の価格が上昇している。また、AIデータセンター需要の増加に伴い、半導体の逼迫と価格上昇が生じている。これにより、サービス提供に必要な設備や端末の価格上昇や供給不足が懸念されると見ている。
		テーマパーク(役員)	・インバウンドや団体客の予約状況が、前年と比較してやや厳しくなっている。
		パチンコ店(経理)	・中東情勢の影響による品不足や物価高により、消費動向が鈍るとみている。
		競輪場(職員)	・中東情勢の影響による物資不足がそのまま続けば、製造業等にとって大きなダメージとなり、景気が悪化して売上にも大きな影響が出るとみている。
		住宅販売会社(従業員)	・能登半島地震の被災地での新築受注は一巡し、今後の方針について悩んでいる人が多くなっている。加えて、他地域の商談件数も減少しており厳しい状況である。
		住宅販売会社(従業員)	・中東情勢の影響に加え、金利が上昇しており、住宅価格にも影響すると考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	商店街（代表者）	・再開発ビルの空き店舗は埋まりつつあるが、飲食店が多く、昼間は閉店している店舗が多いため、人出は減少している。街の活性化とどう結び付けていくかが課題である。
	×	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・中東情勢の影響により幅広く値上げがあり、悪くなる要素しかない。
	×	乗用車販売店（従業員）	・オイルや部品等の価格が高騰しており、当分は厳しい状況が続くとみている。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・世の中の負の連鎖が止まらなくなっており、将来の景気は絶望的である。
	×	スナック（経営者）	・内外の社会変化により、ますますマイナス傾向になると考える。
	×	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（経営者）	・中東情勢の影響により景気は悪くなるとみている。
	×	住宅販売会社（営業）	・取引業者からの値上げ交渉が増えている。今後は中東情勢の影響による販売価格への転嫁が顕著になるとみられる。客の購買意欲にも間違いなく悪影響を与えると考える。
企業 動向 関連 (北陸)		-	-
		一般機械器具製造業（総務担当）	・工作機械の受注数は増加しており、今後もその傾向が続くとみている。ただし、中東情勢の影響が続いており、いまだ不安要素として拭き切れない。
		不動産業（経営者）	・2～3か月先のことであるが、法人客や個人客からの問合せが少しずつ入ってきている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・二輪車を含む自動車関連部品の受注状況は、4月以降順調に推移しており、9月まではおおむね計画どおりとなる見込みである。産業機械関連部品の受注に関しては、今月までは計画を上回るものの、来月以降は計画に達していない状況であるため、更なる営業活動の強化を図る。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・2～3か月という期間で考えると、新規案件に関しては受注が未定の状況で、現時点では先がみえない。この後、新規案件の受注可否や詳細日程などに関して、客への確認を急ぎ、先々の動向を把握して見極めていく。
		建設業（経営者）	・公共事業の補正予算は想像以上に多かったが、引き続き中東情勢による影響が懸念され、資材価格は高騰するとみている。
		輸送業（経理）	・原油価格の動向により、会社の情勢がかなり変わる。
		通信業（営業）	・中東情勢次第である。原油が円滑に輸入できれば、景気も好転するとみている。
		司法書士	・不動産の価値に根拠を置く不動産担保が利用されない時代になり、新しい企業価値担保制度が始まったが、今後どのように活用されるのか分からない。また、今後の融資金利の動向など不明な要素が多い。
		食料品製造業（経営企画）	・中東情勢によるマイナスの影響が、しばらくは続くとみている。
		繊維工業（総括）	・中東情勢の影響が長期化した場合、雇用の維持や企業の存続が危ぶまれる状況となる。
		プラスチック製品製造業（広報）	・ナフサ不足が解消されたとしても、価格高騰は当面続くとみている。
		建設業（役員）	・資材調達の見通しが不透明であることに加え、価格上昇基調がやむを得ない状況であり、今までのように受注を確保することは困難とみている。
		輸送業（管理会計担当）	・一部の取引先では生産量が減少しているため、保管している在庫が減少しており、今後は出荷も含めて減少すると見込んでいる。
		金融業（融資担当）	・当初の想定以上に中東情勢の影響が長引いており、中小企業の業績を圧迫している。物価高の加速、賃上げ、利上げに対して価格転嫁が追い付かず厳しい状況が続いており、景気が上向き要因が少ない。
		金融業（融資担当）	・中東情勢の影響により、商材そのものが確保できなければあらゆる経済活動が滞り、景気が減退する可能性は高い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	金属製品製造業（経営者）	・足元ではチフサが不足しており、チフサ由来のゴムやプラスチックの生産が滞ると、組立工場のラインが停止や、工事現場の建築がストップするなどして、製品の需要が縮小する。既に大口取引先からは、7月以降の注文が大幅に減ると予告されている。
	x	税理士（所長）	・6月までは持っている在庫で何とかしのげるが、7月以降の見通しが立たない会社が増え始めている。
雇用 関連	-	-	-
(北陸)		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・求人数が増加している。
		人材派遣会社（営業）	・中東情勢が改善に向かいつつも、しばらくは変化しないとみている。
		新聞社〔求人広告〕 （営業）	・中東情勢の見通しが立たない。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響による資材不足や商品価格の上昇について、不安を抱える事業者の声はあるが、雇用の部分には大きな影響が出ないとみている。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響を引き続き注視していく。
		民間職業紹介機関（経営者）	・中小企業は人手不足や原材料価格の高騰により、依然として厳しい経営状況にある。景気動向に大きな変化がなく、今後もこのままの状況が続くと考える。
		人材派遣会社（役員）	・中東情勢の影響により、派遣先企業の生産量が減少し、新規派遣依頼数の減少や中途解除が始めている。現在は半導体関連などの景気が良い派遣先企業からの依頼増加により、求人数は同程度だが、今後は減少傾向が強くなるとみている。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の影響により資材の調達が困難となり、事業所からは既に生産活動に影響が出始めているという話や、今後生産調整が必要となるという声を多く聞いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・原材料や燃料の調達において、ものづくり企業が今後長期にわたって苦戦を強いられることは避けられない。特に潤滑油関連は深刻であり、この影響がいずれ全ての業種に及ぶのは確実である。
	x	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		百貨店（サービス担当）	・今後も従来の傾向に変化はなく、新規ショップの開店や食料品フロアの改装効果で来客数が増え、売上の確保につながる。また、今夏は猛暑が予想されるため、クールビズ商材の販売拡大で売上が増加する。
(近畿)		家電量販店（企画担当）	・2027年の蛍光灯の販売中止に伴う、LEDの販売増加が続くと予想される。
		一般小売店〔化粧品〕 （経営者）	・客単価の上昇傾向は続くと予想されるが、低単価品が中心の他社店舗は順調に推移しているため、化粧品を購入する客はやや増加傾向にある。通勤でマスクの利用がほぼなくなるなど、かつての日常的な場面が戻り、基礎化粧品や紫外線対策の化粧品は順調に伸びているため、今後もこの状況は続くと予想される。
		百貨店（管理担当）	・改装も落ち着いてきたため、売上の大幅な改善を見込んでいる。
		百貨店（マネージャー）	・6月末にはリニューアルオープンを迎え、来客数の増加が予想されるため、今後は売上の上振れが期待される。
		百貨店（外商担当）	・新店舗の開業による影響は、富裕層を中心にしばらく続くほか、インバウンドもピーク時に近いレベルに回復している。
		コンビニ（経営者）	・気温が例年よりも高くなり、晴れの日も増えるなか、食品メーカーと共同開発した飲料の売出しが今シーズンは多いため、飲料の販売が伸びる。
		コンビニ（経営者）	・来客数は現在の水準で推移しそうであるが、今後はまた値上げラッシュがありそうで、客単価の上昇が予想される。
		コンビニ（経営者）	・来月からは繁忙期に入るため、期待される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・地域の大きな祭礼の時期が近づいており、先行きに期待している。
		コンビニ（経営者）	・暑くなれば、飲料や食品の売上は増える。
		家電量販店（店員）	・新たな省エネ基準の導入に伴い、売上が右肩上がりとなるのは間違いないが、単なる需要の先食いであるため、今後の動きが重要となる。
		乗用車販売店（役員）	・新車では新型モデルの発売が予定されており、現状よりも良くなると予想される。ただし、世界情勢や経済環境は不透明であり、物価上昇も続くため、高額な耐久消費財への消費は積極性に欠けそうである。さらに、高額な国内メーカーや新興メーカーのモデルのほか、輸入車との競合もあり、競争環境は従来よりも厳しくなる。
		乗用車販売店（マネージャー）	・株価の上昇に伴い、景気は少しずつ上向くと予想される。ただし、株価の上昇と景気の回復のスピードには、大きな差がある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・インバウンドの予約は団体客、個人客共に伸びている。それに伴い、客室単価を上げて販売しているが、宿泊税の増額で不満が出ているのも事実である。ただし、宿泊に伴う食事や定例開催の食事会も受注できているため、宴会、食堂共に売上は確保できる見込みである。
		通信会社（社員）	・物価の上昇傾向が続くなかでも、比較的成本の低い固定回線でのインターネットの利用には割安感がある。
		通信会社（社員）	・今は閑散期であるが、今後は例年であれば、新商品が発売される時期となる。
		テーマパーク（職員）	・原油の輸送問題が解決すれば、エネルギー価格の上昇も一旦は落ち着いてくる。
		観光名所（企画担当）	・前年のゴールデンウィークは大阪・関西万博の開催効果が出始めた頃であり、今年はその反動が出ているものの、前年を少し上回る来場者となったため、今後も回復が続く期待が出てきている。
		その他レジャー〔スポーツ施設〕（経理担当）	・中東情勢の改善により、先行きは良くなる。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・アロマオイルのマッサージで服を脱ぐため、寒い時期よりも暑い時期の方が来客数は増える。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・中東情勢が落ち着かなければ、今後も状況は変わらない。
		一般小売店〔手ぬぐい〕（経営者）	・やや悪くなると予想されるが、大きくは変わらないとみられる。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・物価の上昇に一般消費者の所得が追いついていない。株価は上昇しているが、实体经济への影響はみられないなど、今後も厳しい状況が続く。
		百貨店（広報担当）	・今年に入って、国内客の売上は前年を上回る傾向が続いているが、現実問題としては中東情勢による消費マインドへの影響が懸念される。
		百貨店（マネージャー）	・ここ数か月の状況に大きな変化はない。今後も特段の変動要因はなく、数か月は今の流れが続くと予想される。現状、中国人客が半分以上となったものの、台湾や韓国などのアジアからのインバウンドは好調が続いている。円安などの影響もあって、単価は大幅に上昇した。国内客もこの数か月で大きな変化はないが、外商を中心とした富裕層の好調が続いており、売上は前年を少し上回る傾向となっている。
		百貨店（マネージャー）	・外部環境の変化の影響もあるが、大きな流れは変わらない。好調なインバウンド需要は、中国以外からの増加で、特選品を中心に客単価が非常に高い。また、富裕層に対する新たなアプローチとして、外商の上位客への特別な接客が本格的に始まる。国内客の中間層も、夏のレジャー商材の売行きが期待されるが、その一方で選択消費が強まることも予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・今月の推移から、大きな上振れや下振れとなる要素はなく、消費は現状維持が予想される。
		百貨店（販売推進担当）	・株価などが高水準で維持されれば、富裕層の購入は増えるが、原油価格の上昇による水道光熱費の負担増などで、一般の家庭では生活防衛による買い控えが発生する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（外商担当）	・最高値を更新した株価は、今後も高値が続くと予想され、富裕層の需要は旺盛となるため、海外の高級ブランド品や高級時計の需要は増え続けることが確実である。
		百貨店（営業推進担当）	・原油相場の不安定感や、価格の高騰に伴う物価上昇の影響が予想される。
		百貨店（マネージャー）	・現在の景気は上向き傾向にあるが、中東情勢の変化による物価上昇の影響が本格化すれば、買い控えの動きが増える。
		百貨店（商品担当）	・様々な部分で不透明感が非常に強いいため、今後も状況は変わらない。
		百貨店（宣伝担当）	・中国のインバウンドによる免税売上が前年比で半減しており、この状況は今後も続くと予想される。今後は原油価格の上昇による、様々な商品の値上げが進むなか、特に中間層の消費意欲の減退を懸念している。宣伝広告の見直しなどで対応しているが、厳しい状況が続く見込みである。
		百貨店（商品担当）	・株価の上昇による外商客や富裕層への良い影響がみられ、宝飾や時計などの販売は好調が続くと予想される。一方、前年の大阪・関西万博による反動減は不透明であり、関連売上の喪失は厳しいが、前年は大阪・関西万博に回った消費が、今年はどこに回るかが注目される。燃料価格の上昇による海外旅行の減少を含め、今夏の消費動向には期待が掛かる一方、全体的には物価上昇などの不透明感も強い。
		スーパー（店長）	・中東情勢などによる物価の上昇に、収入の増加が追いついていない。
		スーパー（店長）	・良くなる情報はなく、改善に向けた雰囲気もない。
		スーパー（社員）	・購買意欲が比較的高い若年層の客は、低価格に惹かれて競合スーパーに流出している。やや年配の客は、引き続き来店がみられるものの、購買意欲は高くないため、今後も厳しい状況が続くそうである。
		スーパー（企画）	・ナフサの流通の目詰まりによる包装材の値上げもあり、食品の価格は今後上昇が進むため、消費の冷え込みが予想される。
		コンビニ（店員）	・長期休暇の時期となるため、旅行客の来店が多くなる。
		衣料品専門店（店長）	・今まではスーツの生地価格などが上昇していたが、ここへきて原油を材料としたボタンや裏地などの価格上昇も始まっている。工場からの出荷コストが上がるなか、販売量は維持できると予想されるが、利益は圧迫されている。
		乗用車販売店（販売担当）	・ガソリン代に対する補助金のお陰で、車の買い控えまでには至っておらず、しばらくは現状のままと予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・現状の抜本的な見直しがなければ、販売台数は伸びない。
		乗用車販売店（営業担当）	・地政学的リスクが緩和され、物流が落ち着くまでは、厳しい状況が続く。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・宝飾品業界では、材料である地金相場が高止まりしているほか、直接の関係はないものの、ナフサ不足による資材価格の高騰や資材不足で、値上げや企画の変更、欠品なども起きている。現時点では、景気の上向き要因が全く見当たらない。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・食品や日用雑貨などの生活必需品の販売は減少に転じたが、気温の上昇に伴って、飲料などを含む夏物商材の売上は増加していく。その一方、花粉症も落ち着き、医薬品や健康食品、衛生用品の販売減少は避けられない。今後は大きな上昇要因は見当たらないが、UV関連や制汗剤などの夏物商材を中心に、化粧品や化粧雑貨の好調を維持していく。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・新カタログは発行されるが、目新しい商品が多くないため、状況は変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・これから梅雨や台風、猛暑などで外出しにくい季節になるため、余り期待はできない。
		高級レストラン（企画）	・国際情勢の不安定化によるインバウンドの減少を、国内需要ではカバーし切れず、今後の改善も予想しにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（企画）	・現状は原材料費や運送費、エネルギー価格などの伸びは鈍化しているが、包材費は増加傾向にある。また、人件費はパートの確保が厳しくなっているため、更なる引上げが必要であり、利益の確保に影響してくる。また、営業活動は好調に推移しているが、今後は中東情勢の影響が懸念される。
		その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・駅周辺では大規模な工事が続いており、今後も来客数への影響が懸念される。さらに、ナフサ価格の高騰や物価上昇の影響により、嗜好品は買い控えの傾向となる。今夏は例年以上の猛暑が予想されているため、非常に厳しい状況となる。
		観光型ホテル（経営者）	・社会情勢が不安定で、先行きの見通しが立たない。
		観光型旅館（経営者）	・様々な仕入商品の価格が高騰しており、景気に悪影響が出ている。
		都市型ホテル（管理担当）	・上向く要素が少なすぎる。
		通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・中東情勢が落ち着き、貴金属の相場が安定してくるまでは、今の状況と大きくは変わらない。
		通信会社（役員）	・市場環境の大きな変動要因は見当たらず、現在の景気動向が続くと予想される。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況を考慮すると、安定しているものの勢いはなく、良くも悪くもない状態である。
		競輪場（職員）	・通常であれば良くなる時期であるが、物価の上昇や中東情勢などが影響し、小幅の改善が横ばいの動きにとどまる。
		競艇場（職員）	・賃上げや物価の上昇、海外情勢の変化に加え、政治面の変化による影響など、様々な要素がどのように作用するのか、見極めが難しい。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・催事は順調に開催されているが、ナフサ関係では消耗品が調達しにくくなっている。また、施設の改修工事に係る塗料不足や塩ビシートの調達が困難となっており、計画的な改修計画の変更や見直しが必要となる。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球の交流戦や人気球団の試合のほか、人気グループのコンサートが予定されている。夏休み期間となるため、多数の来場者を見込んでいる。
		美容室（店員）	・複合的なメニューについては、オーダーを控える動きが少し増えている。
		住宅販売会社（企画担当）	・先行きが不透明なため、様子見の動きが多い。今後更に値上げが進めば、状況の悪化が予想される。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・仕事が途切れない安心感はあるが、作業員が足りない状態が改善される見通しは立たない。地方圏の社員に大阪での勤務を打診しても、良い返事が得られないため、現状の人員で対応するしかない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・金利の上昇を見据えると、今後の見通しは厳しいが、金融資産の管理の一環として、高額な不動産には一定の動きが続くと予想される。
		商店街（代表者）	・安い商品は動いているなど、客が価格にこだわる様子がみられる。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・現在の社会情勢のままでは、先行きの見通しは暗い。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・客との会話で多いのは、やはり物価上昇の話題である。前年からある程度は慣れてきたとはいえ、先行きが見通せない。食費の支出だけで精一杯というのは、年金生活者の切実な感覚であり、新しく何かを買う気にはならない。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・ナフサ不足の影響で、現場で利用するニトリル手袋などが不足している。
		一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・中東情勢の不安定な状態が続く間は、景気は良くならない。
		百貨店（売場主任）	・中東情勢の不安定化によるガソリンやナフサ価格の高騰で、生活物資の価格上昇が懸念される。取引先からは包材などの値上げが厳しいという声が上がっており、インフレ懸念が解消されなければ、今後の景気は悪化していく。
		百貨店（企画担当）	・株価と為替の変動による影響は大きく、国際情勢が不安定な状況では見通しを立てにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販促担当）	・今月は例年よりも気温が高く、雨も少なかったため、夏に備えるための商材を中心に好調であったが、2～3か月後には長引く暑さや猛暑の影響で消費の減退が進むことを懸念している。長引く暑さへのケアを軸とした商品の提案が重要となる。
		スーパー（経営者）	・食料品の消費税率引下げが決定していないため、消費者はますます生活防衛のために消費を控えている。
		スーパー（店員）	・高温が続く季節になると、野菜の生育が悪化し、価格の上昇が避けられない。それに伴い、客の様子も変わるため、先行きは不透明である。
		スーパー（企画担当）	・ナフサ由来商品の不足や値上げの動きが続くなか、インフレや中東情勢の先行きの見通しが立たないため、景気の悪化が予想される。
		スーパー（経理担当）	・物価上昇に歯止めがかからず、所得の増加も実感しにくい。自治体による給付策は少しあるものの、消費マインドに好影響を与えるほどのインパクトはない。
		スーパー（販売促進担当）	・政府はナフサの供給は落ち着くと発表しているが、中東情勢の沈静化は見通せず、景気回復に向かう材料がないため、しばらくは現状のままとみられる。
		スーパー（開発担当）	・中東情勢が安定せず、石油も入ってこないため、物価が上がり続けている。
		スーパー（企画）	・中東情勢の影響が長期化しており、6月からはナフサ問題による価格上昇分の転嫁が始まる予定である。ナフサ問題による負担の増加は、全体で1億円を超える予想であり、店頭価格に転嫁せざるを得ない。
		コンビニ（店員）	・中東情勢の緊迫化に伴う、原油価格や資源価格の上昇などに、景気の行方が大きく左右される。
		コンビニ（店員）	・中東情勢の影響で様々な制約が増え、便乗での値上げもみられる。当店でも手作りパンの売上が落ちたが、値上げが原因とみられる。
		衣料品専門店（店員）	・閑散期に入るほか、閉店となる店舗もあるため、状況は落ち着くと予想される。
		衣料品専門店（販売担当）	・物価の上昇によって、商品の価格を上げざるを得なくなるため、今後は売上に悪影響が出る。
		家電量販店（店員）	・エアコンの需要に対して、工事用の部材が足りないため、受注を制限する事態になる可能性がある。エアコン本体もメーカーの製造が追い付かない恐れがあり、夏の需要が前倒しになっている。
		家電量販店（人事担当）	・エアコンの販売が例年よりも早く伸びているため、今後は反動減が心配される。
		乗用車販売店（経営者）	・原油を始めとする、原材料価格の高騰が、物価を賃金以上に押し上げている。
		乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が落ち着くまでは、石油製品の値上げも終わらず、景気が上向くことはない。日中関係の変化やロシアとウクライナの関係も落ち着かないため、日本の景気も悪化する。
		住関連専門店（店員）	・価格の高騰の影響で悪化する。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・中東情勢の問題が解決しない限り、物価の上昇がエスカレートし、消費の落ち込みが予想される。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・賃金の上昇見込みは薄い一方で、今後は日用品の値上げが避けられないなど、物価の上昇が進む。
		その他小売〔ネット通販〕（管理担当）	・中東情勢の先行きが不透明である。
		一般レストラン（経営者）	・当市限定で、人気のプレミアム付商品券のキャンペーンが始まり、飲食店での利用が増える見込みのため、景気は少し良くなる。ただし、食品の値上げに続き、ナフサ不足で消耗品などの値上げや物資不足が進み、支出が増えているため、今後も先の見通せない不安な状態が続く。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・買物に出掛けた際に、いつもと同じ量を購入しても、合計額がかなり上がっているほか、周囲の人からも所得が厳しいという悩みをよく聞く。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・中東問題を含めて良い材料がなく、景気の上向く気配がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経営者）	・前年は大阪・関西万博の開催で6～7月は団体客が多かった反動により、今年は団体客の受注減少が顕著である。個人客の動きも5月ほど活発ではないため、今後は来客数、販売量共に苦戦が予想される。
		都市型ホテル（客室担当）	・稼働率が伸び悩んでいる。
		都市型ホテル（客室担当）	・夏休み期間の予約の進捗状況は前年を下回っている。大阪・関西万博の開催で、高単価での販売が増えた前年とは異なり、販売価格が伸び悩んでいる。
		旅行代理店（役員）	・長引く中東情勢の変化のほか、光熱費や物価の上昇による先行き不安から、旅行を控える動きがみられる。また、円安傾向の継続に加え、燃油サーチャージの引上げによる影響もあり、海外旅行の需要への影響が徐々に出てきている。海外旅行、国内旅行共に予算を抑えるために、行き先は近場を志向する傾向がみられる。
		旅行代理店（支店長）	・株価の上昇など、好影響が期待される材料もあるが、現実的な環境には良くなる印象が持てないという客が多い。今夏も猛暑が予想されるなか、外出を後押しするイベントも少ないため、今後は悪化に向かう。
		タクシー運転手	・中東の海峡封鎖の問題が続くなか、輸入に対する確実な安心感が必要であり、それまでは明るい兆しがない。
		通信会社（営業担当）	・中東情勢が改善しない限り、半導体メモリの価格高騰による原価上昇の動きに変化はない。
		遊園地（経営者）	・原油価格の上昇が、電気代などの身近な部分に波及してくることで、レジャーなどの余暇消費に対して財布のひもが固くなる。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・今年も猛暑となるほか、物価の上昇で余暇消費の減少が危惧される。
		美容室（店長）	・物価の上昇で節約志向が強まり、化粧品に対する節約傾向が進んでいる。それに伴い、今後は厳しい状況が予想される。
		その他サービス[学習塾]（スタッフ）	・海外情勢の影響で、日用品や食品などの品不足や値上げが続くなか、教育費が削られるおそれがある。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅ローンの金利が上昇傾向にあり、客足が止まりつつある。
		住宅販売会社（経営者）	・地価が高水準で推移しているため、消費者の購買意欲が低下しており、今後は自然と価格調整局面に入ることが予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・金利の上昇や中東情勢による資材不足、工事費の高騰など、不動産の開発環境は厳しくなっているため、調整局面を迎えると思う。
		その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介]（経営者）	・金融機関の融資基準の厳格化に加え、物価の上昇や原油の供給不安などに伴う節約意識も働くため、消費は減速する。
		その他住宅[展示場]（従業員）	・住宅ローン金利の急上昇に加え、ナフサ価格の高騰による建築費の上昇も懸念されるため、今後は消費者マインドが更に悪化する。
	×	一般小売店[貴金属製品]（従業員）	・物価上昇の悪影響が出る。
	×	一般小売店[衣服]（経営者）	・中東情勢の影響で、物価の更なる上昇が懸念されるなか、景気が良くなる要素は全くない。
	×	一般小売店[雑貨]（店長）	・商品の値上げりに伴い、買い控えが発生する。
	×	一般小売店[ガラス細工]（店長）	・株価は上昇しているが、不安要素ばかりで安定しない状況であるため、危機感が拭えない。
	×	一般小売店[呉服]（店員）	・着物はぜいたく品であり、消費者は必要な物から順番にお金を使うため、社会情勢が安定しなければ着物は購入されない。
	×	一般小売店[花]（店員）	・石油関連の資材価格も高騰しているため、利益率が下がっており、今後も厳しい経営となる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・収入に対する食料品への負担割合が高まり、洋服を買う状況ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	衣料品専門店（経営者）	・売上の動きをみると、サービス品が必要不可欠な商品のどちらかとなっている。近隣の飲食店も、いつも満席の店舗で空席が増えている。
	×	乗用車販売店（経営者）	・原油が入ってこない影響で、エンジンオイルなどの入荷もない。整備にも影響が及び、状況は悪くなる。
	×	住関連専門店（店長）	・建築、インテリア業界では、石油製品が不足気味な状況を受けて、工期や納期の遅れに関する話題が少しずつ出始めている。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・ガソリン補助金も、財源の問題でいつまで続くかは分からない。政府は補助金の基準価格の見直しなど、今後の対応を検討中であるが、中東情勢の影響が長引けば、燃料費の高騰によって更なる物価上昇につながる懸念される。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価の上昇や、自転車への新たな規則の導入、中東情勢など原因はいくつかあるが、都市部と違って人通りがなく、天候に左右される小さな街では、先行きに不安しかない。
	×	一般レストラン（店員）	・物価の上昇が止まらない限り、状況は良くならない。
	×	観光型旅館（経営者）	・時期的な動きもあるが、予約状況は芳しくない。
	×	通信会社（経営者）	・今後も円安傾向が続くと予想される。
企業 動向 関連 (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・中東情勢が見通せないなか、円安の進行や海上運賃の高騰など様々な影響が出ており、物価の上昇気運も高いことから、販売面への悪影響が予想される。一方、取引先からはナフサ関連の引き合いがあり、価格が高くても成約につながる案件がみられる。
		化学工業（企画担当）	・中東の海峡封鎖の問題が解決するとの予想から、先行きは良くなる。
		輸送業（サービス担当）	・中東情勢が落ち着けば、雰囲気は良くなる。
		繊維工業（総務担当）	・生活費の負担が増えるなか、消費者が楽しめる企画を検討し、取引先と参加型のイベントなどに取り組んでいく。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現時点では、改善への期待は薄い。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・受注の先食いがみられるため、余り良くならないと予想される。今年後半までは、鈍い動きが続きそうである。
		金属製品製造業（製造担当）	・先行きの見通しが立たない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の長期の投資計画が、石油価格の高騰によって見直されているため、数か月後の景気は悪化傾向となりそうである。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・中東情勢の影響で先行き不透明であるが、大きな変化はないと予想される。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・販売店には前向きな意識がみられない。生活必需品の価格上昇や石油製品の入手困難など、不確定要素による不安な雰囲気広がっている。
		建設業（経営者）	・現状から判断すると、引き合いが増えても受注はそれほど増えないため、状況は大きく変わらない。
		輸送業（商品管理担当）	・例年7～9月は家具の売上が減少するが、酒類は売れるため、大きくは変わらない。
		広告代理店（営業担当）	・上半期では、良くなる材料が見当たらない。
		司法書士	・現状が大きく変わることはない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・長引く中東情勢の影響から、夏の電気代の高騰が懸念される。その一方、ゴールデンウィークの売上状況をみる限り、一定の節約志向は続くものの、メリハリのある消費行動がみられるため、大きな影響はないと予想される。
		その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	・政府による積極財政政策では円安に歯止めがかからず、原材料価格の上昇は今後も続くと予想される。
	食料品製造業（従業員）	・中東情勢の影響が続くなかで、一部の資材の動きは好転しているが、供給のない資材もあるため、今後は生産ができなくなる可能性もある。また、当然ながら仕入価格も高騰している。	
	食料品製造業（管理担当）	・大阪・関西万博の復刻商品の販売が始まり、商品の売行きは好調であるが、前年の売上には届いていない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（営業担当）	・物価の上昇により、今後の売上は厳しくなりそうである。
		繊維工業（管理担当）	・仕入原価の変動が予想される。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・夏のイベントに期待しているが、原価の上昇による利益率の低下を懸念している。
		化学工業（製造担当）	・中東情勢の影響の長期化による石油価格や建築資材価格などの高騰は、すぐに改善されるものではない。インク等の製品も作れなくなる場合、当社のパッケージ費用などに即座に影響はないものの、何らかの対策を講じる必要がある。
		化学工業（管理担当）	・中東の海峡封鎖が続くかどうかにより左右される。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・中東情勢の不透明感を主な要因とした、石油関連価格の上昇は避けられず、更なる物価の上昇が進むと予想される。さらに、実質賃金は低下傾向で個人消費への悪影響が予想されるため、景気はやや悪くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・自動車関連の7～9月期の受注内示が、減少傾向となっている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・先行きの見通せない要素がある限り、購入意欲は下がらざるを得ない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・ナフサ不足により、ゴミ袋などの身近な商品の価格が上がるだけではなく、そもそも買えない状況となっている。この状況が長引くようであれば、更なる景気の悪化は避けられない。
		建設業（経営者）	・取引先の業績も今後は不透明で、設備投資にも慎重な姿勢がみられる。建設資材の納期が不確定なほか、価格の高騰により、当初の計画からかい離しつつある。
		輸送業（経営者）	・現時点はエンジンオイルの備えが少しあるが、今後はトラックの運転を更に減らす必要がある。
		輸送業（営業担当）	・部分的な運賃の値上げを試みた結果、客離れにつながるなど、物流業界での値上げは困難である。
		輸送業（営業担当）	・石油不足が解消されるまでは、今の状況が続くと予想される。
		金融業〔保険〕（経営者）	・物価やエネルギー価格の上昇、実質賃金の伸び悩みにより、個人消費の低迷が続くと懸念される。さらに、海外経済の減速や金利の上昇、人手不足による企業の負担増加も重なり、設備投資や中小企業の経営に悪影響が広がることで、景気の減速が進む。
		金融業（営業担当）	・中東情勢の影響は、落ち着いてからも数か月は続きそうであり、今後はやや悪くなると予想される。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・早く中東問題を収束させ、通常原油の流通を確保してほしい。
		金融業（営業担当）	・中東情勢の影響の長期化により、仕入商品の価格が高騰する。
		広告代理店（管理担当）	・価格の高騰が著しい。
		経営コンサルタント	・今の状況は今後も落ち着かず、対応できる中小企業は限られているため、投資を控えるか、経営に行き詰まる動きが増える。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・中東情勢が落ち着けば、今の状況は変わるが、このまま混乱が続けば、商品不足の影響で売上は減少する。
	×	化学工業（経営者）	・中東の海峡封鎖の影響で、原材料価格は軒並み3～4割の値上げとなり、有機溶剤に至っては2倍以上の価格となっている。さらに、原材料の入荷が不安定で、遅延も多くなれば、さすがに景気は急降下せざるを得ない。
	×	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・中東情勢の影響が長期化する見通しのため、原材料価格が大幅に上昇する。
	×	建設業（経営者）	・中東情勢の先行きが見通せない状況では、資材価格の高騰や入荷の遅延は避けられない。このままでは営業や受注の制限を検討する可能性が出てきている。
	×	通信業（管理担当）	・原油価格の上昇で、非常に厳しい状況となる。
	×	不動産業（営業担当）	・今後は中東情勢により物価が更に上がると予想される。賃料の低下や空室率の上昇に加え、物価の上昇などで景気は悪くなる。
	×	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・材料が入ってこないほか、材料価格がかなり上がっている。また、納期が未定といったケースもある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・中東情勢の安定が見通せないなか、状況の悪化が予想され、夏にかけて業況は大きく落ち込む。
雇用 関連 (近畿)		-	-
		人材派遣会社（役員）	・賃金のベースアップが反映された魅力的な求人の増加が、求職者の活発な動きにつながる。
		人材派遣会社（支店長）	・物価上昇の影響は余りみられず、市場はかなりのスピードで動いている。
		民間職業紹介機関（職員）	・学校の夏休み期間中の改修工事などで、求人数の増加が見込まれる。
		人材派遣会社（営業担当）	・依然として事務職を希望する求職者が多いなか、求人のミスマッチが発生している。現状は求人の減少がみられる一方、求職者は多いという構造が固定化しているため、求人市場全体の景気は今後も変わらない。企業による採用の抑制と、求職者の根強い就職希望が続くなか、好況にも不況にもならない停滞感が続く見込みである。また、企業による事業の効率化が進んでも、雇用の流動化にはつながらないため、市場はしばらく平行線をたどると予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	・物価上昇への不安から、求職者が時給の条件にますますシビアになっている。
		職業安定所（職員）	・求人数は前年と同水準であるが、不安定な国際情勢が先行きの不安材料となっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・2028年卒業者向けのインターンシップの広報は、恐らく今が参加動員数の最盛期とみられる。下半期以降は参加数が減る見込みであるが、出展企業側としては、秋冬のインターンシップやオープンカンパニーを実質的な企業説明会として実施しているため、夏に獲得した学生をどれだけ引き止められるかが課題である。そこでうまく引き止められなかった企業が、秋冬インターンシップの合同企業説明会への出展や、情報メディアへの広告掲載を増やすとみられる。一方、2027年卒業者の求人は2月が最盛期であり、今後は徐々に縮小傾向となるが、内定辞退がどこまで出るかによって、今後の求人数が変化すると予想される。
		その他雇用の動向を把握できる者	・事業所からは、中東情勢の影響でナフサ由来の原材料が入手困難という声や、仕入価格の急激な上昇を懸念する声が出ている。雇用に影響を及ぼす事態にならないか、状況を注視しているが、現状では大きな変化はみられない。
		人材派遣会社（支店長）	・石油関連の仕入れの混乱が収まらない限り、状況は更に悪くなりそうである。
		人材派遣会社（管理担当）	・中東情勢の影響の長期化により、各種値上げや商品不足が発生している。この状況が好転しない限り、景気が良くなることはない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新聞広告の受注は、中東情勢などの影響があり、今後の見通しを下方修正せざるを得ない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・これまでの物価上昇への対策が進んでいるとはいえなにか、今回の原油の問題も同じ道をたどると予想される。
		職業安定所（職員）	・中東情勢を不安視する企業が多く、既に影響を受けている企業もみられる。
	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響による、材料不足が顕在化する。	
	職業安定所（職員）	・中東情勢の先行きが不透明とする事業所が多いほか、受注の減少や価格の高騰に苦慮している企業が多い。	
	民間職業紹介機関（営業担当）	・本格的な人員の補充は9月以降となるケースが多いため、現状は中だるみのような状況で、求人数、求職者共に減少が予想される。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・A Iの普及や雇用形態の変更などで、文系の新卒の雇用を減らす企業が出始めており、就職活動の後半戦に影響が出てくることを懸念している。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢が不透明ななか、原材料価格の高騰による影響を受ける。賃上げ幅が一般企業と比べて小さいため、特に若手人材の流出が懸念される。当面の求人事業所数に変化はないとみられるものの、採用予定人数を含めて、先行きは不透明である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職担当）	・エネルギー関連や石油製品などの調達難やナフサ不足のなか、日用品や建築資材など、あらゆる分野に影響が出ている。通常の業務に支障が出ている業界もあり、業務の停止や、最悪は倒産に至るケースも考えられる。
	x	*	*

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (中国)		観光型ホテル（予約担当）	・夏にリニューアルオープンするため、新規顧客が増えると考えられる。
		商店街（代表者）	・新規出店の問合せがコンスタントにあり、街に動きが出てきている。
		スーパー（店長）	・現状の傾向は継続するとみられる。原材料価格の上昇による影響は出てくると考えられるが、食に関する部分では、支出が大きく減少することはないとみられる。また、まとめ買い傾向についても大きな変化はないとみられる。一方で、賃金上昇もあり、生活様式は変化しつつあるように見える。
		スーパー（業務開発担当）	・安価な物が多いが、販売点数は少し上昇しているため、ボーナスシーズンに期待している。
		衣料品専門店（代表）	・当市では物価対策でプレミアム付商品券を発売するため、一時的に景気は良くなるとみられる。
		乗用車販売店（業務担当）	・生産が増えることにより販売台数も増えていく。
		乗用車販売店（営業担当）	・商品ラインアップの減少で苦戦したが、今後の商品力でやや良くなる見込みである。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・資材不足や高値など不安材料も多いが、ここ数か月の流れから観光客数は増えると推測している。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・ゴールデンウィークもあり、レジャー関連に支出が回ったとみられる。ボーナスシーズンに期待したい。
		一般レストラン（経営者）	・物価上昇が身に染みて、どこか諦めがついたような気持ちになっている。こうした時代なのだと受け入れつつも、今より少し景気が良くなるような感覚もある。
		バー（経営者）	・少しずつ来客数が増えてきている。
		商店街（代表者）	・政府の積極財政や株価上昇は明るい材料ではあるものの、中東情勢の影響により先行きが見えない状況なので、景気は横ばいで推移する。
		商店街（代表者）	・徐々に売上は良くなっているが、過去の実績には及ばない。今後の景気については、依然として先行き不透明な状況である。
		商店街（代表者）	・国内外の観光客の動きはあるが、地元客の動きは鈍い。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・原材料が大幅に上がり、夏枯れがひどくなりそうである。
		百貨店（営業担当）	・手頃だから、ついでだから購入するということは少なくなってきた。高額であっても資産になる物なら欲しい、買い求めたいという考え方が主流になっている。
		百貨店（営業担当）	・購買意欲が湧くような新商品やトレンド等の兆しが無い。
		百貨店（売場担当）	・中東情勢が安定しないと国内の景気が安定するはずもなく、当面は今の状況は続く。地域的にも右肩下がり傾向なので厳しい環境は継続する。
		百貨店（外商担当）	・富裕層の購買意欲は向上しているが、食品を中心とした物価高の影響もあり、中間層の動きはまだ鈍い。
		スーパー（店長）	・原油価格高騰に伴う物価上昇で、客の財布のひもは固くなり、外食を避け、内食傾向が増えると考えられる。それにより身の回りの景気は現状維持とみられる。
	スーパー（店長）	・節約志向は継続しており、セール日に客が集中するなど行動に現れている。	
	スーパー（販売担当）	・中東情勢の影響によるLPG供給の不安定化に伴い、値上げが既に案内されていることから、販売量が一定程度落ち込むことが予想される。一方で、暑さ対策関連商品については生活必需品であり、直近の猛暑の影響もあって売上の下支えとなることが見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（営業システム担当）	・ナフサ不足による値上げが見込まれるとの報道もあり、消費者の心理的負担の高まりから、必要以上の買物はこれまで以上に抑制されていく見込みである。自治体からプレミアム付商品券が発行されているが、効果は限定的で、根本的な購買意欲の上昇は見込めない。
		スーパー（販売担当）	・今後1～2か月は現状が続くとみられる。
		コンビニ（店長）	・毎月のように値上げが続く状況が最近の習わしとなっており、支出を抑える傾向が徐々に強まっているとみる。ただし、これから暑くなるので、来客数は増加するとみられ、相対的に大きな変化はないとみている。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・物価高騰のあおりを受ける恐れがあり、他業種との価格競争になってくるとみられる。付加価値のある自社商品を中心に差別化することがより大切になってくる。
		家電量販店（店長）	・エアコンの新たな省エネ基準の導入を背景に、駆け込み需要による前倒しの販売増加が見込まれる。
		家電量販店（副店長）	・エアコンの新たな省エネ基準の影響は今後も継続すると見込まれ、旺盛な需要が期待できる。その分、来客数の伸長も継続するとみられる。
		家電量販店（企画担当）	・エアコンの販売は好調に推移するとみられる。
		乗用車販売店（経営者）	・良くなりそうな要素がなく、仕入単価の上昇が見込まれる。
		乗用車販売店（営業担当）	・今後の市場動向が読めないため、現在の計画に対しての遅れ分を修正し、立て直しを図る必要があり、例年の市場水準まで回復してほしい。何とかこの状況を打破していきたい。
		乗用車販売店（統括）	・良い材料がない。
		乗用車販売店（店長）	・環境性能割の廃止があっても、購入意欲への影響は限定的とみられる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・中東情勢の影響による経済の悪化が懸念される。ガソリン価格の高騰による物流費の上昇やナフサ問題に起因する資源価格の高騰がみられる。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・大きなトピックスがない。
		一般レストラン（経営者）	・当市でもようやくプレミアム付商品券が使えるようになったが、生活が助かるという実感が余りないのが残念なところである。
		観光型ホテル（副支配人）	・お盆の時期は宿泊予約が集中して入っているが、その前後はまだ閑散としている。
		タクシー運転手	・1日を通して乗車率が低下しており、梅雨に入る6月も期待できない。
		タクシー運転手	・中東情勢の解決のめどもみえず、現状が良くなるとは考えられない。
		タクシー会社（営業所長）	・今年は猛暑予想のため期待が持てると思っていたが、中東情勢の影響でエネルギー価格が上昇し、エンジンオイルや尿素水などが手に入りにくい状態が続けば、運行に更に大きな影響が出てくるとみられる。
		通信会社（企画・総務担当）	・頭打ちの個人向けからビジネス向けにシフトする傾向があり、全体として景気状況は変わらない。
		通信会社（企画担当）	・生活関連物資の値上がりにより、家計のひっ迫が懸念される。一方で、商品に対する関心や引き合いは減少しておらず、むしろコンスタントにある。
		テーマパーク（業務担当）	・6月、7月と予約は伸び悩んでいるが、8月のお盆期間は例年並みの予約状況である。これから降雨や暑さなどの気象条件で大きく左右される夏季期間となり、ギリギリでの動きになると予想される。
		ゴルフ場（営業担当）	・6月初旬には梅雨入り、梅雨明けには猛暑と、例年と変わらず集客は厳しいとみられる。
		競艇場（企画営業担当）	・現状の売上のまま推移するとみられる。
		美容室（経営者）	・2～3か月の短期間で大きな変化は見込めない。前年と比較すると物価はかなり上昇しているのに、所得の上昇は追い付いておらず、厳しい状況に置かれているという声を聞く。
		設計事務所	・これまで周囲の変化がありながらも、一定のスピードのまま進行している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・建築費の高騰が改善される要素が見当たらないため、建築することを様子見している顧客が多い。
		一般小売店〔食品〕	・中東情勢の影響により、食品関連の資材が20～30%上昇している。それに伴い、食品価格の上昇も避けられない状況である。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・今年も猛暑が予報されていることから、客足の鈍化が懸念される。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・煎茶に続き抹茶についても仕入価格の上昇が見込まれており、抹茶は2年連続での値上がりとなる。輸出はともかく、国内における一般的な日本茶需要の減少が懸念される。
		百貨店（営業担当）	・地方経済も国際情勢に影響されることが多く、先行きが見通せない。
		スーパー（店長）	・1品単価は上昇し続けている。米の価格はやや落ち着いてきているが、他の商品については価格が高止まりしている。
		スーパー（店長）	・中東情勢の影響により、石油の輸入が困難になっており、関連商品も値上がりするとみられる。客は生活防衛意識が働き、景気は厳しい状況となる。
		スーパー（財務担当）	・今後も商品や資材の値上げが続くとみられ、消費者の低価格志向がますます強くなり、1人当たりの買上点数が前年を下回る状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・中東情勢が景気に影響を及ぼすと考えられる。
		衣料品専門店（経営者）	・食料品や日用品の値上がりが続いており、家計の負担が大きくなっているという声が多く聞かれる。
		衣料品専門店（経営者）	・客にややピリピリした雰囲気がある。消費における量的な満足感よりも、一つ一つのアクションに対する心の充足が重視されているとみられる。
		乗用車販売店（営業担当）	・3か月前と比べると販売台数は減少している。物価高の影響により車両販売価格が上昇しており、より安い車を求める客が増えている。また、石油製品が今後値上がりすることも懸念される。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・中国からのインパウンドは更に減少する。
		その他専門店〔革製品〕（店主）	・今月はオーダーメイドの依頼がややまとまって入っていたものの、残りの依頼はあと少しとなっており、やや悪くなるとみられる。今後、制作予定の新作に人気が出れば、現状と変わらない程度になる可能性がある。
		その他専門店〔宝石店〕（店員）	・中東情勢の先行きの不透明感から消費は減少傾向にある。原料価格の高騰を受けて、近々価格改定を予定しており、景気の上向きは期待しにくい状況である。
		一般レストラン（経営者）	・食材価格の高騰に伴い、6月より価格改定及びメニュー改定を実施する予定であり、これによる来店頻度の低下が懸念される。特に、現在好調に推移しているランチタイムにおいて、主力客層である女性シニア層の減少を最も危惧している。
		一般レストラン（店長）	・中東情勢の先行き不透明感で物価が更に高騰すれば、客の外食控えが加速するとみられる。上向きになる要素が余りない。
		都市型ホテル（宿泊担当）	・ここ数年の猛暑により、夏季における団体ツアーの集客が鈍い傾向にある。インパウンドツアーも同様に、春秋の観光シーズンと比較すると需要は減少すると想定している。
		都市型ホテル（宿泊担当）	・競合ホテルの改装や新規ホテルの開業等、市場の変化を予測している。
		都市型ホテル（総支配人）	・7月と8月の予約ペースが前年同期比で5%以上遅れている。
		旅行代理店（支店長）	・物価高並びに円安については、ある程度受け入れられているが、経済活動にも影響を及ぼす中東情勢が落ち着かないと需要回復は見込めない。
		通信会社（運用担当）	・中東情勢の影響により、経済の不安定化が懸念されている。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・中東情勢の影響が目に見える形で家計にも及び始めている。
		通信会社（営業担当）	・物価上昇の影響が強く、消費はより緊縮状態になると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（営業担当）	・夏季の閑散期に向かうことと、前年まで開催していた大型イベントの開催が中止となったことが重なっている。
		観光名所（観光振興担当）	・仕入価格の値上がり分を販売価格に転嫁しにくい。
		住宅販売会社（事業推進担当）	・世界情勢による金利上昇、中東情勢による引渡し遅延等、外的なマイナス要因ばかりであり、景気回復を見込める要素がない。
		住宅販売会社（住宅設計担当）	・中東情勢による建築資材への影響を販売側が不安視している。今後、影響が深刻化した場合には更なる懸念も想定される。このことは客にも伝わり、景気悪化につながる恐れがある。
	×	商店街（理事）	・様々な物の値上がりによって生活防衛意識が高まり、客の目的買い志向が強まることで景気は悪化していく。
	×	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・物価上昇の影響が大きくなると予想される。
	×	コンビニ（エリア担当）	・中東情勢が景気に大きく影響してくる。現時点では商品への直接的な影響はないが、今後はナフサの需要が拡大すれば価格が上昇し、供給が逼迫して入手困難な状況となれば、景気が失速することが懸念される。
	×	乗用車販売店（リース担当）	・様々な場面で入荷が滞るケースが増えており、そうした商品の価格上昇が進むことで、更に景気が悪化する可能性がある。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・何一つ良い材料がない。株価が上がっても一般消費者には関係なく、物価高によって優先順位をつけて生活必需品から買うしかない。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・中東情勢が安定しない限り、ガソリンや原油製品の価格高騰や提供不足は解消されず、安心できる生活を送ることができない。不安があると消費意欲が高まりにくいことから、今後景気は悪くなると考えられる。
	×	住関連専門店（営業担当）	・原材料費の値上げで、これから販売価格が上がってくる。
	×	通信会社（広報担当）	・物価高に対して利用できる金額が追い付いておらず、購買は進まない。
	×	通信会社（総務担当）	・石油由来製品の不安定な調達状況が日常生活にも影響してきているため、すぐに景気が良くなっていくとは考えにくい。
	×	美容室（経営者）	・急激な最低賃金引上げや物価上昇がキャッシュフローの悪化を招くとともに、利上げにより企業の体力が奪われていく。そこでの価格転嫁の可否が将来を左右する状況となっている。物価上昇に消費者が付いてこられなければ消費が冷え込み、無理な価格転嫁をすれば顧客離れで来客数減少のリスクがある。
	×	設計事務所（経営者）	・建築費の高騰を受け、価格上昇の影響が比較的小さい既存の建売住宅を選ぶ傾向にある。支払についても金利動向を見極めながら判断するため、意思決定ができない人が増えている。
	×	住宅販売会社（営業担当）	・建築費の増加や金利の上昇に伴い景気後退が懸念される。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車が立ち上がっており、今後も多忙な状況が続く。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・米国向け製品の需要の高まりがある。
		輸送業	・受注が増えている。
		農林水産業（従業員）	・好転する要素がない。
		食料品製造業（営業担当）	・6月以降も中東情勢の影響で消費者の買い控えの傾向は継続する。
		繊維工業（財務担当）	・原材料の安定供給が見通せない。
		鉄鋼業（総務担当）	・人手不足や資材価格の高騰により、建築案件の先送りや見直しが続く。
		金属製品製造業（総務担当）	・10月までは受注が多い状況が続くとみている。懸念材料は、切削油や塗料など生産に必要な部材が安定的に入荷されるかどうかである。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・取引先からの内示情報によると状況に変化はない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・客先からの内示情報は増えておらず、今後も変わらないとみられる。
		建設業（経営者）	・建設費の高騰傾向が続くなかで、ある程度織り込み済みの工事契約ができています。
		建設業（総務担当）	・中東情勢の影響で資機材の価格高騰や納期等のリスクはあるものの、ベースアップや価格転嫁がスムーズに浸透している実感がある。この状況は当面は変わらないと考えられる。
		輸送業（業務推進担当）	・特に大きなプラス要素やマイナス要素はないものの、国際情勢の影響による原油価格の高騰は懸念材料の1つである。
		輸送業（営業担当）	・2～3か月先の見積依頼では、新規の引き合いはみられない。
		輸送業（企画担当）	・中東情勢や南米の状況に大きく影響されるとみているが、現状のままであれば大きな変化はないと考えられる。
		金融業（主任）	・中東情勢の動向にもよるが、情勢が良好に向かっても、景気回復に時間を要するとのネガティブな見方をしている企業が多いとみられる。
		不動産業（総務担当）	・例年どおり、賃貸住宅の需要は落ち着く時期となるため、余り変わらないと予測する。
		会計事務所（経営者）	・中東情勢が長期化して景気全般を押し下げれば、サービス業にもマイナスの影響が時間差で出てくるため、懸念材料が払拭できない。
		食料品製造業（経営者）	・原油とナフサの価格の影響により、資材関連等の大幅値上げの要請が来ているが、新規商品等の資材までは約束できない状況とのことである。一段と先が見えない状況が続くそうである。
		化学工業（総務担当）	・中東情勢が落ち着いた後も、当面は物の動きが制限される気配を感じている。
		化学工業（総務担当）	・中東情勢の動向次第と考えるが、原油の輸入制限が続けば、石油化学製品への影響が大きくなる。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・有機溶剤やディーゼルエンジン用オイルの入手困難な状況が続いていると聞く。この状況が続けば、工場の操業停止や物流の停滞が生じる可能性がある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・物価高や人件費等のコスト増加の影響もあり、事業全体としての利益率は減少傾向にある。
		通信業（営業担当）	・中東情勢により資材調達への影響が出始めており、数か月後には調達価格の引上げや調達不能などの影響も予想される。
		金融業（経済産業調査担当）	・中東情勢に起因する原油価格の高騰及び円安による物価上昇圧力が徐々に顕在化する懸念がある。
		広告代理店（営業担当）	・中東情勢の緊迫化が続く限り、2～3か月先の景気の先行きは見通せない。
	×	建設業	・中東情勢の影響による品薄や価格上昇は収まる見通しが立っていない。
	×	通信業（企画担当）	・現状が改善する見込みはなく、更なる悪化の影響が予測されるため、データセンターやICT関連の受注量も減少すると予想される。
雇用 関連 (中国)		-	-
		人材派遣会社（経営企画担当）	・人材派遣の事業特性上、期初の稼働数とその年度のベースとなるため、大きな経済環境の変化などが起こらなければ、今期の業績も堅調に推移すると予想する。
		人材派遣会社（求職者対応）	・毎年夏の終わり頃から、フルタイム派遣だけでなく、週3～4日勤務や残業なしといったワークライフバランス重視の条件に人気が集まる。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・求人広告数が横ばいであることや、繁華街への人の流れが少ないことが挙げられる。
		求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・学生側、求職者側の動きに劇的な変化は起きにくいと考えられ、求人広告市場全体としては、変わらない水準で推移する見通しである。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・中東情勢の影響によるところが大きく、不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・海外情勢の不安が解消されない限り、当面は現在の状況が続くとみられる。企業業績にも影響を及ぼしかねないため、地方にとっては深刻な問題である。
		職業安定所(事業所担当)	・産業別に求人数の差はあるものの、人手不足の状況は当面続くとみられる。ただし、中東情勢の緊迫化を背景に、原材料費やエネルギーコストの増加による収益圧迫が広範囲に生じており、原油供給の動向によっては生産活動への影響も懸念されるため、今後の動向を注視する必要がある。
		民間職業紹介機関(職員)	・このまま採用ができない状態が続くと事業拡大に歯止めがかかる恐れがある。現状維持すら危ぶまれる可能性も出始めているのではないかと思えるほど人手が不足している。
		学校〔短期大学〕(進路指導担当)	・企業の採用意欲に急激な勢いはみられず、求人数の伸び悩みが続いている。一方で、採用活動自体が急激に縮小する気配もなく、今後2～3か月の景気も現状のまま推移する。
		人材派遣会社(事業部長)	・中東情勢の影響によりキャンセルとなった求人もある。現状、各種報道をみる限りでは具体的な解決の見通しが立っておらず、非常に不透明な状況である。長期化すれば、更にマイナスの影響が及ぶ可能性がある。
		職業安定所(職員)	・中東情勢の悪化に伴い、原油や石油製品の流通が不安定になっており、先行きが見通せない状況を企業から確認している。また、物価高に賃金水準が追いついていない状況である。
		職業安定所(職員)	・前年と比較すると、求職者数は横ばいである一方、求人数は減少している。建設業界では資材の相次ぐ値上げにより受注減少の声が聞かれており、先行きは明るくない。
		職業安定所(事業所部門)	・物価高騰や各種原材料価格の高騰を上回るような好転材料が少ない。
		民間職業紹介機関(人材紹介・派遣担当)	・人材紹介会社や派遣会社は求職者を獲得するために、求人検索エンジンへ今まで以上に広告費を注ぐ必要がある。一方、資本的な体力がない会社は、この先求職者数の確保に苦戦していく。
		学校〔大学〕(就職担当)	・ナフサ不足の影響が出始めている。採用数の減少には直接結びついていないが、中東情勢の改善がない場合、年末に向けて倒産件数の増加や採用人数の減少につながると予想できる。
	x	-	-

10. 四国(地域別調査機関: 四国経済連合会)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・暑くなると飲物が売れることに加え、中元の時期となるため、売上は増加するとみられる。
		コンビニ(商品担当)	・中東情勢の影響が落ち着き、平準化することを期待する。
		家電量販店(店員)	・季節商材とボーナス商戦で販売量の増加が見込まれる。
		家電量販店(副店長)	・引き続き前倒しの需要があると考えるが、その先については一旦売上が減少するとみられる。
		商店街(代表者)	・イベント等への来場者数は、かなり増加している。夏に向けていろいろなイベントを準備しているが、集客に対するマインドが段々高まっているようにみられる。
		商店街(代表者)	・郊外志向により、中心街から食品量販店が消える流れは、地方都市の存続に大きな課題を与えてきた。ウォークアブルな街づくりが、中長期的に中心市街地の活性化につながる可能性がある。
		商店街(代表者)	・原材料の価格上昇や入荷遅れが継続する状況であり、しばらくは顧客動向も現状のまま鈍い状況となっていく気配がする。
		商店街(常務理事)	・中東情勢を背景とする食料品や生活用品の相次ぐ値上げにより、今後も生活防衛色の強い消費行動に終始するとみられ、ここ数か月は環境の改善に期待を持ってない。
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・記念日や祝い事、お供えなど必要性の高い贈答品は、物価上昇を踏まえ予算を引き上げた注文が入るようになってきた。一方で、高額商品の注文は少し減ってきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・中東情勢や長引く物価上昇、コスト高で、消費動向は先行きが見通せない。
		百貨店（企画担当）	・中東情勢の影響等、先行きに不透明感がある。
		スーパー（店長）	・同じような状況が続いており、今後もしばらくは継続する。
		スーパー（企画担当）	・消費者の節約志向は依然として強く、買上点数等については減少傾向が続く見込みである。
		コンビニ（総務）	・6～7月は芸術祭終了後の反動減はなく、維持できる見込みであるが、8月は厳しくなるとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・商品単価の大幅な上昇により販売量が少し減少しているため、この状態が継続すると厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	・ここ何か月かの動きを見ていると、インバウンドの需要以外は消費は増えないのではとみられる。
		衣料品専門店（営業責任者）	・物価が高止まりしている。顧客との会話のなかでも物価高が意識されているため、改善の傾向を余り感じない。
		乗用車販売業（営業担当）	・人気車種の受注制限があり、近いうちに再度販売停止となる予定であるため、継続的な改善にはつながりそうにない。
		乗用車販売店（従業員）	・部品や油脂の欠品等の影響が徐々に出ており、長引くようであれば売上にも響く可能性がある。
		一般レストラン（経営者）	・例年、5～6月の売上は低調である。また、値上げを実施しているため、来客数に影響を与える。
		観光型旅館（経営者）	・オンハンド状況においては、単価の上げ幅によって増減はあるが、集客は見込める。
		都市型ホテル（経営者）	・中東情勢の影響については、相変わらず先が見通せない。一方、10月末から12月初めは、イベントの影響で多くの来県者が見込まれ、多忙となることが予想される。
		タクシー運転手	・タクシーの台数は増加しておらず、今後も増加する要因はみられないことから、現状のまま推移する。6月からの度重なる物価の上昇やタイヤ等の車両維持費の上昇で、小遣いが減少するという声が多く聞かれる。女性からは、家計や食費の捻出が大変という声があり、飲食に回る金額が少なくなるのではと判断する。
		通信会社（営業担当）	・来客数は大きな増減はないが、エアコン需要の客が非常に増加している。この動きはしばらく続く見込みである。
		通信会社（営業部長）	・例年の動きと同じであり、暑さから外出機会の減少も懸念されるため、変わらないとみられる。
		観光遊園地（主幹）	・大型イベントなどもなく、現時点で変動要因がない。
		美容室（経営者）	・物価の上昇で買い控えの傾向が続くとみられる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・ナフサなど石油由来の原料不足の影響により、一部入荷しない品物がある。テープ類は夏も入荷の見込みはなく、状況は相当厳しい。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・中東情勢の影響により更に不景気になり、買い控えに拍車がかかる。
		スーパー（店長）	・中東情勢の影響による石油関連製品の不足や値上げ、また、今後想定されるエネルギー関連費の高騰の影響により消費が落ち込むと予想する。
		スーパー（企画担当）	・今後、包材資材関係が値下がりするとは考えられず、生鮮食品を加工する場合に必要なマスク、手袋などの値上げも既に進んでいるため、値上げ幅はかなりのものになる。その結果買い控えなどが発生し、売上にも影響が出てくる。
		スーパー（統括担当）	・トレイなどの石油由来商品の値上げが事前の十分な調整なく通知されるケースもみられる。あらゆる物の値上げが心配である。
		スーパー（財務担当）	・物価上昇が続いており、実質賃金が減少し節約志向が更に進む。
		スーパー（人事）	・ナフサ不足による価格上昇や物資不足が生じている。こうした状況に対する政府の認識と、民間企業や消費者が実感する現場の状況との間にかい離がみられ、その差は今後更に拡大すると懸念している。
		コンビニ（店長）	・来客数が前年を下回っている。インフレにより商品価格が上昇し、客単価は上昇しているが、買上点数は減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・良くなる材料に乏しく、現状の減少傾向が続く見込みである。ただこの先石油製品の供給に支障が生じた場合には、商品や包材等の資材不足により、販売活動に影響が及ぶことを懸念している。
		乗用車販売店（役員） その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・物の不足による商品やサービスの価格の上昇を懸念する。 ・繁忙期であることと、今月が非常に良い数字が出ていることもあり、今より落ち着くと考えている。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・今後数か月は、今の状態が続く。
		旅行代理店（部長） 美容室（経営者）	・中東情勢や物価高の影響により消費マインドは低下する。 ・すぐに状況が良くなるとは考えられない。
		設計事務所（所長）	・資材や機器が現場に入りづらくなっており、工事が中断するといった事態も発生している。数か月後にまでこの状態が続くと減速する可能性が出てくるとみられる。
	x	衣料品専門店（経営者）	・中東情勢の影響による。
		-	-
企業 動向 関連 (四国)		繊維工業（経営者）	・消費者は燃料費や生活関連費の上昇で苦しんでいるが、我々の繊維雑貨は比較的単価低目のものが多く、それほど需要が減少しているようにはみられない。
		建設業（経営者）	・公共事業はこれからどんどん発注があるとみている。
		パルプ・紙・紙加工品 製造業（経理）	・ウェットクリーナーは供給過多になっている。価格が低い物が売れる傾向にあり、原料費の上昇を価格転嫁しにくい。今後も改善される見込みはなく、現状の打開は難しい。
		化学工業（所長）	・価格上昇は避けられない。各業界の工夫を経て対処することで結果的に全体の景気は変わらないとみられる。
		一般機械器具製造業 （経理担当）	・依然として不透明感強い。
		電気機械器具製造業 （経営者）	・開発した竹の資源の販売は、カーボンニュートラルの浸透により軌道に乗りつつある。
		建設業（経営者）	・資材の調達が厳しい。
		通信会社（総務担当）	・販売は今後も同程度の水準で推移する予定である。
		通信業（企画・売上管理）	・大型スポーツイベントに絡めたメーカーや流通のキャンペーンを期待する。
		不動産業（経営者）	・中東情勢の影響による景気の落ち込みからの回復は、時間が掛かるとみられる。
		税理士事務所	・現状が改善する要因がない。
		食料品製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、包材、資材、原材料費、燃料費が上昇しており、全てを製品価格に転嫁できていない。また、包材、資材、原材料の仕入れも、入荷制限や入荷停止等になる不安がある。販売休止となり、売上減少となることを懸念する。
		食料品製造業（商品統括）	・収入の増加以上に物価が上昇しており、将来の不安が解消されていない。
		木材木製品製造業（営業部長）	・中東情勢の影響を受け資材価格が相当上昇している。早急に価格転嫁交渉を行い利益の確保を行いたい。
		鉄鋼業（総務部長）	・仕事量はやや増えているが、仕入価格の上昇が利益率を圧迫している。
		電気機械器具製造業 （経理）	・中東情勢の影響により、石油関連製品の供給不足による物価上昇が更に進行する。政府の補助が予定されているが、経済全体への影響は避けられず悪化傾向であるとみられる。
		輸送業（経営者）	・今の状態が続くと、良くならないとみられる。
		金融業（副支店長）	・中東情勢の影響で、材料が入らず受注できなくなる。客からは、7月から値上げが始まる等の話があった。実際に材料不足で受注できないところについては、売上や利益に大きな影響がある。
		広告代理店（経営者）	・中東情勢等の影響もあり、建築や資材調達コストが著しく上昇している。好調であったホテル関係もコストダウンを図っている。多くの客先の広告出稿等にも影響が出始めており、やや悪くするとみられる。
	x	広告代理店（経営者）	・中東情勢の影響によるナフサ供給不足がいつ解消されるかが見通せない。
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (四国)		求人情報誌製作会社 (経営者)	・夏休みに向けての短期アルバイト募集の増加が予想される。
		人材派遣会社(総務部長)	・最低賃金引上げ具合による。
		人材派遣会社(オフィス責任者)	・良くも悪くも現状が劇的に変化するようなきっかけがない。
		新聞社[求人広告] (担当者)	・民間は景気が悪いが、官公庁については観光を中心に悪くはない。
		民間職業紹介機関(所長)	・求人状況は例年と大差なく、景気に変化はみられない。外国人留学生向けの求人については減少傾向で、高度人材を目指す留学生については就職活動でかなり苦戦している。
		学校[大学](就職担当)	・中東情勢の影響、あるいは物価上昇の影響が今後どう出てくるか先行きが不透明である。
		求人情報誌(営業)	・中東情勢の影響に左右されるが、ナフサ等原材料関係の先行きが不透明である。各社とも受注控えが起こっている。まだ解決の糸口がみえないため、この先も景気は悪くなるとみられる。
	×	職業安定所(求人開発)	・資材不足の影響から事業所の経営が厳しくなり、雇用にも波及するとみられる。運送コスト等もかなりアップしており、それが事業所で吸収できない場合、商品単価に影響し、景気は更に悪化するとみられる。

11. 九州(地域別調査機関:公益財団法人九州経済調査協会)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		家電量販店(従業員)	・暑くなるとともに冷房器具の需要が増え、更にエアコンの省エネ基準改定を控え、早めに購入する消費者が増加しているため、売上は良くなる。
		住関連専門店(従業員)	・地域でのプレミアム付商品券の企画が7月より実施されると発表された。このことにより予算も前年の2.5倍となり、活力源として大きく期待している。
		タクシー(統括者)	・現在の乗務員数の好調な増加が稼働や収入増加につながるためには数か月が必要である。
		商店街(代表者)	・現状が良いわけではないものの、今後はやや上向く程度である。
		百貨店(企画担当)	・6月からの行政発行のプレミアム付商品券の利用開始に伴い、消費が喚起されプラスに作用することを期待している。
		百貨店(営業担当)	・中東情勢の終息に期待している。
		百貨店(リーダー)	・お中元や初盆の引き出物など贈答品の需要が高まる時期となりやや景気が良くなる。
		百貨店(経営企画担当)	・今月に回復した要因として、地区商業連合会により販売された商品券の効果が考えられる。発売総額が9億円で、有効期限が8月までであるため、この効果は当面の間続くと予想される。
		スーパー(企画担当)	・節約志向に変化はないが、販売手法の転換を図ることで買上点数を増やしたり、売上の確保が期待できる。
		家電量販店(店員)	・今年一年間はこの傾向が続くとみられ、商品の供給状況次第だと推察している。
		家電量販店(従業員)	・エアコンの省エネ基準改定に関する取組への客の反応が想定より良い。
		乗用車販売店(役員)	・今後も、注文再開車種の販売が予定されているため、多くの来客数が見込まれるが、中東情勢の影響により、オイル交換や板金作業等のカーメンテナンスの入庫にやや支障が出てくる。
		その他専門店[コーヒー豆](経営者)	・3か月前と比較するとインバウンドが多くなっている。前年と比較しても特に台湾からのインバウンドが増加し、それに伴い売上も増加している。また、これから夏になるため飲料系のコーヒー需要が多くなり売上が伸びていく。
		その他専門店[書籍](副店長)	・8月に移転を控えているため、3か月後は新店舗での営業となり売上増加が予想される。
	旅行代理店(職員)	・夏のバスツアーやパッケージツアーの販売増加を見込んでいる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・梅雨になるため利用者数の増加が見込め、更にタクシー運賃の改定で単価の上向きが見込める。
		理容室（経営者）	・前月後半から、石油の問題も含め物価が上がり、非常に生活がしにくいという客の声が多くなっている。客の来店期間が延び、相対的に全体の来客数が減少したことで客単価が下がっているが、これから暑くなるため、客単価の上昇を期待している。
		商店街（代表者）	・支援策としてのガソリンや電気代など生活に関わる補助が終了すると消費者の生活は厳しくなる。イラン情勢が終息しなければ、現状のままと予想している。
		商店街（代表者）	・景気が上向き材料が見当たらない。今後、プレミアム付商品券などの様々な給付金も予定されているが、一時的な効果しかないと予想している。
		商店街（代表者）	・大型店舗等の売出しや固定客の維持の難しさで、商店街の専門店是非常に厳しい状況が続いている。
		商店街（代表者）	・今後の客の動きがどの程度当社に流れてくるか読めないため、今まで以上の売上増加は望めない。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・ナフサ関連の商品の値上がりで、一般経費が増加し、利益を相殺すると見込んでいる。
		百貨店（経理担当）	・節約志向は今後も続くと考えられ、衣料品を中心に売上が余り期待できない。
		百貨店（営業担当）	・各種値上げで先行きが不透明である。
		百貨店（業務担当）	・これから梅雨を迎え、気温も落ち着き、例年と同様の動きになると予想している。
		スーパー（店長）	・中東情勢の見通しは不透明であるため、景気が改善するとは考えにくく、今後も当面変わらないと判断している。消費者可処分所得が上昇することがあれば消費支出が増加し、景気が上向きことを期待している。
		スーパー（総務担当）	・現状で消費動向は厳しいが、今後の中東情勢の影響により様々な物が値上がりし、消費マインドが上向き要素はほとんどない。
		コンビニ（経営者）	・石油問題が発生しているが、近いうちに解決されるという雰囲気を感じている。現在の消費のトレンドは当分は続くことと予測している。
		コンビニ（経営者）	・中東情勢の変化により、大きく先行きが変わるとは考えられず、危惧している。客の購入単価は下がっていき、厳しい状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	・物価高と消費税の減税等によって状況は変わってくる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・これからは天候や気温に左右される季節商材が売れてくるが、通常の商品は今までどおり買い控えが続き、売上は伸びないと推測している。
		衣料品専門店	・いまだに明確な物の価格高騰改善の兆しがみられない。
		衣料品専門店（取締役）	・3か月後の8月は異常な暑さになることを想像できる。また、自然災害や世界情勢の影響もあるとみている。
		家電量販店（店長）	・エアコンの省エネ基準改定やナフサ不足による商品の値上げを避けたい消費者からの売上は見込めるが、景気が良くなる材料は何もない。
		家電量販店（店長）	・エアコンの省エネ基準改定を控えた特需で来客数が大幅に増え、エアコン以外の商品も売上を大きく伸ばしている。今年はエアコンにけん引され全体的に前年を上回る状態で推移すると考えている。
		乗用車販売店（代表）	・景気が変わるような要因が見当たらない。
		住関連専門店（経営者）	・中東情勢により、石油関連商品の不足が製品製造に影響している。値上げ幅が大きいと、消費者からは買い控えの傾向がみられる。しかし、夏場に向けてプレミアム付商品券の発行予定があり、消費の刺激や活性化につながることを期待できる。
		一般レストラン（スタッフ）	・仕入高騰により値上げしたため、来客数の減少が続くと予想される。
		観光型ホテル（専務）	・先の見通しは全く立たず、猛暑が旅行に影響すると懸念している。
		観光型ホテル（支配人）	・物価の上昇や中東情勢等の影響により動きが良くない状態が続いているため、今後も現状と変わらず推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（統括者） タクシー運転手	・世界情勢や物価高の先行きが不透明で見通しが難しい。 ・雨や暑さにより、短い距離の利用が増えるため、売上は変わらないと見込んでいる。
		通信会社（企画担当）	・引き合いや相談は継続しており、顧客の投資意欲も比較的高い状況にある。一方で、案件化までに時間を要する傾向がみられ、具体的な受注動向は見通しにくい。今後2～3か月についても販売量は現状と大きく変わらず、横ばいで推移すると見込まれる。
		通信会社（社員）	・特に新商材もないため変わらない。
		通信会社（営業担当）	・起爆剤となるような県レベルのイベントなどが無い。
		観光名所（職員）	・時期的に、来客数の増加が見込める時期となるが、物価の上昇等の不安材料が多く、良くなるとは言い難い。
		競馬場（職員）	・当競馬場でのレース開催を迎えるが、特段大きな変動はないものとみている。
		美容室（経営者）	・2～3か月先になると夏枯れの時期となり、この業界では景気回復が難しい。徐々にではあるが、景気が横ばいになってきている。ガソリン価格など石油問題もあり、消費者は買い控えをしていると考えられ、業界全体が盛り上がりがない状態である。
		美容室（経営者）	・商材単価は高くなり、経費も掛かっているが、客は料金安価なサービスを希望しているため、経営に困っている。中小企業は厳しい状態で深刻な問題である。
		美容室（店長）	・これから暑くなり、また、値上げする商品が多くなることを心配している客が多いが、しばらく景気は変わらない。
		設計事務所（所長）	・今月の状態が2～3か月先の結果となり、この状態が続くため変わらないと考えている。
		商店街（代表者）	・6月は梅雨に入るため、客足の減少は否めない。
		商店街（代表者）	・人口が徐々に減少しているため、当商店街のような小規模商店街は一段と厳しさが増し、今後の状況について懸念している。
		商店街（代表者）	・生活必需品の値上げが度々あり、嗜好品や洋服類が買い控えとなっている。給料が多少上がっても生活の向上にはつながらず、厳しい状況には変わらない。
		商店街（代表者）	・物価高の影響はまだ続くと予想される。観光客の来店は目立ってきているが、通常の客は若干減少し、節約傾向にあると推測される。
		一般小売店〔青果〕 （店長）	・気温が高くなると当地や九州産の野菜が減少するため、東北中心の野菜が多くなる。そのため、流通コストが増加し、価格高騰になる。また、消費者の食欲も減少するため厳しい状況になっていく。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・依然として続く中東情勢の影響やナフサ問題での物価高騰もあり売上は伸び悩むと見込んでいる。
		百貨店（企画担当）	・中東情勢による原油量の減少に伴う影響が出始めると推測している。現時点では、値上げの影響はほとんどみられない。
		百貨店（企画担当）	・クリアランスセールが落ち着く頃だが、暑さが続き、秋物の購買にはつながりにくいと予想している。
		百貨店（営業企画担当）	・中東情勢の影響は今後一層拡大すると想定され、身の回りの消費を抑える傾向は続く。
		スーパー（店長）	・世界情勢の混迷化により、石油関連製品の調達の不透明さが多方面で影響を及ぼし、事業や景気に悪影響を与えていると考えている。
		スーパー（店員）	・中東情勢の影響が、歯磨粉の出荷停止や新製品の延期など小売店でも出始めている。ナフサを使用したニトリル手袋などの値上げも予定されている。客の購入量が増えているため売上が上がり、毎週発注量で悩んでいる。商品の価格が上がることで店の売上が前年よりも上がっている状況である。
		スーパー（経理担当）	・イラン情勢の先行きについて不透明感が続くと予想され、あらゆる物価が上昇していく。
		スーパー（従業員）	・中小の小売業は、販管費等で経費の上昇が年々加速しているため、粗利を使い尽くし経営が容易でない状況である。現場では、働き手が足りず、AIを活用しながら業務改善を行っているものの、システム投資に費用が掛かり、長期金利の利息も増え、ますます厳しい状況になると予測している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・物価高で景気はやや悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・中東情勢が不安定な状況で、多くの業界が原材料の調達に苦慮している。景気はインフレ傾向となり、消費は下降すると予測している。
		コンビニ（経営者）	・気温上昇にもかかわらず夏型商品の販売増加の動きが弱く、節約とディスカウント店利用の流れになっている。
		コンビニ（店長）	・ミニスーパーの進出が目立ち始め、売上に影響が出始めている。
		乗用車販売店（役員）	・中東情勢の長期化による影響でプラスチック部品や油脂類、塗料関連品などの供給に支障が出ているため、新車生産、点検時の油脂不足、板金修理で塗料やシンナー不足など不安要因が多い。
		乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢による原油輸入の停滞が懸念される。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・トレンドアイテムに期待をしているものの、アパレル店に明るい兆しがみえない。前年に小売店や飲食店が複数開業していた反動もあり、ショッピングモール全体としての景気は今よりも低水準になると予測している。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・ゴールデンウィークは売上が増加したが、現在はその分が減少したためプラスの要素が特にならない。実質賃金の伸びがなく物価高に連動した売上増加や来客数減少の傾向は続く。
		スナック（経営者）	・中東情勢の影響による原油やナフサの不足で、今後更に物価が上昇し、それに伴い外食費は節約モードになると予想される。今月の売上は前年並みで、インバウンドの増加で確保できたが、国内客は減少傾向で景気上昇につながるとは考えられない。
		観光型ホテル（総務）	・例年6～8月の第2四半期が良くないが、今年も動きが鈍い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・現在の見込みでは販売量が下がると予想され、それに伴い販売量を増やすために単価を下げる傾向にある。夏休みではあるものの、お盆など時期が限られていることも販売量が下がる要因の1つである。
		旅行代理店（統括者）	・中東情勢は終息せず、現時点では厳しい予測となっている。
		通信会社（役員）	・食品を始めとする生活必需品の値上げが続き、燃料費への補助等も減額、廃止の動きがあり地場経済が回復する見込みが薄い。
		テーマパーク職員	・イラン情勢による物価高の影響により、レジャーへの支出が減少する可能性がある。
		ゴルフ場（従業員）	・原油価格の高騰が続けば、燃料サーチャージの上昇により航空機が飛ばない可能性もあり、国内客だけでは九州各県のゴルフ場経営は厳しい状況になると懸念している。
		ゴルフ場（営業）	・猛暑が予想され、予約が伸び悩んでいる。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・重要な顧客は製造業であるが、塗料の特にシンナーが入荷しないため、この状況が続くと製造できなくなる懸念がある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	・サービス業やフィットネス事業の業界では、安価な無人形態の出店が続いているため、可処分所得の低い若年層の利用が大きく減少している。また、子供のスクール事業への参加申込みも、同様に大きく減少している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・サービスの担い手である人材の確保が業界全体として進んでいない。人員の減少によって介護サービス提供量も減少している。また、介護報酬においては賃上げ財源に充当するための改定増しかなく、基本単位は減少あるいは横ばいであるため、介護事業所の倒産件数も更に増加するとみられる。
		設計事務所（代表）	・ナフサ不足が長引くと予想している。
		住宅販売会社（従業員）	・今の状況はしばらく続くと予想されるが、販売面ではやや厳しい状況になってくる。
		住宅販売会社（従業員）	・中東情勢の影響により、原油やナフサ等が入ってこない状況や補助金の効果などが懸念される。
	x	一般小売店〔生花〕（経営者）	・当店は生花がメインの花屋であるため、これから厳しい夏が始まると生花が長持ちせず、購入を控える客が多くなる。毎年この時期を乗り越えることが大変になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	衣料品専門店(店長)	・石油問題で様々な影響が出ている。
	x	高級レストラン(経営者)	・中東情勢の影響もあり、企業の会食機会が減っている。5月は例年株主総会後の会食が多い時期であるが、時代の流れで来客数は減少傾向となり先行きが読めない状況である。
	x	通信会社(企画担当)	・需要の拡大は見込みにくい。
	x	設計事務所(所長)	・中東情勢の影響がどこまで続くか不透明で、現状では大きく変わることはないと推察される。
企業 動向 関連 (九州)		電気機械器具製造業(総務担当)	・顧客の業績目標の情報からは、良くなると予測している。
		電気機械器具製造業(取締役)	・取引先との連絡を取り合うことが今まで以上に大切になってきている。さらに、市場金利の高騰による調達経費の増加も懸念材料である。
		その他製造業[産業廃棄物処理業]	・取引先の見通しは材料確保のめどがついているため増産傾向にある。
		金融業(経営者)	・会員の拡大策が功を奏し、プラスに転じるとみている。
		経営コンサルタント(代表取締役)	・現時点では石油問題について懸念しているが、近いうちに解決する方向に動けば、景気はかなり上向きになると予測している。
		農林水産業(経営者)	・例年6月は梅雨で厳しい状況となり、7月以降は夏場の消費拡大を期待していた。しかし、今年は石油関連商品の値上げでコストがかさみ、消費者の節約志向で販売も期待できそうになく、中東情勢の影響が出始めたともみている。
		家具製造業(従業員)	・中東情勢の影響により材料等が安定供給されないため、受注に支障を来している。
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・例年の傾向より上半期は横ばいである。
		化学工業(総務担当)	・前年度より拡販等を進める予定であるが、中東情勢の影響等により不安定な状態が続く。
		一般機械器具製造業(経営者)	・プラスチックの材料が入らず、先行きは不透明な状況である。
		一般機械器具製造業(経営者)	・今後営業活動の影響もあり、半導体関連の受注が増える予想している。また、中東情勢による厳しい経済状況であるため、取引先の状況が悪くなる事態も考えられる。
		電気機械器具製造業(経営者)	・人件費や原材料価格の高騰の影響により、増益確保の経営手腕が問われる。
		輸送用機械器具製造業(営業担当)	・現時点では、中国向けガソリン車への影響により引き続き減少傾向が予測され、今月と同等の生産が続くと見込んでいる。
		輸送業(従業員)	・不足している商品の補充のめどがつきにくいいため、良くなることはない。
		輸送業(従業員)	・中東情勢や日中関係などによる影響への対策や改善は難しく、毎月数百から数千品目の値上げが続いている中では、給与が大幅に改善されない限り厳しい状況が続く。
		輸送業(総務担当)	・出荷量が減少した原因にもよるが、大きな景気変動はないとみられる。ナフサ不足によるこん包資材不足は続き、不安材料が多いことを懸念している。
		通信業(経理担当)	・顧客が納品用とする情報機器の供給が滞るかもしれないとの臆測もあるが、現時点では、そのような事象は顕在化していない。
		金融業(調査担当)	・賃上げが物価上昇に追い付いていないという声が根強く、事業者においては資材不足や仕入価格上昇に歯止めがかからない状況にあることから、景気は現状で推移する。
		不動産業(経営者)	・今後の仕事の内容は、余り変わらない。
		新聞社[広告](担当者)	・世界情勢が混とんとしており、明るい兆しが見えない。
	経営コンサルタント(社員)	・消費者はあらゆるものを節約し始めていく。	
	経営コンサルタント(代表取締役)	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に変化がない。	
	経営コンサルタント(社員)	・この数か月ダイレクトメールを発行し期待していたが、反応がないため景気は変わらない。	
	通信業(職員)	・今年度の受注目標と比較すると、営業先情報が大きく不足しているため、今後の営業活動及び情報収集で充当する必要があるが、現時点で見込みが立っていない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業）	・中東情勢の影響が懸念され、これ以上の物価高騰は明らかにマイナス要因である。先行き不透明であるが、早期に終結すれば、心理的なプラス効果も期待できる。
		金融業（営業担当）	・中東情勢の影響により、取引先の建設関連は特に資材や塗料の入手めどが立たず、工事の受注を見合わせているため、売上の減少が他業種にも波及する見通しである。
		広告代理店（従業員）	・世界情勢の混迷化により、ますます不確実性が増しているため、3か月後も景気はやや悪くなっている。
	×	繊維工業（営業担当）	・資材の値上げが進み、徐々に厳しい状況になると予想している。
	×	金融業（調査担当）	・中東情勢は、取引先にかかなりの影響をもたらすと予想している。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村で予算化されている業務で、まだ発注されていない業務もあるが、企画提案はほぼ終了し、今後は入札が大半になると推測される。入札では価格競争が以前より激しくなることが予想される。このため、以前より安く応札する必要があり、受注できない可能性もあるため、今後の景気は悪くなることが予想される。
雇用 関連 (九州)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・既にお中元時期の受注があり、人数も前年と同等数、若しくは、増員の見込みである。
		人材派遣会社（社員）	・今後は、企業側の採用に対する慎重姿勢が続くとみられるものの、慢性的な人手不足を背景に一定の人材需要は継続するとみられる。短期案件を中心とした依頼は継続する見込みであり、全体としては現状維持で推移する。
		人材派遣会社（社員）	・例年、夏場に向けて受注などの動きが出てくるため、前年並みの派遣受注、稼働数が保てると見込んでいる。景気動向の良さを実感するまでの材料が現時点では見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・夏や初秋に向けた猛暑対策のサービスやグッズ購入による個人消費で好景気が期待できる。
		職業安定所（職員）	・求人数は増加傾向であるが、採用数は大きな変動はみられず、事業所からは中東情勢の影響に伴い、今後の各種原材料の入荷等に不安を抱く声もあり不透明な状況は続く。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・イラン情勢の影響によりエネルギー価格の変動やナフサ不足の懸念など供給面の不安定さが高まり、企業の生産や採用姿勢に慎重さがみられる。また、物価上昇に対して実質賃金の改善が遅れているため、個人消費も力強さを欠いている。求人動向も業種間のばらつきや企業の採用選別の傾向が高まり、学生の就職活動は安心感が限定的である。この状況から、短期的に景気が大きく改善する要因は乏しく、現状維持から大きな変化はないとみられる。
		人材派遣会社（社員）	・中東情勢による物価上昇が顕著であり、今後の人員計画が不透明になる可能性が高い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・大企業は円安の追い風で輸出が好調となり、賃上げも進んでいる。金融機関も金利上昇を背景に収益が改善し、地元の鉄道大手は好決算が続いている。一方で、中小企業は原材料価格の高騰や人件費負担が重く、消費税の仕入れ控除が使えないため社員雇用を避け、業務委託に依存する傾向が高まっている。こうした構造により、企業規模や業種による格差が拡大しており、全体として景気の底堅さは感じにくい。
		職業安定所（職員）	・物価高騰が更に進むと予想される。
	職業安定所（職員）	・中東情勢が落ち着いても、資材不足等の影響が当面続くことを懸念している。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・AIを導入する企業の増加に伴い、事務職の人員減少が顕著である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		家電量販店（営業担当）	・5月は前年横ばいだが、今年は全体的にエアコン、冷蔵庫、テレビを中心に伸長する流れとみられる。
		その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	・夏場は1年で最も繁忙になる時期なので、現状よりも景気は良くなる。ただし、中東情勢による食料資材不足や原材料価格の高騰が懸念される。
		百貨店（経営担当）	・本格的な夏物衣料品需要の増加が見込まれる。
		スーパー（企画担当）	・3か月後に年間最大の商戦である旧盆を迎える。今夏は夏休みの観光需要が更に期待できることに加え、国による電気料金の負担軽減支援も再開される。そのため、地元客・観光客共に消費マインドの底上げが見込まれる。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・夏の準備で注文が増加するとみている。
		一般レストラン（代表者）	・梅雨明け後の来客が増加すると見込んでいる。
		通信会社（サービス担当）	・夏季ボーナスや夏季キャンペーンが控えており、買換え需要の喚起によってスマートフォンの販売量がやや増加すると見込まれる。
		観光名所（職員）	・梅雨明け後には来客数が増加すると見込まれる。
		商店街（代表者）	・飲食業が増加し、小売店は減少している状況であり、来客の様子をみても景気判断が難しい。
		一般小売店〔土産〕（営業部長）	・今後はプラスチック製の包装や印刷物など、ナフサ由来の原材料等の入荷が困難になることを懸念している。
		コンビニ（店長）	・店舗周辺の住宅工事が終わった後は、入居者だけでなく近隣住民が増加する見込みであるため、若干の来客数増加を見込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	・月初めは好調だったが、中旬から下旬にかけて、客の反応が鈍くなった。売上の伸びも良くないため、景気が良くなる気配がみられない。
		衣料品専門店（経営者）	・今は景気が良くなるような材料よりも悪くなるような懸念材料が目立ち、先行きが読めない。
		乗用車販売店（営業担当）	・中東情勢の影響により、今後も良くなる要素が見当たらない。
		観光型ホテル（専務取締役）	・物価高騰等による旅行の手控えなど中東情勢の影響も懸念されるところではあるが、先行きについては決して悲観される状況にはない。今後も沖縄観光への影響は少なく、このまま一進一退の状況が続くと見込んでいる。
		観光型ホテル（総支配人）	・前年と比較して大型レジャー施設需要の違いがあるため一時的な予約時期の変化はあるものの、最終的に例年どおりの需要を見込んでいる。
		観光名所（職員）	・仕入れが値上がりして小売価格も上昇した分、変わらないとみている。
		住宅販売会社（営業担当）	・若年層の住宅取得意欲が高まっており、住宅ローン金利上昇はあるものの、堅調な推移が見込まれる。
		住宅販売会社（役員）	・県内の地価公示価格は13年連続で上昇しており、観光需要や投資の流入を背景に商業地やリゾート地は堅調に推移している。一方で、長引く資材価格や人件費の高騰により建築コストが跳ね上がっており、物件の総取得額は地元の実需層の手が届きにくい水準で高止まりしている。このため、割安感のある中古物件や郊外への需要分散が進んでおり、市場全体としては売上の勢いが相殺され横ばいで推移している。先行きもこの傾向が続くと見込んでいる。
		一般小売店〔酒〕（店長）	・物価上昇が止まらないため、景気はやや悪くなるとみている。
	スーパー（店舗管理）	・電気・ガス料金負担軽減支援事業が実施されるが、市場の活性化には直結しないとみられる。また、1人親世帯への救済などが実施されているが恩恵は限定的とみている。	
	コンビニ（経営企画担当）	・ナフサ不足や包材類の原料価格高騰により、販売価格を更に取り上げざるを得ない状況である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（マネージャー）	・物価高や原油価格高騰の負担が積み上がることで旅行商材にも反映されるため、結果として旅行控えが増えていくとみている。
		通信会社（営業担当）	・夏に向けて電気代が家計の負担を圧迫するなか、エルニーニョ現象による影響も見込まれる。また、農作物の不作に伴う食料品の高騰も懸念される。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年割れの状態で、同業他社も苦戦していることから厳しい見込みである。
	x	観光型ホテル（企画担当）	・5月の販売室数が前年比30%増加に対し、5月末時点での8月の予約室数が前年比3%減少で、マイナスに転じている。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-
		輸送業（総務経理担当）	・景気は良くなる傾向ではあるが、離職者や下請業者への支払、事故関連等が懸念事項である。
		輸送業（経営企画部）	・中東情勢及び物価上昇は継続すると見込んでいる。
		通信業（総務）	・夏場の本格的な観光シーズンを迎え好調が期待できる。他方で中東情勢を背景とした原油価格の高騰や、物価上昇に伴う家計の節約志向など先行きの不透明感は依然としてある。
		広告代理店（営業担当）	・県内企業における物価高騰や人件費高騰の影響は続くともみており、販売促進予算が増加することは期待できない。
		会計事務所（所長）	・賃上げによる実質賃金増加の見通しが立たない限り、需要喚起はインバウンド頼りの一過性に依存することになるとみている。
		窯業土石業（取締役）	・中東情勢の長期化による原材料不足及び価格高騰が予想され、製造原価の上昇による利益率低下が見込まれる。
		建設業（経営者）	・建築原価の上昇により受注が難しくなると考える。現在受注している案件でも原価高騰の影響を受け始めている。
	x	-	-
雇用 関連 (沖縄)		-	-
		-	-
		人材派遣会社（総務担当）	・物価上昇等の影響は今後も続くとみている。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・需要と供給の不均衡が続いており、今後も継続するとみている。
		求人情報誌製作会社（審査）	・2～3か月後は接客・サービス業やホテル業などが繁忙期を迎えるため、採用活動は抑制される。また、物価高や燃料費の上昇に伴い、その他の業種でも採用活動を抑制する動きが広がるとみられる。
		職業安定所（職員）	・中東情勢の先行きが見通せず、石油関連の調達が懸念されている。
	x	-	-